

目標設定型排出量取引制度における
優良大規模事業所の認定基準
(第二区分事業所)
(第三計画期間版)

2021（令和3）年7月

埼玉県環境部

凡 例

青字 : 「総量削減義務と排出量取引制度における優良特定地球温暖化対策事業所の認定基準（第二区分事業所）（第三計画期間版）」（令和3年4月 東京都環境局）と異なる部分（表紙は黒字で表記しています）

優良大規模事業所の認定基準（第二区分事業所）

1 目的等

(1) 目的

この基準は、埼玉県地球温暖化対策に係る事業活動対策指針（以下「指針」という。）別表第4備考に基づき、地球温暖化対策の推進の程度が優れた事業所（同表の第二区分事業所に限る。）の基準を定めることを目的とする。

(2) 定義

この基準において、次に掲げる用語の意義は、それぞれ次に定めるとおりとする。

ア 大規模事業所 指針第3 1に規定する大規模事業所をいう。

イ トップレベル事業所 指針別表第4備考4に規定する地球温暖化対策の推進の程度が極めて優れた事業所をいう。

ウ 準トップレベル事業所 指針別表第4備考3に規定する地球温暖化対策の推進の程度が特に優れた事業所をいう。

エ トップレベル事業所等 トップレベル事業所及び準トップレベル事業所をいう。

オ 認定申請事業所 トップレベル事業所等の認定を希望する者が認定の申請を行う大規模事業所をいう。

カ 認定申請事業所の用途 認定申請事業所を構成する単一の又は複数の用途として、認定申請事業所ごとに、別に定める優良大規模事業所認定ガイドライン（第二区分事業所）（以下「認定ガイドライン」という。）に基づき決定するものをいう。

(3) 基本的考え方

ア トップレベル事業所等は、現時点で実用段階にある省エネルギー対策の取組状況を総合的に評価して認定する。

イ トップレベル事業所等に求める地球温暖化対策の水準は、大規模事業所の目標として達成可能なものとする。

ウ 認定基準は、省エネルギー技術の進展に合わせて、見直しを行うものとする。

エ トップレベル事業所等の認定を公正に行うため、省エネルギー分野の専門家で構成された委員会（以下「トップレベル審査委員会」という。）を設置し、意見を聴くものとする。

2 トップレベル事業所等の認定

(1) トップレベル事業所等の認定

埼玉県（以下「県」という。）は、認定申請事業所が次の事項を全て満足しているとき、トップレベル事業所等に認定する。

ア 地球温暖化対策推進状況評価書について、登録検証機関の検証の結果が「適合」であって、その検証の方法が適正であること、又は、検証の結果が「県と要協議」であるが、協議の結果、「適合」に相当するものと認められること。

イ 県による審査及びトップレベル審査委員会において、地球温暖化対策推進状況評価書の内容が適正と認められること。

ウ 地球温暖化対策推進状況評価書における総合得点が、(2)に定めるトップレベル事業所等の地球温暖化対策の認定水準を満足していること。

エ エネルギーの使用の合理化に関する法律（昭和54年法律第49号）第5条第1項に基づく

工場又は事業場におけるエネルギーの使用の合理化に関する事業者の判断の基準（平成21年経済産業省告示第66号）に規定するところにより管理標準を設定し、それに基づきエネルギーの使用の合理化に係る調整、計測・記録、保守・点検等を適切に行っていること。

（２）トップレベル事業所等の地球温暖化対策の認定水準

認定申請事業所は、3（１）に定める評価項目について、3（３）に定める計算方法に従い、認定申請事業所の**地球温暖化対策**の推進の程度を評価する総合得点を算定する。

トップレベル事業所の地球温暖化対策の認定水準は、3（２）に定めるトップレベル事業所の必須要件を満足し、かつ、総合得点（**県**が補正した場合にあっては、補正後の総合得点）が80.0点以上であることとする。

準トップレベル事業所の地球温暖化対策の認定水準は、3（２）に定める準トップレベル事業所の必須要件を満足し、かつ、総合得点（**県**が補正した場合にあっては、補正後の総合得点）が70.0点以上であることとする。

3 評価項目及び総合得点算定方法

大規模事業所における地球温暖化対策の推進の程度を評価する項目（以下「評価項目」という。）を設定する。評価項目は、認定申請事業所がトップレベル事業所等に認定されるための要求事項であるとともに、**大規模事業所**が効果的に地球温暖化対策を推進するための対策メニューを示すものである。

認定申請事業所の地球温暖化対策の推進の程度は、別表第1の評価項目の欄に掲げる削減対策に対して、当該評価項目ごとに別表第2の取組状況の程度の欄に掲げる区分又は同表の評価点の欄に掲げる式の値により把握するものとする。

（１）評価項目

評価項目は、現時点で実用段階にある省エネルギー対策等を基本に設定し、Ⅰ 一般管理事項、Ⅱ 設備及び建物の性能に関する事項、Ⅲ 設備及び事業所の運用に関する事項に分類して、別表第1の評価項目の欄に掲げる。なお、Ⅱ及びⅢについては、ユーティリティ設備等、建築設備、建物、再生可能エネルギー・未利用エネルギー（以下これらの分類に属する評価項目を「共通部分」という。）、生産・プラント・特殊設備、上水道施設、下水道施設、廃棄物処理施設にさらに分類している。

共通部分は、全ての用途の認定申請事業所に共通する評価項目である。生産・プラント・特殊設備は、上水道施設、下水道施設及び廃棄物処理施設のいずれにも該当しない工場その他の用途（以下「工場その他の用途」という。）の認定申請事業所に限定して用いられる評価項目である。上水道施設、下水道施設、廃棄物処理施設は、それぞれ上水道施設、下水道施設、廃棄物処理施設の用途の認定申請事業所に限定して用いられる評価項目である。

なお、工場その他の用途の認定申請事業所において、エネルギーの使用の合理化に関する法律第14条第3項の規定により主務大臣が定める中長期的な計画の作成のための指針で検討対象として掲げられている事項のうち、設備性能の向上に資するものを平成17年度以降に導入し、エネルギー使用量削減の有効性が認められるときは、当該事項（以下「追加評価事項」という。）を当該事業所における評価項目に加えることができる。

また、各評価項目は、重要度や難易度等を考慮して、必須項目、一般項目、加点項目に分類する。各評価項目の評価分類は、別表第1の評価分類の欄において「○」の印が記された分類とする。なお、評価項目に係る設備の設置年度が、別表第1の緩和措置等の欄に掲げる条件に該当する場合は、同欄に掲げるところにより、評価分類を「△」の印が記された分類

に変更する。

「必須項目」：全ての認定申請事業所において、評価の対象とする。また、トップレベル事業所等が必ず取り組むべきものとして評価を行う。

「一般項目」：全ての認定申請事業所において、評価の対象とする。また、トップレベル事業所等が優先的に取り組むべきものとして評価を行う。

「加点項目」：認定申請事業所において、取組を行っているとき、評価の対象とする。

ただし、「必須項目」及び「一般項目」については、評価対象となる設備等が認定申請事業所に存在しない場合であって、別表第2の評価点の欄に「－」印の選択肢があるときは、評価項目から除外するものとする。

(2) トップレベル事業所等の必須要件

必須項目である評価項目について、それぞれ、次のとおり不合格要件を定める。

ア 「1 a. 1 高効率蒸気ボイラーの導入」の不合格要件

設置年度が平成7年度（1995年度）より前又は平成24年度（2012年度）より後の蒸気ボイラーを1台でも使用している場合であって、全ての蒸気ボイラーのボイラー効率、ボイラー機種に応じて別表第2の表1. 3の水準の欄に掲げる数値未満であること。

イ 「1 b. 1 高効率熱源機器の導入」の不合格要件

設置年度が平成7年度（1995年度）より前又は平成24年度（2012年度）より後の熱源機器を1台でも使用している場合であって、全ての熱源機器の定格COP又はボイラー効率が、熱源機種に応じて別表第2の表2. 3又は表2. 4の水準の欄に掲げる数値未満であること。

ウ ア及びイ以外の評価項目の不合格要件

当該評価項目の取組状況の程度が、別表第2の取組状況の程度の欄に掲げる選択肢において最も低い取組状況であること。

トップレベル事業所の必須要件は、必須項目である評価項目について不合格要件に該当するものの数が0であることとする。

準トップレベル事業所の必須要件は、最も古い建物の竣工年度が平成25年度（2013年度）以降に竣工した認定申請事業所にあつては、必須項目である評価項目について不合格要件に該当するものの数が2以内であることとし、最も古い建物の竣工年度が平成24年度（2012年度）以前に竣工した認定申請事業所にあつては、必須項目である評価項目について不合格要件に該当するものの数が4以内であることとする。

なお、不合格要件は、次に掲げる基本的な考え方にに基づき定めている。

ア 継続的に削減対策を推進するための体制等の整備、設備の管理業務等が十分に行われていること。

イ 現時点で実用段階にある高効率機器が導入されていること。

(3) 総合得点の計算方法

ア 総合得点

総合得点は、イに定める配点において必須項目及び一般項目である評価項目の得点を合計して基礎得点とし、これに加点項目である評価項目の得点を加算した得点（小数点以下第1位未満の数値を切り捨てて得た数値）とする。なお、加点項目の合計点数は、20.0点を上限とする。

各評価項目の得点は、ウに定める取組状況の評価点に、エに定める重み係数を乗じて得た数値とする。

イ 配点

評価項目（加点項目を除く。）を次のⅠ、Ⅱ、Ⅲの区分に分類し、各評価項目の区分の配点を次のとおり定める。

Ⅰ 一般管理事項：10点

Ⅱ 設備及び建物の性能に関する事項：60点

Ⅲ 設備及び事業所の運用に関する事項：30点

ウ 取組状況の評価点

取組状況の評価点（以下「評価点」という。）は、各評価項目に対する評価内容に応じて1点から0点の間で定めるものであり、取組状況の程度に応じて別表第2の評価点の欄に掲げる点数又は同欄に掲げる方法により算定した数値（小数点以下第3位未満の数値を四捨五入して得た数値）とする。

別表第2の取組状況の程度の欄に掲げる選択肢の選択及び評価点の算定に用いる数量の把握については、別表第2の備考に掲げる方法等及び認定ガイドラインに基づき行うものとする。

なお、別表第3に掲げる評価項目については、当該評価項目の評価対象の欄に掲げる設備等に係る数量を用いて取組状況の程度を判断する。

エ 重み係数

重み係数は、評価項目ごとに次に掲げる式により算定する数値とする。

$$\text{重み係数} = K_1 \times K_2 \times K_3 \times K_4$$

この式において、 K_1 、 K_2 、 K_3 、 K_4 は、それぞれ次の数値を表すものとする。

K_1 Ⅰ 一般管理事項にあつては、(ア)に定める要求事項の配分比率、
Ⅱ 設備及び建物の性能に関する事項及びⅢ 設備及び事業所の運用に関する事項にあつては、(イ)に定めるエネルギー消費先比率

K_2 Ⅰ 一般管理事項にあつては、(ウ)に定める要求事項内の配分比率、
Ⅱ 設備及び建物の性能に関する事項及びⅢ 設備及び事業所の運用に関する事項にあつては、(エ)に定める省エネ率

K_3 (オ)に定める適用範囲補正係数

K_4 (カ)に定める得点換算係数

(ア) 要求事項の配分比率

要求事項の配分比率は、I 一般管理事項における各評価項目の区分（1. CO₂削減推進体制の整備、2. 図面、管理標準等の整備など）ごとの重要度に応じて設定するものである。

各評価項目の要求事項の配分比率は、当該評価項目が属する別表第4の区分の欄に掲げる区分ごとに、要求事項配分比率の欄に掲げる数値とする。

(イ) エネルギー消費先比率

エネルギー消費先比率は、当該認定申請事業所のエネルギー消費機器（別表第5のエネルギー消費先区分の項目及び細目の欄に掲げるとおりに区分する。）ごとのエネルギー消費量の全エネルギー消費量（細目が「外皮」に該当するエネルギー消費量を除く。）に対する比率であり、各評価項目について当該認定申請事業所のエネルギー消費量にどの程度の影響を与えるかを示すものである。外皮のエネルギー消費先比率は、別表第7に示す用途ごとの外皮熱負荷原単位に当該認定申請事業所の用途ごとの床面積を乗じて得た数値を合計することにより求めるものであり、建物の省エネルギー性能に関する評価項目について当該認定申請事業所のエネルギー消費量にどの程度の影響を与えるかを示すものである。

各評価項目のエネルギー消費先比率は、当該評価項目が関係するエネルギー消費先区分（別表第6の当該評価項目のエネルギー消費先区分の欄に掲げるものとする。）の当該認定申請事業所におけるエネルギー消費先比率として、次に定める方法により求める数値とする。

認定申請事業所におけるエネルギー消費先区分（細目）ごとのエネルギー消費量は、認定申請事業所内の全てのエネルギー消費機器に関して、エネルギー消費機器又は機器群ごとに計量器等による実測又は設備仕様及び実稼動条件に基づく推計により求めたエネルギー消費量を、区分ごとに合計することにより求めるものとする。ただし、エネルギー消費量が多いものとして認定ガイドラインに示すエネルギー消費機器を除き、この方法でエネルギー消費量を求めることが困難な機器又は機器群については、単位面積当たりのエネルギー消費量等に基づく推計により求めることができる。

認定申請事業所全体のエネルギー消費量は、エネルギー消費先区分（細目「外皮」を除く。）ごとのエネルギー消費量を合計することにより求める。

(ウ) 要求事項内の配分比率

要求事項内の配分比率は、1. CO₂削減推進体制の整備、2. 図面、管理標準等の整備など5つの評価項目の区分ごとに、当該区分の中における各評価項目の重要度に応じて設定するものである。

各評価項目の要求事項内の配分比率は、別表第4の要求事項内の配分比率の欄に掲げる数値とする。

(エ) 省エネ率

省エネ率は、各評価項目に係る削減対策を実施した場合における平均的な省エネ率を表すものである。

各評価項目の省エネ率は、別表第6の省エネ率の欄に掲げる数値とする。

ただし、追加評価事項の省エネ率については、当該事項に係る削減対策による前年度

のエネルギー消費量の削減量の実績値（一次エネルギー換算値。以下「エネルギー削減量実績値」という。）と、前年度の認定申請事業所全体のエネルギー消費量（別表第5に示すエネルギー消費先区分（細目「外皮」を除く。）ごとのエネルギー消費量の合計値で、一次エネルギー換算値）の実績値との比の値とする。

この場合において、エネルギー削減量実績値は、計量器等による実測値又は設備仕様及び実稼動条件等に基づく推計値とする。複数の削減対策を追加評価事項としている場合にあっては、削減対策ごとのエネルギー削減量実績値を合計した値を認定申請事業所のエネルギー削減量実績値とする。

（オ）適用範囲補正係数

適用範囲補正係数は、設備機器等の適用範囲により各評価項目の省エネ率を補正するものである。

各評価項目の適用範囲補正係数は、別表第6の適用範囲補正係数の欄が空欄でない評価項目にあっては、別表第8の適用範囲補正係数の欄に掲げる方法により算定される数値（小数点以下第3位未満の数値を四捨五入して得た数値）とし、それ以外の評価項目にあっては1とする。なお、適用範囲補正係数の算定に必要な設備等に係る数量を別表第3に掲げる。

（カ）得点換算係数

必須項目及び一般項目の評価項目における得点換算係数は、Ⅰ 一般管理事項、Ⅱ 設備及び建物の性能に関する事項、Ⅲ 設備及び事業所の運用に関する事項の評価項目の区分ごとに、配点を最高点で除した数値とする。評価項目の区分ごとの最高点は、認定申請事業所が該当する必須項目及び一般項目の評価項目について、次に掲げる式により算定する数値を合計したものとする。

$$\text{評価項目の区分ごとの最高点の合計} = \Sigma (K_1 \times K_2 \times K_3)$$

この式において、 K_1 、 K_2 、 K_3 は、それぞれ次の数値を表すものとする。

- K_1 Ⅰ 一般管理事項にあっては、(ア)で定める要求事項の配分比率、
Ⅱ 設備及び建物の性能に関する事項及びⅢ 設備及び事業所の運用に関する事項にあっては、(イ)に定めるエネルギー消費比率
- K_2 Ⅰ 一般管理事項にあっては、(ウ)に定める要求事項内の配分比率、
Ⅱ 設備及び建物の性能に関する事項及びⅢ 設備及び事業所の運用に関する事項にあっては、(エ)に定める省エネ率
- K_3 (オ)に定める適用範囲補正係数

また、加点項目の評価項目における得点換算係数は、当該加点項目が属する評価項目の区分の得点換算係数に、0.8を乗じた数値とする。

（４）複数のエネルギー管理責任者が存在する場合の総合得点の算定方法

認定申請事業所における地球温暖化対策の推進の程度は、原則として、当該事業所全体を一括して把握するものとする。しかしながら、認定申請事業所（上水道施設、下水道施設、廃棄物処理施設に該当するものを除く。）において、複数のエネルギー管理責任者が存在し、評価項目の取組状況の一括した把握が難しい場合であって、エネルギー管理責任者ごとのエ

エネルギー管理区分の範囲及びエネルギー管理区分ごとのエネルギー消費量が明確に区別できるときは、3（3）の計算方法を基本として、次のアからオまでに定める方法により総合得点を算定できる。

ア 各評価項目の評価分類

各評価項目の評価分類は、別表第1に掲げるとおりとするが、複数のエネルギー管理責任者が存在する場合には、次に定めるところにより設備の設置年度による緩和措置を適用できるかどうかを判断するものとする。

設備の設置年度による緩和措置の適用がある評価項目については、全てのエネルギー管理責任者に係る当該認定事業所の全ての設備の中で最も新しい設備の設置年度及び最も古い設備の設置年度で緩和措置の適用又は不適用を判断する。

イ トップレベル事業所等の必須要件

トップレベル事業所等の必須要件は、3（2）のとおり判断を行うものとするが、複数のエネルギー管理責任者が存在する場合には、次に定めるところにより必須要件を満足しているかどうかを判断するものとする。

必須項目である評価項目について、エネルギー管理責任者の中に不合格要件に該当しない者が一人でもいる場合には、当該評価項目について、認定申請事業所としては不合格要件に該当しないものと判断する。

ウ 各評価項目の得点

エネルギー管理責任者ごとに、その管理区分の範囲を一事業所とみなして、評価項目の取組状況の程度を把握し、3（3）の計算方法により評価項目ごとに得点を求める。

3（3）エ（エ）に示す追加評価事項の省エネ率については、エネルギー管理責任者ごとに、その管理区分の範囲のエネルギー消費量を、認定申請事業所全体のエネルギー消費量とみなして算定する。

認定申請事業所としての各評価項目の得点は、複数のエネルギー管理責任者により算出された評価項目ごとの得点を、エネルギー管理責任者ごとのエネルギー消費量が認定申請事業所全体のエネルギー消費量に占める割合で加重平均した数値（小数点以下第3位未満の数値を四捨五入して得た数値）とする。

エ 一部のエネルギー管理責任者における除外項目の取扱い

一部のエネルギー管理責任者のみにおいて除外項目となった評価項目は、認定申請事業所では評価対象として取り扱うこととする。

認定申請事業所としてのその評価項目の得点は、その評価項目を評価対象としたエネルギー管理責任者の得点を、当該エネルギー管理責任者ごとのエネルギー消費量が認定申請事業所全体のエネルギー消費量に占める割合で加重平均した数値（小数点以下第3位未満の数値を四捨五入して得た数値）とする。

オ 総合得点

総合得点は、アに基づき評価項目ごとの認定申請事業所としての評価分類を決定し、ウ及びエに基づき必須項目、一般項目及び加算項目である評価項目ごとに認定申請事業所としての得点を算定した上で、必須項目及び一般項目である評価項目の得点を合計して基礎

得点とし、加点項目である評価項目の得点を加算した得点とする。なお、加点項目の認定申請事業所としての合計点数は、20.0点を上限とする。

別表第1

評価項目の区分	No.	評価項目	評価内容	評価分類		緩和措置等	
				必須項目	一般項目		
1. CO2削減推進体制の整備	1.1	CO2削減推進会議等の設置及び開催	CO2削減推進会議が設置され、どの程度の頻度で実施されているか。	○			
	1.2	PDCA管理サイクルの実施体制の整備	PDCA管理サイクル(計画・実施・確認・処置)の実施体制がどの程度整備されているか。	○			
	1.3	ISO14001の取得	ISO14001が取得されているか。		○		
	1.4	CO2削減に関するQCサークル活動、改善提案制度の導入	CO2削減に関するQCサークル活動、改善提案制度が導入されているか。		○		
	1.5	エネルギー管理優良工場、省エネ大賞等の表彰	エネルギー管理優良工場、省エネ大賞[省エネ事例部門]等で表彰されているか。		○		
	2. 図面、管理標準等の整備	2.1	図面、改修履歴等の整備	竣工図、機器完成図、改修履歴がわかる図面等が、どの程度整備されているか。	○		
		2.2	設備台帳等の整備	エネルギー使用機器の管理のために、設備台帳等が、どの程度整備されているか。	○		
		2.3	管理標準等の整備	エネルギー及び運転操作マニュアルが整備されているか。	○		
	3. 主要設備等に関する計測・計量及び記録	3.1	エネルギー管理システムの導入	ユーティリティ設備(蒸気供給、熱源、ユーティリティ及び圧縮空気)、生産工程・処理工程ごとのエネルギー使用量を総合的に管理できるエネルギー管理システムが導入されているか。	○		
		3.2	電力負荷状況、発電状況等の把握に必要な計測・計量設備の導入	電力負荷状況、発電状況並びに各変圧器の需要率、負荷率及び不平等の把握に必要な計測・計量設備が、一次側の電圧が400V以上の変圧器全数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○		
		3.3	エネルギー消費先別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入	エネルギー消費先別の細目の電力量・燃料消費量・熱量の把握に必要な計測・計量設備による一次エネルギー実測値が、事業所全体のエネルギー消費量に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○		
	4. エネルギー消費量・CO2排出量の管理	3.4	系統別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入	部署別、工程別、設備別に系統を分割し、その系統別の電力量・熱量・蒸気量・圧縮空気量を含む使用量の把握に必要な計測・計量設備が、電力量は動力機及び分電盤総面数、熱量、蒸気量及び圧縮空気量は全系統数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○		
		3.5	管理日報・月報・年報の作成	管理日報、月報及び年報の作成が実施されているか。	○		
		3.6	ユーティリティ設備の分析に必要な計測・計量設備の導入	ユーティリティ設備(蒸気供給、熱源、ユーティリティ及び圧縮空気)のエネルギー使用量や運転効率等の分析に必要な電力量、燃料消費量、熱量、流量、温度、蒸気量、圧縮空気量、給水量等の計測・計量設備が、設備区分の数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○		
4.1		生産工程・処理工程のエネルギー管理	生産工程・処理工程の稼働状況に応じたエネルギー使用状況の管理や分析が実施されているか。	○			
4.2		エネルギー消費特性の把握、エネルギー消費原単位の算出及び管理	エネルギー消費特性の把握、建物全体のエネルギー消費原単位算出及び類似の建物との比較により、省エネルギー状況の管理が実施されているか。	○			
5. 保守・点検の管理	4.3	CO2排出量の管理	事業所全体のCO2排出量及び原単位の管理がどの程度の頻度で実施されているか。	○			
	4.4	CO2削減目標の設定、CO2削減対策計画の立案及び実績の集約・評価の実施	2024年度までのCO2排出削減に向けた目標を設定し、CO2削減対策項目ごとの具体的な計画の立案及び実績の集約・評価がどの程度の頻度で実施されているか。	○			
	4.5	CO2削減対策の啓発活動の実施	空調・照明等の使用時間短縮、事務用機器・パソコン等の省電力化、冷凍冷蔵庫・プリンター等の効率運用などCO2削減対策に関する啓発活動が実施されているか。	○			
	4.6	改善策の立案・実施及び効果検証の実施	エネルギーマネジメントシステム等のデータの活用等により問題点を抽出し、優先的に改善すべき課題の決定、具体的な対策・計画及び省エネ・省資源などの改善策の立案と実施、その効果の検証がどの程度の頻度で実施されているか。	○			
	4.7	ユーティリティ設備の運転解析の実施	ユーティリティ設備(蒸気供給、熱源、ユーティリティ及び圧縮空気)のエネルギーデータの運転解析により、需要パターンに応じた機器の選択と稼働率の選定等、運用実態に即した運転計画と運転効率の検証が、設備区分の数(対象設備が無い場合を除く。)に対して、どの程度の割合で実施されているか。	○			
4.8	従業員等への環境・エネルギー情報提供システムの導入	イントラネット等を通じて、従業員等がいつでも環境・エネルギー情報を見ることができ、状況を把握する見える化のシステムが導入され、どの程度の頻度でデータが更新されているか。		○			
5.1	保守・点検計画の策定及び実施	燃焼設備及び動力設備の保守・点検計画の策定及び計画に基づいた保守・点検の実施がどの程度実施されているか。	○				

I	a. 蒸気供給設備	高効率蒸気ボイラーの導入	高効率蒸気ボイラーが、全ての蒸気ボイラー(地域冷暖房受入を含む。)に対して、どの程度導入されているか。	○	△	全ての蒸気ボイラーの設置年度が1995年度から2012年度までの場合は一般項目とする。	
II	設備及び建築物の性能に関する事項	1a.1	蒸気ボイラーのエコノマイザー又はエアヒーターの導入	導入時にエコノマイザー等が未設置であった蒸気ボイラーの全てに、追加的なエコノマイザー又はエアヒーターが導入されているか。	○		
		1a.2	蒸気ボイラーのエコノマイザー又はエアヒーターの導入	蒸気ボイラーのエコノマイザー等が未設置であった蒸気ボイラーの全てに、追加的なエコノマイザー又はエアヒーターが導入されているか。	○		
		1a.3	蒸気弁・フランジ部の断熱	蒸気弁及びフランジ部が、どの程度断熱されているか。	○		
		1a.4	蒸気ドラントクの断熱	全ての蒸気ドラントクが断熱されているか。	○		
		1a.5	蒸気ボイラーの台数制御の導入	蒸気ボイラーの台数制御(オペレーターによる制御を含む。)が導入されているか。	○		
		1a.6	蒸気ドラントク回収設備の導入	蒸気ドラントク回収設備が、定格蒸気消費量(直接利用するものを除く。)に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○		
		1a.7	蒸気ドラントクのクローズド回収方式の導入	蒸気ドラントク回収にクローズド回収方式が、定格蒸気消費量(直接利用するものを除く。)に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○		
		1a.8	蒸気ボイラーの小型分散システムの導入	蒸気ボイラーの小型分散システムが導入されているか。	○		
		1a.9	省エネ型スチームトラップの導入	使用用途に適した省エネ型スチームトラップが、スチームトラップの全個数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○		
		1a.10	蒸気ボイラーの押込送風機インバータ制御の導入	導入時に押込送風機インバータ制御が未対応であった蒸気ボイラーの全てに、追加的な押込送風機インバータ制御が導入されているか。	○		
		1a.11	不要蒸気配管の撤去・蒸気配管ルート・サイズの変更	放熱ロス防止のために、不要蒸気配管の撤去、蒸気配管のルート又はサイズの變更のいずれかが行われているか。	○		
		1a.12	圧力差タービンの導入	高圧蒸気ラインと低圧蒸気ラインがある場合、圧力差タービンが導入されているか。	○		
		1a.13	フラッシュ蒸気利用設備の導入	フラッシュ蒸気利用設備が導入されているか。	○		
		1a.14	蒸気減圧エネルギー動力回収設備の導入	蒸気減圧エネルギー動力回収設備が導入されているか。	○		
		1a.15	アキュムレーター	アキュムレーターが導入されているか。	○		
		1a.16	負荷に適した容量のパナナーへの変更	パナナー容量が過大な場合、負荷に適した容量のパナナーに変更されているか。	○		
		1b.1	高効率熱源機器の導入	高効率熱源機器が、全ての熱源機器(地域冷暖房受入を含む。)に対して、どの程度導入されているか。	○	△	全ての熱源機器の設置年度が1995年度から2012年度までの場合は一般項目とする。
		1b.2	水搬送経路の密閉化	蓄熱槽の2次側で実揚程10m以上の水搬送経路が密閉化されているか。		○	
		1b.3	熱源の台数制御の導入	熱源の台数制御が導入されているか。		○	
		1b.4	冷却塔ファン等の台数制御又は発停制御の導入	冷却塔ファン等の台数制御又は発停制御が、冷却塔ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。		○	
		1b.5	熱源2次ポンプ変流量制御の導入	熱源2次ポンプの台数制御及びインバータによる変流量制御が、熱源2次ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。		○	
1b.6	熱源2次ポンプの適正容量分割又は小容量ポンプの導入	熱源2次ポンプの適正容量分割又は小容量ポンプが、熱源2次ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。		○			
1b.7	高効率冷却塔の導入	高効率冷却塔が、冷却塔(エアコンプレッサー用及び生産プロセス用のものを含む。)ファン総電動機出力又は散水ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。		○			
1b.8	高効率熱源ポンプの導入	高効率熱源ポンプが、熱源ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。		○			
1b.9	大温度差送水システムの導入	熱媒が水の場合、熱搬送設備の設計送水温度差がどの程度か。		○			
1b.10	熱源機器出口設定温度の遠方制御の導入	熱源機器出口設定温度の遠方制御が導入されているか。		○			
1b.11	熱源1次ポンプ変流量制御の導入	熱源1次ポンプの台数制御又はインバータによる変流量制御が、熱源1次ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。		○			
1b.12	冷却塔ポンプ変流量制御の導入	冷却塔ポンプの台数制御又はインバータによる変流量制御が、冷却塔ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。		○			
1b.13	熱源2次ポンプの末端差圧制御の導入	熱源2次ポンプの末端差圧制御等が、熱源2次ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。		○			
1b.14	熱交換器の断熱	熱交換器の断熱が、熱交換器全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。		○			
1b.15	蓄熱システムの導入	蓄熱システムがどの程度導入されているか。		○			
1b.16	冷却塔ファンインバータ制御の導入	冷却塔ファンのインバータ制御が、冷却塔ファン(エアコンプレッサー用及び生産プロセス用のものを含む。)総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。		○			
1b.17	フリークーリングシステムの導入	有効に機能するフリークーリングシステムが導入されているか。		○			
1b.18	冷却塔水過冷却リサイクルシステムの導入	冷却塔水過冷却リサイクルシステムが導入されているか。		○			
1b.19	冷却塔ON/OFF制御システムの導入	不要時の設備停止に伴い冷却塔のON/OFF制御システムが導入されているか。		○			
1b.20	中温冷水利用システムの導入	中温冷水利用システムが、主たる熱源システムの一部に導入されているか。		○			
1b.21	統合熱源制御システムの導入	熱源機器、冷却塔及びポンプ等をシステムとして最も高効率に制御する統合熱源制御システムが導入されているか。		○			

1b.22	熱源2次ポンプの送水圧力設定制御の導入	熱源2次ポンプの送水圧力設定制御が、熱源2次ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。					
1c.1	高効率コージェネレーションの導入	高効率コージェネレーションが、全てのコージェネレーションに対して、どの程度導入されているか。					
1d.1	高効率変圧器の導入	高効率変圧器が、600Vを超え7,000V以下の総変圧器容量に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○	△			全ての変圧器の設置年度が1985年度以降で、かつ2008年度以降設置の設備の割合が50%未満の場合は一般項目とする。
1d.2	力率改善制御システムの導入	力率改善制御システムが導入されているか。	○				
1d.3	デマンド制御システムの導入	デマンド制御システムが導入されているか。	○				
1d.4	低圧動力回路への力率改善コンデンサの導入	力率改善コンデンサが低圧動力回路に導入されているか。					
1d.5	400V配電方式の導入	主たる動力設備に400V配電方式が導入されているか。					
1d.6	低負荷変圧器の統合	低負荷率の変圧器がある場合、低負荷変圧器が統合されているか。					
1d.7	変圧器の台数制御の導入	変圧器の台数制御が導入されているか。					
1d.8	大型変圧器の冷却設備制御の導入	冷却設備がある変圧器にON・OFF制御又は台数制御が導入されているか。					
1d.9	高効率UPSの導入	変換効率90%以上の高効率UPSが導入されているか。					
1e.1	高効率エアコンプレッサの導入	高効率エアコンプレッサが、エアコンプレッサ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○	△			全てのエアコンプレッサの設置年度が1995年度以降で、かつ2013年度以降設置の設備の割合が50%未満の場合は一般項目とする。
1e.2	エアコンプレッサの台数制御の導入	エアコンプレッサの台数制御が導入されているか。		○			
1e.3	コンプレッサ室への換気設備の導入	コンプレッサ室へ換気設備が導入されているか。		○			
1e.4	圧縮空気配管のルーパ配管化	圧縮空気配管距離が長くなる場合、圧縮空気配管のルーパ配管化が導入されているか。					
1e.5	エアコンプレッサの分散化	圧縮空気配管距離が長くなる場合、エアコンプレッサの分散化が導入されているか。					
1e.6	圧縮空気配管の高圧ライン/低圧ラインの系統分割	圧縮空気配管の高圧と低圧が混在する場合、圧縮空気配管の高圧ライン/低圧ラインの系統分割が導入されているか。					
1e.7	プースター方式の導入	圧縮空気供給圧力の高圧と低圧が混在する場合、プースター方式が導入されているか。					
1e.8	吸気冷却システムの導入	井水、冷却水などによる吸気冷却システムが導入されているか。					
1e.9	コンプレッサの排熱回収システムの導入	コンプレッサの排熱回収システム(排熱による暖房利用)が導入されているか。					
1e.10	バーージ制御装置の導入	露点温度によりバーージエア(再生空気)量を低減するバーージ制御装置が導入されているか。					
1e.11	エアコンプレッサ排熱の局所排気システムの導入	エアコンプレッサ排熱の局所排気システムが導入されているか。					
1e.12	フィルタの低圧損化	低圧損フィルタの導入又はファイナルフィルタの削減が行われているか。					
1e.13	高効率ドライヤーの導入	高効率ドライヤーが導入されているか。					
1f.1	高効率給水ポンプの導入	高効率給水ポンプが、加圧給水ポンプユニット総電動機出力又は給水ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。		○			
1f.2	排水処理用の高効率ポンプ・プロロの導入	排水処理用の高効率ポンプ・プロロが、排水処理用ポンプ・プロロ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。					
1f.3	排水再利用システムの導入	雨水利用システム、空調ドレン利用システム、中水利用システム等の排水再利用システム、又は再生水、工業用水、湧水等の雑用水利用システムが導入されているか。					
1f.4	微細気泡散気管の導入	微細気泡散気管が導入されているか。					
1f.5	ばっ気用プロロの変風量制御の導入	ばっ気用プロロの台数制御又はインバータによる変風量制御が導入されているか。					
1f.6	ばっ気用プロロの溶存酸素濃度制御の導入	ばっ気用プロロの溶存酸素濃度(DO)による送風量制御が導入されているか。					
1f.7	高効率給湯ヒートポンプユニットの導入	中央給湯方式の熱源機器がある場合、給湯ヒートポンプユニットが導入されているか。					
2a.1	高効率バックケージ形空調機の導入	高効率バックケージ形空調機が、バックケージ形空調機総冷却能力に対して、どの程度の割合で導入されているか。		○			
2a.2	電気室・エレベーター機械室の温度制御の導入	電気室及びエレベーター機械室の温度制御が、全電気室数及び全エレベーター機械室数に対して、どの程度の割合で導入されているか。		○			
2a.3	高効率空調機の導入	高効率空調機が、空調機ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。					
2a.4	高効率空調・換気用ファンの導入	高効率空調・換気用ファンが、空調・換気用ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。					
2a.5	ウォーミングアップ時の外気遮断制御の導入	ウォーミングアップ時の外気遮断制御の導入が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。					
2a.6	空調機の変風量システムの導入	室内温度又は還気温度で空調機ファンのインバータを制御する変風量システムが、空調機ファン(特殊空調設備を除く。)総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。					
2a.7	空調機の気化式加湿器の導入	空調機の気化式加湿器が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。					
2	・ 建築設備の省エネルギー性能						
	c. コージェネレーション設備						
	d. 受変電設備、配電設備						
	e. 圧縮空気供給設備						
	f. 給排水・給湯設備、排水処理設備						

2a.8	外気冷房システムの導入	外気冷房システムが、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。				○
2a.9	局所冷房設備の導入	高発熱領域に対する局所冷房設備又は大空間における局所冷房設備が導入されているか。				○
2a.10	CO2濃度による外気量制御の導入	CO2濃度による外気量制御が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。				○
2a.11	ファンコイルユニットの比例制御の導入	ファンコイルユニットの比例制御が、ファンコイルユニット全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。				○
2a.12	空調の最適起動制御の導入	空調の最適起動制御が、全空調機台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。				○
2a.13	全熱交換器の導入	全熱交換器が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。				○
2a.14	大温度差送風空調システムの導入	低温送風による大温度差送風空調システムが、空調機ファン(特殊空調設備を除く。)総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。				○
2a.15	放射冷暖房空調システムの導入	放射冷暖房空調システムが導入されているか。				○
2a.16	置換換気システムの導入	置換換気システムが導入されているか。				○
2a.17	空調機の間欠運転制御の導入	空調機の間欠運転制御が、空調機ファン(特殊空調設備を除く。)総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。				○
2a.18	高効率厨房換気システムの導入	高効率厨房換気システム(置換換気、給排気フード又は厨房排気の変風量制御)が導入されているか。				○
2a.19	厨房外調機・ファンの風量モード切替制御の導入	厨房外調機・ファンの風量モード切替制御が導入されているか。				○
2a.20	人感センサーによる換気制御の導入	便所の人感センサーによる換気制御が、主たる便所に導入されているか。				○
2a.21	デシカント空調システムの導入	デシカント空調システムが導入されているか。				○
2a.22	ファンの手動調整用インバータの導入	ファンの手動調整用インバータが、ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。				○
2a.23	気流感創出ファン・サーキュレーションファンの導入	事務室に気流感創出ファン等、又は大空間にサーキュレーションファンが導入されているか。				○
2b.1	高効率照明器具の導入	高効率照明器具が、照明総消費電力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○			
2b.2	高輝度型誘導灯・蓄光型誘導灯の導入	高輝度型誘導灯又は蓄光型誘導灯が、誘導灯総器具数に対して、どの程度の割合で導入されているか。				○
2b.3	照明のゾーンニング制御の導入	照明の点滅区分の細分化と、主たる廊下、エントランスホール等の間引きによるゾーンニング制御がどの程度の割合で導入されているか。				○
2b.4	照明の人感センサーによる在室検知制御の導入	照明の人感センサーによる在室・在席検知制御が、主たる階段室、便所、湯沸室等に対して、どの程度導入されているか。				○
2b.5	照明の局所制御の導入	照明器具ごとのスイッチ等による照明の局所制御が、事務室、廊下、便所又は湯沸室に対して、どの程度導入されているか。				○
2b.6	照明の初期照度補正制御の導入	照明の初期照度補正制御が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。				○
2b.7	照明の昼光利用照明制御の導入	照明の昼光利用照明制御が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。				○
2b.8	照明のタイムスケジューリング制御の導入	照明のタイムスケジューリング制御が、主たる居室、廊下等の共用部に対して、どの程度導入されているか。				○
2b.9	タスク&アンビエント照明システムの導入	タスク&アンビエント照明システムが、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。				○
2b.10	照明の明るさ感知による自動点滅制御の導入	照明の明るさ感知による自動点滅制御が、窓のある主たるエントランスホール、廊下、便所等に導入されているか。				○
2b.11	照明のセキュリティー運動制御の導入	照明のセキュリティー運動制御が、主たる事務室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。				○
2b.12	誘導灯の消灯制御の導入	誘導灯の消灯制御が導入されているか。				○
2c.1	大便器の節水器具の導入	大便器の節水器具(10ℓ/回以下)又は超節水器具(6ℓ/回以下)が、主たる便所の大便器数に対して、どの程度の割合で導入されているか。				○
2c.2	省エネ型便座又は洗浄便座のスケジューリング制御の導入	省エネ型便座又は洗浄便座の夜間電源停止等のスケジューリング制御が、主たる便所の洗浄便座数に対して、どの程度の割合で導入されているか。				○
2c.3	洗面器の自動水栓の導入	洗面器の自動水栓が、主たる便所の洗面器数に対して、どの程度の割合で導入されているか。				○
2c.4	便所への雑音装置の導入	便所に雑音装置が、主たる便所の大便器数に対して、どの程度の割合で導入されているか。				○
2c.5	自然冷媒ヒートポンプ給湯器の導入	自然冷媒ヒートポンプ給湯器が導入されているか。				○
2c.6	潜熱回収給湯器の導入	潜熱回収給湯器が導入されているか。				○
2d.1	エレベーターの可変電圧可変周波数制御方式の導入	エレベーターの可変電圧可変周波数制御方式(VVVF制御方式)が、エレベーター総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。				○
2d.2	エレベーターの群管理制御の導入	エレベーターの群管理制御が、複数台設置してある箇所のエレベーター総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。				○
b. 照明設備						
c. 衛生設備						
d. 昇降機設備						

III 設備及び事業所の運用に関する事項	1 ・ユーティリティ設備の運用管理	4.再生可能エネルギー	e. その他	2d.3 エレベーターかご内の照明、ファン等の不使用時停止制御の導入	エレベーターかご内の照明、ファン等の不使用時停止制御が、全エレベーター台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。				○				
				2d.4 エレベーターの電力回生制御の導入	エレベーターの電力回生制御が、エレベーター総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。				○				
				2e.1 グリーン購入法適合商品のオフィス機器の導入	グリーン購入法適合商品のオフィス機器が、オフィス機器全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。				○				
				2e.2 省エネ型自動販売機又は自動販売機のスケジューリング制御の導入	省エネ型自動販売機又は自動販売機のスケジューリング制御が、自動販売機全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。				○				
				2e.3 高効率厨房機器の導入	厨房換気量を低減するために、電化厨房又は集中排気型ガス厨房が導入されているか。				○				
				3 建物外皮	a. 建物外皮	3a.1 高性能な建物外皮の導入	主たる事務所の建物外皮性能(PAL又はPAL*)が基準値に対してどの程度削減されているか。					○	
						3a.2 隙間風対策の導入	空調空間と非空調空間の境にある主たる動線の全ての出入口に、風除室又はエアカーテン等の隙間風対策が導入されているか。					○	
						3a.3 ブラインドの日射制御及びスケジューリング制御の導入	主たる事務室のブラインドに日射制御又はスケジューリング制御がどの程度導入されているか。					○	
						3a.4 屋上緑化の導入	屋上緑化が導入されているか。					○	
						3a.5 壁面緑化の導入	壁面緑化又は緑化によるひさしが導入されているか。					○	
						3a.6 遮熱塗料塗布・遮熱フィルムの導入	開口部に対して遮熱塗料塗布又は遮熱フィルムが導入されているか。					○	
						3a.7 屋根への遮熱塗装の導入	主たる屋根に対して遮熱塗装が導入されているか。					○	
						b. 自然エネルギーの利用	3b.1 自然採光を利用したシステムの導入	自然採光を利用したシステムが導入されているか。					
				3b.2 自然通風を利用したシステムの導入	自然通風を利用したシステムが導入されているか。							○	
				3b.4 年間を通して安定した地中温度を利用したシステムの導入	クーレルレンチ、ヒートレンチその他の年間を通して安定した地中温度の利用のための措置が導入されているか。							○	
				4.1 太陽光発電システムの導入	太陽光発電システムがどの程度導入されているか。							○	
				III 設備及び事業所の運用に関する事項	1 ・ユーティリティ設備の運用管理	4.再生可能エネルギー	e. その他	4.2 再生可能エネルギー・未利用エネルギーの導入	再生可能エネルギー又は未利用エネルギーを利用するシステムがどの程度導入されているか。				○
								1a.1 蒸気ボイラーの空気比の管理	全ての蒸気ボイラーの空気比が、どの程度に管理されているか。				
1a.2 蒸気ボイラーの設定圧力の適正化	全ての蒸気ボイラーの設定圧力が、蒸気使用端の必要圧力に対して、適正に調整されているか。										○		
1a.3 部分負荷時の蒸気ボイラー運転の適正化	部分負荷時の蒸気ボイラー運転の適正化が、蒸気ボイラー群系統数に対して、どの程度の割合で実施されているか。										○		
1a.4 非使用エリアの蒸気供給バルブの閉止	非使用エリアの蒸気供給バルブが閉止されているか。										○		
1a.5 非使用時間帯の蒸気ボイラーの停止	非使用時間帯の蒸気ボイラーの停止が実施されているか。										○		
1a.6 蒸気ボイラーの給水水質・ブロー量の管理	全ての蒸気ボイラーの給水水質及びブロー量が、ブロー率10%以下に管理されているか。										○		
1a.7 蒸気配管の保温の確認	蒸気配管及び蒸気運水配管の保温材の脱落が無いかを確認し適切に措置されているか。										○		
1a.8 蒸気ボイラーの起動時間の適正化	全ての蒸気ボイラーの起動時間が、季節によって、使用開始時間に合わせて適正に管理されているか。										○		
1a.9 スチームトラップの効果検証の実施	最適なスチームトラップを選定するために、効果検証が実施されているか。										○		
b. 熱源・熱搬送設備、冷却設備	1b.1 燃焼機器の空気比の管理	直焚吸収冷温水機等の全ての燃焼機器の空気比が、どの程度に管理されているか。										○	
	1b.2 冷凍機の冷却水温度設定値の調整	全ての冷凍機の冷却水温度設定値が、冷凍機の冷却水温度設定値を目標に調整されているか。										○	
	1b.3 冷温水管等の保温の確認	冷温水管等の保温材の脱落が無いかを確認し適切に措置されているか。										○	
	1b.4 インバータ制御系統のバルブの開度調整	インバータ制御系統の熱源ポンプ回りの全てのバルブが全開になるように調整されているか。										○	
	1b.5 熱源不要期間の熱源機器等停止	熱源機器及び熱源ポンプで、熱源不要期間の電源供給停止、又は夜間の運転停止が実施されているか。										○	
	1b.6 空調停止時の熱源運転時間の短縮	熱源機器が空調停止時間の前に停止されているか。										○	
	1b.7 熱源機器の冷温水出口温度設定値の調整	熱源機器の冷温水出口温度設定値が調整されているか。										○	
	1b.8 部分負荷時の熱源運転の適正化	部分負荷時の負荷熱量に応じた熱源機器運転の適正化が、熱源群系統数に対して、どの程度の割合で実施されているか。										○	

2 ・ ユ ー リ テ イ リ テ イ 設 備 の 保 守 管 理	f. 給排水・給湯設備、排水処理設備	1b.9 部分負荷時の熱源ポンプ運転の適正化	部分負荷時の負荷熱量に応じた熱源ポンプ運転の適正化が、熱源2次ポンプ群及び冷却水ポンプ群系統数に対して、どの程度の割合で実施されているか。			○			
		1b.10 蓄熱槽の管理	蓄熱槽の温度分布、蓄放熱時の温度プロフィール等が適正に管理されているか。			○			
		1b.11 ミキシングロス防止のためのバルブ開度の確認	ミキシングロス防止のために、冷温水切換用のバルブ閉止が確認されているか。			○			
		1b.12 空調開始時の熱源起動時間の適正化	熱源機器及び熱源2次ポンプの起動時間が、空調開始時間に合わせて季節ごとに適正に管理されているか。			○			
		c. コージェネレーション設備	1c.1 コージェネレーションの運転の適正化	コージェネレーションの非熱が有効に利用できるように、発電及び非熱利用の状況が適正に管理されているか。				○	
			1d.1 不要期間・不要時間帯の変圧器の遮断	負荷がない時期、夜間等に、変圧器の遮断が実施されているか。			○		
			1d.2 変圧器タップ切換による電圧の最適化	定格電圧から外れている変圧器の出力端子電圧のタップ切換による調整が実施されているか。			○		
			1d.3 昼間運転設備の夜間移行	昼間運転している電気使用設備の夜間運転への移行が実施されているか。			○		
			1e.1 非使用エリアの圧縮空気供給バルブの閉止	非使用エリアの圧縮空気供給バルブが閉止されているか。			○		
			1e.2 非使用時間帯のエアコンプレッサの停止	非使用時間帯のエアコンプレッサの停止が実施されているか。			○		
			1e.3 部分負荷時のエアコンプレッサ運転の適正化	部分負荷時の負荷に応じたエアコンプレッサ運転の適正化が実施されているか。			○		
			1e.4 エアコンプレッサの設定圧力の適正化	エアコンプレッサの設定圧力がエア使用端の必要圧力+0.1MPa以下に調整されているか。			○		
			1e.5 エアコンプレッサ-吸入空気温度の管理	十分な換気の確保等、エアコンプレッサの吸入空気温度が高くならないように管理されているか。			○		
			1e.6 ドライエアの設定露点温度の緩和	ドライエアの設定露点温度の緩和が実施されているか。			○		
	g. 給排水・給湯設備、排水処理設備	1f.1 給水・給湯バルブの調整	節水のために給水・給湯の分岐バルブが使用上支障のない範囲で絞られているか。			○			
		1f.2 給水圧力の管理	バルブ全開時の末端圧力が過剰にならないように、給水ポンプユニットの設定圧力が調整されているか。			○			
		1f.3 揚水ポンプのバルブの開度調整	揚水ポンプ系統のバルブが軸力抵抗とならないように調整されているか。			○			
		1f.4 貯湯温度設定の緩和	衛生上可能な範囲で、貯湯温度設定の緩和が実施されているか。			○			
		1f.5 給湯不要時間帯の給湯循環ポンプの停止	給湯不要時間帯の給湯循環ポンプの停止が実施されているか。			○			
		1f.6 ばっ気設備の必要ばっ気圧力に応じた空気供給圧力の管理	排水処理設備のばっ気設備がある場合、必要ばっ気圧力に対して過剰にならないように、空気供給圧力が調整されているか。			○			
	2 ・ ユ ー リ テ イ リ テ イ 設 備 の 保 守 管 理	a. 蒸気供給設備	2a.1 蒸気ボイラーの点検・清掃	蒸気ボイラーの伝熱面及びスーパーヘイズルの点検及び清掃及びスケール除去が適切な頻度で実施されているか。			○		
			2a.2 蒸気配管・バルブ・スチームトラップからの濡れ点検	蒸気配管・バルブ等からの濡れ点検及びスチームトラップの点検が適切な頻度で実施されているか。			○		
			2a.3 蒸気制御バルブ等の作動チェック	蒸気制御バルブ等の作動チェックが適切な頻度で実施されているか。			○		
			2a.4 蒸気ボイラーのメーカーによる遠隔監視	予知予防保全のために蒸気ボイラーのメーカーによる遠隔監視が実施されているか。			○		
			b. 熱源・熱搬送設備、冷却設備	2b.1 熱源機器の点検・清掃	冷凍機のコンデンサ及びエバポレータの清掃、燃焼機器の伝熱面の清掃及びスケール除去、パーナースズルの点検等の熱源機器の点検・清掃が適切な頻度で実施されているか。			○	
				2b.2 熱交換器の清掃	熱交換器の清掃が適切な頻度で実施されているか。			○	
			2b.3 熱源用制御機器の点検及び制御バルブ等の作動チェック	熱源用制御機器の点検及び制御バルブ等の作動チェックが適切な頻度で実施されているか。			○		
			2b.4 冷却水の適正な水質管理及び冷却塔の充填材の清掃	冷却水の適正な水質管理及び冷却塔の充填材の清掃が適切な頻度で実施されているか。			○		
			2b.5 熱源機器のメーカーによる遠隔監視	予知予防保全のために熱源機器のメーカーによる遠隔監視が実施されているか。			○		
			c. コージェネレーション設備	2c.1 コージェネレーション設備の定期的な点検	コージェネレーション設備がある場合、効率を高い状態で維持するため、定期的な点検が実施されているか。			○	
				2e.1 圧縮空気配管・バルブからの濡れ点検	圧縮空気配管及びバルブからの濡れ点検が実施されており、適切に処置されているか。			○	
				2e.2 エアコンプレッサ-吸込みフィルターの清掃	エアコンプレッサの吸込みフィルターの清掃が定期的な頻度で実施されているか。			○	
			3 建 築 設 備 の 運 用	a. 空調・換気設備	3a.1 居室の室内温度の適正化	冷却効率維持のために、インタークーラーの清掃が定期的な頻度で実施されているか。 居室の実際の室内温度の適正化(夏季26℃以上)と定期的な記録が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で実施されているか。			○
					3a.2 室使用開始時の空調起動時間の適正化	室の使用開始時間に合わせた季節ごとの空調起動時間の適正化が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で実施されているか。			○
3a.3 換気ファンの間欠運転の実施	スケジュール又は自動制御による換気ファンの間欠運転が、機械室(燃焼室、臭気系統を除く。)及び倉庫のファンに対して、どの程度実施されているか。					○			
3a.4 クールピズ・ウォームピズによる空調設定温度の緩和	クールピズ(夏季27℃以上)又はウォームピズ(冬季20℃以下)による空調設定温度の緩和が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で実施されているか。					○			

管理	3a.5	エレベーター機械室・電気室の室内設定温度の適正化	エレベーター機械室及び電気室の室内設定温度の適正化が、全エレベーター機械室数及び全電気室数に対して、どの程度の実施されているか。	○		
	3a.6	CO2濃度・外気温湿度による外気取入量の調整	外気負荷低減、外気冷房等のために、室内CO2濃度及び外気温湿度による外気取入量の調整が、事務室の床面積に対して、どの程度の実施されているか。	○		
	3a.7	居室以外の室内温度の緩和	主たるエントランスホール、廊下等の居室以外の室内温度が、居室に対して、夏季は高め、冬季は低め、又は夏季27℃以上、冬季20℃以下に設定されているか。	○		
	3a.8	エレベーター機械室・電気室の換気ファンの夏季停止	エレベーター機械室及び電気室の換気ファンの夏季停止が、空調機併用方式の全エレベーター機械室数及び全電気室数に対して、どの程度の実施されているか。	○		
	3a.9	エレベーター機械室・電気室の空調機の給気・選気設定温度の適正化	エレベーター機械室及び電気室の空調機又はパッケージ形空調機の給気設定温度又は選気設定温度の適正化が、室内温度とは別に給気温度又は選気温度の設定が可能か。全エレベーター機械室数及び全電気室数に対して、どの程度の実施されているか。	○		
	3a.10	ファンのブローダウンの実施	ファンが絞られている系統のファンのブローダウンが実施されているか。	○		
	3a.11	パッケージ形空調機の省エネチューニングの実施	パッケージ形空調機の冷媒蒸発温度設定値の調整が実施されているか。	○		
	b. 照明設備	3b.1	事務室以外の照度条件の緩和	間引き点灯又は調光等による照度条件の緩和が、工場・プラント及び廊下に対して、どの程度の実施されているか。	○	
		3b.2	照明のタイムスケジューリングによる消灯	昼休み一斉消灯など照明のタイムスケジューリングによる消灯が、工場・プラント、事務室及び廊下に対して、どの程度の実施されているか。	○	
		3b.3	事務室の室内照度の適正化	事務室の室内照度の適正化(概ね500lx以下)が、事務室の床面積に対して、どの程度の実施されているか。	○	
3b.4		事務室の照度条件の緩和	事務室の照明の間引き点灯又は調光等による照度条件の緩和(概ね300lx以下)が、事務室の床面積に対して、どの程度の実施されているか。	○		
3b.5		時間外等の照明点灯エリアの集約化	時間外等の照明点灯エリアを集約する工夫が行われているか。	○		
c. 衛生設備		3c.1	洗浄便座暖房の夏季停止	洗浄便座暖房の夏季停止が実施されているか。	○	
		3c.2	給湯温度設定の緩和	季節や用途等に応じた給湯温度設定の緩和が実施されているか。	○	
		3c.3	貯湯式電気温水器の夜間・休日の電源停止	貯湯式電気温水器の夜間及び休日の電源停止が実施されているか。	○	
		3c.4	便所洗面給湯の給湯中止又は給湯期間の短縮	便所洗面給湯の給湯中止又は給湯期間の短縮が実施されているか。	○	
d. 昇降機設備		3d.1	夜間・休日等のエレベーターの運転台数の削減	夜間・休日等のエレベーターの運転台数の削減が実施されているか。	○	
	3e.1	空調空間と非空調空間の境にある出入口の開閉の管理	冷房時・暖房時の開閉など空調空間と非空調空間の境にある出入口の開閉の適正な管理が、主たる動線の出入口で実施されているか。	○		
4. 建築設備の保守管理	a. 空調・換気設備	3e.2	自動販売機の照明の消灯	自動販売機の照明消灯が実施されているか。	○	
		4a.1	空調機・ファンコイルユニット等のフィルターの清掃	空調機・ファンコイルユニット等のフィルターの清掃が適切な頻度で実施されているか。	○	
		4a.2	センサー類の精度チェック及び制御ダンパ等の作動チェック	センサー類の精度チェック及び制御ダンパ等の作動チェックが適切な頻度で実施されているか。	○	
		4a.3	空調機・ファンコイルユニット等のコイルファインの清掃	空調機・ファンコイルユニット等のコイルファインの清掃が適切な頻度で実施されているか。	○	
		4a.4	パッケージ屋外機のコイル洗浄	パッケージ屋外機のコイル洗浄が適切な頻度で実施されているか。	○	
		4a.5	ファンベルトの張力調整	ファンベルトの張力調整が実施されているか。	○	
b. 照明設備	4a.6	省エネファンベルトへの交換	省エネファンベルトへの交換が、ベルト駆動ファンの全台数に対して、どの程度の実施されているか。	○		
	4b.1	照明器具の清掃	照明器具の清掃が、汚れの状態や照明器具の用途に応じて定期的に実施されているか。	○		
	4b.2	照明用制御設備の作動チェック	照明用制御設備の作動チェックが適切な頻度で実施されているか。	○		
4b.3	ランプ交換時の初期照度補正リセットの実施	タイマー式の初期照度補正制御付きの照明器具のランプ交換時に、リセット操作が実施されているか。	○			

II 設備及び建物の性能に関する事項	a. 燃料の燃焼 ・生産・プラント・特殊設備の省エネルギー性能	5a.1 燃料の供給量・空気比を調整できるバーナー等の導入	燃焼設備及び燃料の種類に適合し、かつ、負荷及び燃焼状態の変動に応じて燃料の供給量及び空気比(空気比は密閉型燃焼設備に限る。)を調整できるバーナー等が、燃焼設備総定格燃焼燃料消費量に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○		
		5a.2 通風量・燃焼室内の圧力を調整できる通風装置の導入	通風量又は燃焼室内の圧力(圧力は密閉型燃焼設備に限る。)を調整できる通風装置が、通風装置のある燃焼設備総定格燃焼燃料消費量に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○		
		5a.3 通風装置のインバータ制御の導入	通風装置のインバータ制御が、通風装置総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○		
		5a.4 工業炉のレジエネレイティブバーナーの導入	工業炉のレジエネレイティブバーナーが、燃焼設備総定格燃焼燃料消費量に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○		
		5a.5 工業炉のレジエネレイターの導入	工業炉に高温予熱空気燃焼と高温排熱回収の両方が可能なレジエネレイターが、燃焼設備総定格燃焼燃料消費量に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○		
		b. 加熱及び冷却並びに伝熱	5b.1 加熱・冷却制御システムの導入	センサー、コントローラー等を利用した加熱制御システム又は冷却制御システムが、燃焼設備及び加熱利用設備総定格エネルギー消費量に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○	
			5b.2 塗装ブースの3WET塗装システムの導入	塗装ブースの中塗乾燥炉削減のために、3WET塗装システムが導入されているか。	○	
		c. 排熱回収	5c.1 排ガスの排熱回収設備の導入	排ガスの排熱回収設備が、燃焼設備総定格燃焼燃料消費量に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○	
			d. 断熱・保温	5d.1 燃焼設備・熱利用設備への二重扉の導入	燃焼設備及び熱利用設備に二重扉が導入されているか。	○
				5d.2 燃焼設備・熱利用設備への空気流等による遮断設備の導入	燃焼設備及び熱利用設備に内部からの空気流等による遮断設備が導入されているか。	○
			5d.3 工業炉の炉壁外面温度による断熱強化	工業炉の炉壁外面温度による断熱強化がどの程度実施されているか。	○	
			5d.4 燃焼設備・熱利用設備炉体開口部の縮小・密閉	燃焼設備又は熱利用設備に対して、炉体開口部の縮小又は密閉が行われているか。	○	
		5d.5 既存の燃焼設備・熱利用設備の断熱強化	既存の燃焼設備又は熱利用設備に対して、断熱が強化されているか。	○		
		e. 電動力応用設備・電気加熱設備	5e.1 生産プロセスにおける電動機の台数制御の導入	生産プロセスにおいて複数の電動機を使用する場合、電動機の台数制御が、複数の電動機を使用する設備総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○	
			5e.2 中・大容量モーター冷却ファンのモーター駆動制御の導入	中・大容量モーター冷却ファンのモーター駆動制御が導入されているか。	○	
			5e.3 エアブロー機器への省エネルギーノズルの導入	エアブロー機器への省エネルギーノズルが、エアノズル全個数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○	
			5e.4 生産プロセスにおける電動機の回転数制御の導入	生産プロセス(特殊排気設備を含む。)において電動機(ポンプ、ブロワ、ファンを含む。)のインバータによる回転数制御が、電動力応用設備総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○	
5e.5 電気溶接機のインバータ制御の導入	電気溶接機のインバータ制御が、電気溶接機総定格消費電力に対して、どの程度の割合で導入されているか。		○			
5e.6 油圧・空圧駆動成型機の電動化	油圧・空圧駆動成型機の電動化が、成型機全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。		○			
5e.7 高効率クレーンの導入	高効率クレーンが、クレーン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。		○			
5e.8 生産プロセスにおける高効率ポンプの導入	生産プロセス(純水供給設備を含む。)において、高効率ポンプが、生産プロセス用ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。		○			
5e.9 生産プロセスにおける高効率ブロワ・ファンの導入	生産プロセス(特殊排気設備を含む。)において、高効率ブロワ・ファンが、生産プロセス用ブロワ・ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。		○			
5e.10 油圧・空圧駆動アクチュエータの電動化	油圧・空圧駆動アクチュエータの電動化が導入されているか。		○			
5e.11 空圧駆動アクチュエータの低圧化	5e.11 空圧駆動アクチュエータの低圧化	高圧仕様の空圧駆動アクチュエータが低圧仕様に変更されているか。	○			
	5e.12 ブロー工程におけるエアコンプレッサーのブロワ化	ブロー工程において、エアコンプレッサーがブロワ化されているか。	○			
5e.13 高効率コンベアの導入	5e.13 高効率コンベアの導入	高効率コンベアが導入されているか。	○			
	5e.14 ブロー工程の縮小	既存設備に対して、ブロー工程が縮小されているか。	○			
	5e.15 ブロワのインレットベーン制御の導入	ブロワのインレットベーン制御が、生産プロセス用ブロワ・ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○			
5e.16 ブロワの動力伝達装置による減速の導入	ブロワの動力伝達装置による減速が、生産プロセス用ブロワ・ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○				
5e.17 塗料循環システムにおける油圧・空圧ポンプの電動ポンプ化	塗料循環システムにおいて、油圧ポンプ又は空圧ポンプが電動ポンプ化されているか。	○				
5e.18 塗料循環システムのフローコントロールシステムの導入	塗料循環システムにフローコントロールシステムが導入されているか。	○				
f. 特殊空調設備	5f.1 クリーンルームのローカルリターン方式の導入	クリーンルームの天井面にファンフィルタユニット又はライン式空調機を用いたローカルリターン方式が、クリーンルームの床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○			
	5f.2 省エネルギー型ファンフィルタユニットの導入	省エネルギー型ファンフィルタユニットが、ファンフィルタユニット総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○			

5f.3	ファンフィルタユニットの台数制御の導入	クリーンルームのファンフィルタユニットの台数制御が、クリーンルームの床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。							
5f.4	半導体プロセス等における局所クリーン化の導入	半導体プロセス等において、クリーンルーム全体の清浄度緩和のための局所クリーン化が導入されているか。							
5f.5	クリーンルーム空調機のインバータ制御の導入	クリーンルーム空調機にクリーンルーム内の室温によるインバータ制御が、クリーンルーム空調機総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。							
5f.6	恒温恒湿室の部分層流方式の導入	恒温恒湿室の部分層流方式が、恒温恒湿室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。							
5f.7	恒温恒湿室の再熱負荷の軽減手法の導入	恒温恒湿室において、減風量法、バイパス法、化学的減湿法(デシカント空調)又は排熱回収再熱法の再熱負荷の軽減手法が、恒温恒湿室の床面積に対して、どの程度の割合で導入されているか。							
5f.8	冷媒ホットガスレスヒート除湿システムの導入	バンク型形空調機による除湿再熱システムがある場合、冷媒ホットガスレスヒート除湿システムが、除湿再熱用パッケージ型空調機総冷却能力に対して、どの程度の割合で導入されているか。							
5f.9	高効率冷凍・冷蔵設備の導入	高効率冷凍・冷蔵設備が、冷凍・冷蔵設備の圧縮機総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。							
5f.10	クリーンルームの顕熱処理用ドライコイルの導入	クリーンルームの顕熱処理用ドライコイルが導入されているか。							
5f.11	クリーンルームの局所冷却システムの導入	クリーンルームの局所冷却システムが導入されているか。							
5f.12	クリーンルームの陽圧排気の一般室利用	クリーンルームの陽圧排気が、一般室の空調負荷低減に利用されているか。							
5f.13	省エネ型クリーンルーム空調コントロールの導入	数値計画型モデル予測制御を温湿度制御に応用した省エネ型クリーンルーム空調コントロールが導入されているか。							
5f.14	クリーンルームの外調機省エネ制御システムの導入	クリーンルームの各エリアの熱負荷を監視して、外調機の給気温度を必要以上に高くするのではなく、最適に調整する外調機省エネ制御システムが導入されているか。							
5f.15	恒温恒湿室の露点飽和散水システムの導入	恒温恒湿室の露点飽和散水システム(DPC(Dew Point Control)方式)が導入されているか。							
5f.16	動物実験施設への空気熱交換器の導入	動物実験施設の全外気空調方式の外気負荷低減のために、空気熱交換器が導入されているか。							
5f.17	換気式飼育ラックによる部分換気方式の導入	動物実験施設の換気式飼育ラックによる部分換気方式が導入されているか。							
5f.18	少排気量ドクトチャンバーの導入	少排気量ドクトチャンバーが、ドクトチャンパー全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。							
5f.19	ドクトチャンパーの換気量可変制御システムの導入	ドクトチャンパーのフード開口面積又は人検知センサー制御による換気量可変制御システムが、ドクトチャンパー全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。							
5f.20	空調予熱コイルへの冷凍機冷却水利用システムの導入	空調予熱コイルへの冷凍機冷却水利用システムが導入されているか。							
5f.21	塗装ブース空調のウインドウ制御の導入	塗装ブース空調のウインドウ制御が導入されているか。							
5f.22	塗装ブース排気リサイクルシステムの導入	塗装ブースの有人ゾーン以外のエリアへの排気リサイクルシステムが導入されているか。							
5f.23	冷凍車プラウトホームへの冷房設備の導入	冷凍車の負荷を低減するために、外部と仕切られた冷凍車のプラウトホームに冷房設備が導入されているか。							
5g.1	高効率脱臭装置の導入	蓄熱燃焼式(リジエネ式) 吸着濃縮式、触媒燃焼式、又はマイクロガスタービン燃焼式の高効率脱臭装置が導入されているか。							
5g.2	生産設備と脱臭装置の連動制御の導入	生産設備と脱臭装置が24時間連続運転でない場合、生産設備と脱臭装置の連動制御が導入されているか。							
5g.3	直燃式脱臭装置の排熱回収ボイラー・エコノマイザーの導入	直燃式脱臭装置に排熱回収ボイラー又はエコノマイザーが導入されているか。							
5g.4	直燃式脱臭装置の精留副生成物の混合燃焼システムの導入	直燃式脱臭装置に精留副生成物の混合燃焼システムが導入されているか。							
5g.5	直燃式脱臭装置の待機時温度低下制御の導入	直燃式脱臭装置の待機時温度を下げる待機時温度低下制御が導入されているか。							
5g.6	スクラバーの排熱回収システムの導入	排気処理用スクラバーに熱交換器を設置した排熱回収システムが導入されているか。							
5h.1	純水ポンプのインバータ制御の導入	純水ポンプのインバータ制御が、純水ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。							
5h.2	超低圧RO膜の導入	ポンプの小型化又は押込圧力の低減のために、超低圧RO膜が導入されているか。							
5h.3	高効率UV酸化装置の導入	低圧UV酸化装置に電子式安定器が導入されているか。							
5h.4	純水ROブライン回収装置の導入	純水ROブライン回収装置が導入されているか。							
5h.5	純水冷却循環システムの導入	冷却水排熱を回収し、1次純水の熱源に利用する純水冷却循環システムが導入されているか。							
g.特殊排気設備									
h.純水供給設備									

III 設備及び事業所の運用に関する事項	5 生産・プラント・特殊設備の運用管理	i 場内輸送設備	5h.6 排熱利用による蒸留式純水製造装置の導入	排熱利用による蒸留式純水製造装置が導入されているか。				
			5i.1 高効率フオーグリアフトの導入	電動、ハイブリッド又はプロパンなどの高効率フオーグリアフトが、フオーグリアフト全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。				
			5i.2 低燃費車の導入	重機及び場内車両に低燃費車が、重機及び場内車両(ノンパーブレートのあるものを除く。)全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。				
j 追加評価事項	5j.1	5i.3 高効率トランスファークレーンの導入	高効率トランスファークレーンが、トランスファークレーン(電動のものを除く。)全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。					
		5j.1	生産・プラント・特殊設備において、評価項目に無いもので、次の条件を満たす対策が導入されているか。 ・一次エネルギー削減量実績値が有効であると認められるとき、ただし、一次エネルギー削減量実績値は、原則として計量設備により把握した実績値とし、不明な場合は設備仕様及び実験条件に基づく推計値を用いることができるものとする。 ・2005年度以降に導入した設備であること。 ・省エネ法の第一種特定工場(製造業)の中長期計画作成指針にある設備等の中で、設備性能の向上に資するものを対象とする。					
		5a.1 燃焼設備の空気比の管理	燃焼設備の空気比管理がどの程度実施されているか。					
b 加熱及び冷却並びに伝熱	5b.1	5a.2 燃焼設備の運転台数の調整	複数の燃焼設備を使用する場合、負荷の集約化のために運転台数の調整が実施されているか。					
		5a.3 燃料の管理	燃料の性状に応じて、燃焼効率を改善するために、燃料の粒度、水分、粘度等が適切に調整されているか。					
		5a.4 燃焼設備の空運転時間の短縮	燃焼設備の過剰な供給を無くすために、熱媒体の温度、圧力及び量が適切に管理されているか。					
c 排熱回収	5c.1	5b.1 非使用時の蒸気供給バルブの閉止	蒸気を使用する熱利用設備が24時間連続運転でない場合で、かつ全ての蒸気が非熱利用でない場合、非使用時に蒸気供給バルブが閉止されているか。					
		5b.2 被加熱物・被冷却物の装てん方法の調整	過大負荷及び過小負荷を避けるために、操業状況の変化に応じて被加熱物又は被冷却物の量及び炉内配置の見直しと装てん方法の調整が実施されているか。					
		5b.3 炉内被加熱物の温度管理	過熱防止のために、炉内被加熱物の温度管理が、燃焼設備及び熱利用設備(定格エネルギー消費量に対して、どの程度の割合で実施されているか)と、熱効率を向上させるために、ヒートバターの改善が実施されているか。					
d 断熱・保温	5d.1	5b.4 加熱を反復して行う工程の場合、工程の待ち時間の短縮が実施されているか。	加熱を反復して行う工程の場合、工程の待ち時間の短縮が実施されているか。					
		5b.5 複数の加熱等を行う設備の集約化	複数の加熱等を行う設備がある場合、負荷の集約化が実施されているか。					
		5b.6 断熱的な運転を行う設備の集約化	断熱的な運転を行う設備がある場合、運転の集約化が実施されているか。					
e 電動力応用設備・電気加熱設備	5e.1	5b.7 炉内ガス循環の改善	燃焼設備及び熱利用設備において、対流伝熱性能を改善するために、炉内ガスの循環を高めるような方策が実施されているか。					
		5d.1 排ガスの排熱回収率の管理	排ガスの排熱回収率が管理されているか。					
		5d.1 燃焼設備・熱利用設備の開閉回数・開閉時間・開口面積の管理	燃焼設備及び熱利用設備の開閉回数、開閉時間又は開口面積の管理が、燃焼設備及び熱利用設備(定格エネルギー消費量に対して、どの程度の割合で実施されているか)と、非使用時に電気使用設備の停止又は1次側電源遮断が、待機状態のある電動力応用設備及び電気加熱設備(電動機出力に対して、どの程度の割合で実施されているか)と、電気加熱設備の量及び炉内配置の見直しと装てん方法の調整が実施されているか。					
f 特殊空調設備	5f.1	5e.2 電気炉における被加熱物の装てん方法の調整	電気炉において、被加熱物の装てん方法の調整が実施されているか。					
		5e.3 電気炉における炉内被加熱物の温度管理	電気炉において、過熱防止のために炉内被加熱物の温度管理が実施されているか。					
		5e.4 エアブローの適正化	圧縮空気の削減のために、エアブローの吹き付け範囲、エア噴射時間等の適正化が実施されているか。					
g 特殊空調設備	5g.1	5e.5 生産プロセスにおけるポンプ・ブロー・ファン・間欠運転の実施	生産プロセスにおいて、ポンプ、ブロー又はファンの間欠運転が、生産プロセス用ポンプ・ブロー・ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で実施されているか。					
		5e.6 電気炉におけるヒートバターの改善	電気炉において、設備の構造、被加熱物の特性、加熱・熱処理等の前後の工程等に応じて、熱効率を向上させるために、ヒートバターの改善が実施されているか。					
		5e.7 電気炉における工程間の待ち時間の短縮	電気炉において、加熱を反復して行う工程の待ち時間の短縮が実施されているか。					
h 特殊空調設備	5h.1	5e.8 電解設備の電解効率の改善	適当な形状及び特性の電極を採用し、電極間の距離、電解液の濃度を適正な値とし、導体の接触抵抗等を低減するよう電解効率の改善対策が実施されているか。					
		5e.9 電気加熱設備のタッグ切替・ON/OFFの実施	温度による電気加熱設備のタッグ切替又はON/OFFが実施されているか。					
		5f.1 クリーンルームの清浄度の適正化	管理値を上回る過剰品質にならないように、クリーンルームの清浄度の適正化が実施されているか。					
i 特殊空調設備	5i.1	5f.2 非使用時の特殊空調室の低風量運転の実施	夜間及び休日、無人時など非使用時に、特殊空調室の低風量運転又は間引き運転(自動制御が有効に機能している場合を含む。)が実施されているか。					
		5f.3 冷凍・冷蔵設備冷却器の除霜(デフロスト)の実施	冷凍・冷蔵設備冷却器の除霜(デフロスト)が実施されているか。(霜霜制御がある場合も除霜実施とみなす。)					

6 生産・プラント・特殊設備の保守管理	5f.4	特殊空調室の温度・湿度設定の緩和	季節に応じて、特殊空調室の温度・湿度設定の変更が実施されているか。				○
	5f.5	特殊空調室の運転時間の短縮	夜間、休日など特殊空調室の運転時間の短縮が実施されているか。				○
	5f.6	特殊空調室の温度・湿度PID制御の調整	特殊空調室の加熱・冷却制御のインターバル等を実測及び分析し、温度・湿度PID制御パラメータの調整が実施されているか。				○
	5f.7	気流シミュレーションによるクリーンルームの気流改善	気流シミュレーションを活用し、クリーンルームの気流改善が実施されているか。				○
	5g.1	特殊排気設備の排気量の適正化	生産設備での必要風量に合わせて、特殊排気設備の排気量の適正化が実施されているか。				○
	5g.2	非使用時の特殊排気設備の低風量運転の実施	竣工機等の生産設備の非使用時に特殊排気設備の低風量運転が実施されているか。				○
	5h.1	純水原水加熱設定温度の適正化	生産設備に問題ない範囲で、純水原水加熱設定温度の適正化が実施されているか。				○
	5h.2	RO装置等の運転台数の適正化	RO装置等が複数ある場合、RO装置等の交互運転、減量運転又は停止など運転台数の適正化が実施されているか。				○
	5h.3	UVランプ・UV酸化器の引き・停止	UVランプ又はUV酸化器の引き又は引きが実施されているか。				○
	5h.4	製品洗浄待ち時間中のスタンバイブロー低減の実施	製品洗浄待ち時間中に機能上問題ない範囲で、スタンバイブローの低減が実施されているか。				○
	5h.5	RO装置回収率の適正化	原水水质を考慮して、RO装置回収率の適正化が実施されているか。				○
	5i.1	燃費の管理	場内輸送設備の燃費の管理が実施されているか。				○
	6a.1	燃焼設備の定期的な保守・点検	燃料燃焼の良好な状態を維持するために、燃焼設備の定期的な保守及び点検が実施されているか。				○
	6b.1	加熱及び冷却並びに伝熱	伝熱性能低下を防止するために、熱交換器等の煤じん、スタールその他の付着物の定期的な除去が実施されているか。				○
	6c.1	排熱回収	排熱回収及び排熱利用の効率を維持するために、排熱回収設備の定期的な保守及び点検が実施されているか。				○
	6d.1	燃焼設備・熱利用設備の定期的な保守・点検	開口部等からの熱媒体の漏れ及び空気の流入による熱の損失を防止するために、燃焼設備及び熱利用設備の定期的な保守及び点検が実施されているか。				○
	6d.2	配管の定期的な保守・点検	配管表面からの熱損失、漏れ等を防止するために、配管の定期的な保守及び点検が実施されているか。				○
	6d.3	燃料・製品貯蔵設備の定期的な保守・点検	熱の漏れ等を防止するために、燃料・製品貯蔵設備の定期的な保守及び点検が実施されているか。				○
	6e.1	電動力応用設備・電気加熱設備の定期的な保守・点検	電気使用の良好な状態を維持するために、電動力応用設備及び電気加熱設備の定期的な保守及び点検が実施されているか。				○
	6e.2	生産プロセスにおけるブロー・ファン・フィルターの清掃	生産プロセスにおいて、ブロー・ファン・フィルターの清掃が定期的に行われているか。				○
	6f.1	特殊空調設備	特殊空調の良好な状態を維持するために、特殊空調設備の定期的な保守及び点検が実施されているか。				○
	6f.2	冷凍・冷蔵庫の保溫管理	冷凍・冷蔵庫の保溫状況の点検及び保守が実施されているか。				○

II 設備及び建物の性能に関する事項	5 a.共通 ・上水道施設の省エネルギー性能に関する事項	a.共通	5a.1	高効率上水道ポンプの導入	高効率上水道ポンプが、上水道ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○					
			5a.2	上水道ポンプの台数制御の導入	同一系統に複数のポンプが設置されている場合、上水道ポンプの台数制御が、対象上水道ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○					
			5a.3	上水道ポンプの回転数制御の導入	上水道ポンプのインバータ・静止セルピダス等による回転数制御が、上水道ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○					
			5a.4	高効率ブロウ・ファン等の導入	高効率ブロウ及びファンが、ブロウ・ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○					
			5a.5	上水道ポンプの翼角制御の導入	上水道ポンプの翼角制御が、上水道ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○					
			5a.6	上水道ポンプのインペラの改良	上水道ポンプのインペラが、上水道ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で改良されているか。	○					
			b.取水・導水工程	5b.1	除じん機の上下流の水位差によるON-OFF制御の導入	除じん機の上下流の水位差によるON-OFF制御が導入されているか。	○				
				5b.2	場内雨水利用の導入	場内雨水の原水利用が導入されているか。	○				
				c.沈殿・ろ過工程	5c.1	かくはん装置の回転数制御の導入	かくはん装置の回転数制御が、かくはん装置総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○			
					5c.2	かくはん装置の低速モータの導入	かくはん装置の低速モータが、かくはん装置総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○			
					5c.3	自然平衡形ろ過池の導入	自然平衡形ろ過池(グリーンリフ方式)が導入されているか。	○			
			d.高度浄水工程	5d.1	オン・プロローのインバータ制御の導入	オン・プロローのインバータ制御が、オン・プロロー総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○				
				5e.1	天日乾燥と脱水機併用の汚泥脱水システムの導入	天日乾燥と脱水機の併用による汚泥脱水システムが導入されているか。	○				
			III 設備及び事業所の運用に関する事項	5 a.共通	a.共通	5e.2	排熱利用による濃縮汚泥加熱システムの導入	排熱利用による濃縮汚泥を加熱するシステムが導入されているか。	○		
						5a.1	水量・水圧の適正化	水量及び水圧の適正化が実施されているか。	○		
						5a.2	上水道ポンプ台数制御の適正化	上水道ポンプ台数制御の適正化が実施されているか。	○		
						b.取水・導水工程	5b.1	除じん機の運転時間・運転間隔の適正化	除じん機の運転時間・運転間隔の適正化が実施されているか。	○	
5c.1	汚泥かさ寄せ機の運転時間・運転間隔の適正化	汚泥かさ寄せ機の運転時間及び運転間隔の適正化が実施されているか。					○				
c.沈殿・ろ過工程	5c.2	汚泥排出装置の運転時間・運転間隔の適正化				界面計又は濃度計の利用による汚泥排出装置の運転時間及び運転間隔の適正化が実施されているか。	○				
	5c.3	ろ過逆洗・空洗の頻度の適正化				ろ過逆洗及び空洗の頻度の適正化が実施されているか。	○				
d.高度浄水工程	5d.1	膜ろ過の膜洗浄の頻度・時間の適正化				膜ろ過の膜洗浄の頻度及び時間の適正化が実施されているか。	○				
	5d.2	オン注入量の調整				オン注入量の調整が実施されているか。	○				
e.排水処理工程	5e.1	汚泥濃縮設備の運転時間・運転間隔の適正化				汚泥濃縮設備の運転時間及び運転間隔の適正化が実施されているか。	○				
	5e.2	汚泥脱水設備の運転時間・運転間隔の適正化				汚泥脱水設備の運転時間及び運転間隔の適正化が実施されているか。	○				
管理・保守事項	a.共通	a.共通				6a.1	上水道施設の定期的な保守・点検	上水道施設の良好な状態を維持するために、定期的に保守及び点検が実施されているか。	○		
						6a.2	ブロウ・ファン等の吸気フィルターの清掃	ブロウ・ファン等の吸気フィルターの清掃が定期的に行われているか。	○		
						5a.1	主ポンプの台数制御の導入	主ポンプの台数制御が、主ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○		
						5a.2	高効率主ポンプの導入	高効率モータを使用した高効率主ポンプが、主ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○		
						5a.3	主ポンプの回転数制御の導入	主ポンプのインバータ・静止セルピダス等による回転数制御が、主ポンプ(雨水ポンプを除く)総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○		
II 設備及び建物の性能に関する事項	5 a.共通	a.共通				5a.4	スクリーン・揚砂設備の間欠制御の導入	スクリーン・揚砂設備の間欠制御が導入されているか。	○		
			5a.5	流入水量による池数制御の導入	流入水量による池数制御が導入されているか。	○					
			b.水処理工程	5b.1	ばっ気用ブロウの台数制御の導入	ばっ気用ブロウの台数制御が、ばっ気用ブロウ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○				
				5b.2	ばっ気用ブロウの回転数制御・インレットベーン制御の導入	ばっ気用ブロウの回転数制御又はインレットベーン制御が、ばっ気用ブロウ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○				
				5b.3	微細気泡散気装置の導入	微細気泡散気装置が、系列数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○				
5b.4	返送汚泥ポンプの台数制御の導入	返送汚泥ポンプの台数制御が、返送汚泥ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。		○							
5b.5	高効率返送汚泥ポンプの導入	高効率モータを使用した高効率返送汚泥ポンプが、返送汚泥ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○								

III 設備及び事業所の運用に関する事項	5	下水道施設の運用管理	a.前処理工程 b.水処理工程 c.汚泥処理工程 d.汚泥焼却工程 e.共通	5b.6	汚泥かき寄せ機の間欠制御の導入	タイマー、汚泥界面による汚泥かき寄せ機の間欠制御が導入されているか。			○
				5b.7	汚泥引き抜きポンプの間欠制御の導入	タイマー、濃度、ブリセット量による汚泥引き抜きポンプの間欠制御が導入されているか。			○
				5b.8	返送汚泥ポンプの回転数制御の導入	返送汚泥ポンプの回転数制御が、返送汚泥ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。			○
				5b.9	ばっ気用ブロワの送風量制御の導入	流入水量比例制御、MLSS(活性汚泥濃度)制御、DO(溶存酸素濃度)制御、ORP制御又は硝化(アンモニア濃度)制御によるばっ気用ブロワの送風量制御が、ばっ気用ブロワ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。			○
				5b.10	水中かきはん機の間欠制御の導入	水中かきはん機の間欠制御が、水中かきはん機総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。			○
				5b.11	水中かきはん機の間欠制御の導入	水中かきはん機の間欠制御が、水中かきはん機総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。			○
				5b.12	ブロワ管への超音波流量計の導入	ブロワ管の圧力損失低減のために、超音波流量計が導入されているか。			○
				5b.13	余剰汚泥ポンプの間欠制御の導入	タイマー、濃度又はブリセット量による余剰汚泥ポンプの間欠制御が導入されているか。			○
				5b.14	軽量チェーン汚泥かき寄せ機の導入	樹脂製の軽量チェーンかき寄せ機が導入されているか。			○
				5b.15	高効率ばっ気用ブロワの導入	高効率モーターを使用した高効率ばっ気用ブロワが、ばっ気用ブロワ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。			○
				5b.16	スチータムタービン駆動ブロワの導入	スチータムタービン駆動ブロワが導入されているか。			○
				5b.17	硝化液循環ポンプの台数制御の導入	硝化液循環ポンプの台数制御が、硝化液循環ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。			○
				5b.18	硝化液循環ポンプの回転数制御の導入	硝化液循環ポンプの回転数制御が、硝化液循環ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。			○
				5c.1	汚泥輸送ポンプの台数制御の導入	汚泥輸送ポンプの台数制御が、汚泥輸送ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○		
				5c.2	高効率汚泥輸送ポンプの導入	高効率モーターを使用した高効率汚泥輸送ポンプが、汚泥輸送ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。			○
5c.3	汚泥輸送ポンプの回転数制御の導入	汚泥輸送ポンプの回転数制御が、汚泥輸送ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。			○				
5c.4	高効率汚泥脱水装置の導入	高効率な汚泥脱水装置が導入されているか。			○				
5c.5	高性能フィルターの導入	汚泥含水率低減のために、高性能フィルターが導入されているか。			○				
5d.1	汚泥焼却炉等の流動ブロワ・誘引ファン回転数制御の導入	汚泥焼却炉、焼成炉及び溶融炉の流動ブロワ及び誘引ファンの回転数制御が、流動ブロワ・誘引ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。			○				
5d.2	汚泥焼却炉等の炉壁外面温度による断熱強化	汚泥焼却炉、焼成炉及び溶融炉の炉壁外面温度による断熱強化がどの程度実施されているか。			○				
5d.3	汚泥焼却炉等の排熱回収システムの導入	汚泥焼却炉、焼成炉及び溶融炉の排熱回収システムが導入されているか。			○				
5d.4	汚泥焼却炉等の排熱蒸気による暖房利用システムの導入	汚泥焼却炉、焼成炉及び溶融炉の排熱蒸気による暖房利用システムが導入されているか。			○				
5a.1	主ポンプの高水位運転の実施	主ポンプ(雨水ポンプを除く)の揚程を低減するために、高水位運転が実施されているか。			○				
5b.1	必要ばっ気圧力に合わせた空気供給圧力の管理	必要ばっ気圧力に対して過剰にならないように、空気供給圧力が調整されているか。		○					
5b.2	ろ過装置洗浄工程の適正化	ろ過装置洗浄工程の適正化が実施されているか。			○				
5b.3	脱臭空気量の低減の実施	臭気発生源の拡散防止、発生臭気の捕えい防止又は一般換気との分離により、脱臭空気量の低減が実施されているか。			○				
5b.4	スクラム除去設備のスクラム捕捉効率の管理	スクラム除去設備のスクラム捕捉効率の管理が実施されているか。			○				
5c.1	消化タンクの投入汚泥濃度管理・温度管理	消化タンクの投入汚泥濃度管理及び温度管理が実施されているか。			○				
5c.2	脱水汚泥の低含水率化の実施	脱水汚泥の低含水率化が実施されているか。			○				
5d.1	汚泥焼却炉等の燃料と空気の適正化	汚泥焼却炉、焼成炉及び溶融炉の燃料と空気の適正化が実施されているか。		○					
5d.2	汚泥焼却炉等の負荷率の適正化	汚泥焼却炉、焼成炉及び溶融炉の適正負荷率運転が実施されているか。			○				
5d.3	汚泥焼却炉等の熱媒体(砂)の温度・量の管理	汚泥焼却炉、焼成炉及び溶融炉の熱媒体(砂)の温度・量の管理が実施されているか。			○				
5d.4	汚泥焼却炉等の連続運転の実施	汚泥焼却炉、焼成炉及び溶融炉の連続運転が実施されているか。			○				
5d.5	汚泥焼却炉等の自然燃焼拡大の実施	補助燃料の低減のために、汚泥焼却炉、焼成炉及び溶融炉の自然燃焼拡大が実施されているか。			○				
6e.1	下水道施設の定期的な保守・点検	下水道施設の良好な状態を維持するために、定期的に保守及び点検が実施されているか。			○				
6e.2	ばっ気用ブロワ・ファン等の吸気フィルターの清掃	ばっ気用ブロワ・ファン等の吸気フィルターの清掃が定期的に行われているか。			○				

II 設備及び建築物の性能に関する事項	5 a. 前処理工程 b. 熟処理工程	5a.1 高効率ごみクレーン等の導入	高効率ごみクレーン及び高効率吹クレーンが導入されているか。	○	
		5a.2 高効率ごみ投入扉システムの導入	高効率ごみ投入扉システムが導入されているか。	○	
		5a.3 高効率脱臭ファン等の導入	高効率脱臭ファンが、脱臭ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○	
		5a.4 乾燥機の排熱利用システムの導入	乾燥機に排ガス再循環、排ガス熱回収、低圧抽気蒸気等の熱利用システムが導入されているか。	○	
		5a.5 乾燥機の高効率バーナー等の導入	乾燥機に高効率バーナーが導入されているか。	○	
		5a.6 乾燥機の高効率自動乾燥制御装置の導入	乾燥機に高効率自動乾燥制御装置が導入されているか。	○	
		5b.1 焼却炉等の自動燃焼装置の導入	焼却炉及びガス化溶融炉に自動燃焼装置が導入されているか。	○	
		5b.2 焼却炉等の排熱回収システムの導入	焼却炉及びガス化溶融炉及び燃料式溶融炉の排熱回収システムが導入されているか。	○	
		5b.3 通風設備の高効率ブロワ等の導入	通風設備の高効率ブロワ、ファンが、ブロワ、ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	○	
		5b.4 燃料式溶融炉の高効率バーナー等の導入	燃料式溶融炉がある場合、高効率バーナー、純酸素バーナー又は廃棄物利用バーナーが導入されているか。	○	
		5b.5 電気式溶融炉の最適電力制御の導入	電気式溶融炉がある場合、最適電力制御が導入されているか。	○	
		5b.6 高効率排熱ボイラー等の導入	高温高圧ボイラー、給水加熱、機械式ハンマリング装置等の高効率排熱ボイラーが導入されているか。	○	
		5b.7 排熱ボイラーの低温エコマイザー等の導入	排熱ボイラーに低温エコマイザーが導入されているか。	○	
		5b.8 通風設備のブロワ、ファンの回転数制御の導入	通風設備のブロワ、ファンの回転数制御が導入されているか。	○	
5b.9 焼却炉等の高効率断熱炉体の導入	焼却炉及びガス化溶融炉に高効率断熱炉体が導入されているか。	○			
5b.10 焼却炉等における炉体のボイラー化	焼却炉及びガス化溶融炉に、水冷壁等の炉体のボイラー化が導入されているか。	○			
5b.11 減温塔の最適水噴霧制御の導入	減温塔に最適水噴霧制御が導入されているか。	○			
5b.12 通風設備の蒸気タービン駆動ブロワ等の導入	通風設備に蒸気タービン駆動ブロワが導入されているか。	○			
5b.13 通風設備の高効率蒸気予熱器の導入	通風設備に、低圧蒸気利用の温度制御による高効率蒸気予熱器が導入されているか。	○			
5b.14 炉室内の最適換気制御システムの導入	炉室内の最適換気制御システムが導入されているか。	○			
5c.1 コンベアのインバータ制御の導入	コンベアの搬送速度のインバータ制御が導入されているか。	○			
5c.2 飛灰固化装置のインバータ制御の導入	飛灰固化装置の混練機駆動のインバータ制御が導入されているか。	○			
5c.3 排ガス処理用触媒反応塔への低温触媒の導入	再加熱用装置の低減のために、排ガス処理用の触媒反応塔に低温触媒が導入されているか。	○			
5c.4 白煙防止用空気加熱器の空気量制御の導入	白煙防止用空気加熱器に、外気条件による空気量制御が導入されているか。	○			
5c.5 加熱脱塩素化装置の最適温度制御の導入	加熱脱塩素化装置の反応装置内の最適温度制御が導入されているか。	○			
5a.1 脱臭ファンの運転時間短縮の実施	脱臭ファンの運転時間の短縮が実施されているか。	○			
5b.1 焼却炉等の燃料と空気量の適正化	焼却炉、ガス化溶融炉及び燃料式溶融炉の燃料と空気量の適正化が実施されているか。	○			
5b.2 通風設備の送風量の適正化	通風設備の送風量の適正化が実施されているか。	○			
5b.3 発電用蒸気量の調整	発電用蒸気量を増やすための調整が実施されているか。	○			
5c.1 透過式集じん装置のヒーター温度制御の適正化	透過式集じん装置のヒーター温度制御の適正化が実施されているか。	○			
6d.1 廃棄物処理施設の定期的な保守・点検	廃棄物処理施設の良好な状態を維持するために、定期的な保守及び点検が実施されているか。	○			

評価項目の区分	No.	評価項目	評価内容	取組状況の程度		取組状況の評価点		
				点数 P	係数 K	点数 P	係数 K	
I 一般管理事項	1. CO2削減推進体制の整備	1.1	CO2削減推進会議等の設置及び開催	CO2削減推進会議が設置され、どの程度の頻度で実施されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	月1回以上	1		
		1.2	PDCA管理サイクルの実施体制の整備	PDCA管理サイクル(計画・実施・確認・処置)の実施体制がどの程度整備されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	年2回以上 年2回未満又は実施無し 全て整備	0.5 0 1		
		1.3	ISO14001の取得	ISO14001が取得されているか。	取得	1		
		1.4	CO2削減に関するQCサークル活動、改善提案制度の導入	CO2削減に関するQCサークル活動、改善提案制度が導入されているか。	取得無し 導入	0 1		
		1.5	エネルギー管理優良工場、省エネ大賞等の表彰	エネルギー管理優良工場、省エネ大賞(省エネ事例部門)等で表彰されているか。	導入無し 表彰	0 1		
	2. 図面、管理標準等の整備	2.1	図面・改修履歴等の整備	竣工図、機器完成図、改修履歴がわかる図面等が、どの程度整備されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	表彰無し 概ね80%以上は整備 概ね50%以上は整備 整備無し	0 1 0.5 0		
		2.2	設備台帳等の整備	エネルギー使用機器の管理のために、設備台帳等が、どの程度整備されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	概ね80%以上は整備 概ね50%以上は整備 整備無し	1 0.5 0		
		2.3	管理標準等の整備	管理標準及び運転操作マニュアルが整備されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	整備 整備無し	1 0		
	3. 主要設備等に関する計測・計量及び記録	3.1	エネルギー管理システムの導入	エネルギー設備(蒸気供給、熱源、コージェネ及び圧縮空気)、生産工程・処理工程ごとのエネルギー使用量を総合的に管理できるエネルギー管理システムが導入されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	エネルギー消費分析・管理 自動データ収集 直読データ収集	1 0.8 0.5		
		3.2	電力負荷状況、発電状況等の把握に必要な計測・計量設備の導入	電力負荷状況、発電状況並びに各変圧器の需要率、負荷率及び不平等率の把握に必要な計測・計量設備が、一次側の電圧が400V以上の変圧器台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	採用無し 80%以上に採用 40%以上80%未満に採用 40%未満に採用又は採用無し	0 1 0.5 0		
		3.3	エネルギー消費先別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入	エネルギー消費先別の細目の電力量・燃料消費量・熱量の把握に必要な計測・計量設備による一次エネルギー実測値が、事業所全体のエネルギー消費量に対して、どの程度の割合になっているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	70%以上 50%以上70%未満 30%以上50%未満 30%未満	1 0.8 0.5 0		
		3.4	系統別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入	系統別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入 ただし、除外項目がある場合は、除外項目を除いた係数の合計が1となるように、それぞれの係数を補正するものとし、評価点は小数点以下3位未満の数値を四捨五入して得た数値で、最高1点、最低0点とする。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	$\Sigma (P_1 \times K_1 + \dots + P_2 \times K_2)$			
					80%以上に採用 40%以上80%未満に採用 40%未満に採用又は採用無し 80%以上に採用 40%以上80%未満に採用	1 0.5 0 1 0.5	0.6	
					電力量の系統別の細分化 熱量(冷温水)の系統別の細分化			

			蒸気量の系統別の細分化	40%未満に採用又は採用無し 熱源無し 80%以上に採用 40%以上80%未満に採用 40%未満に採用又は採用無し 蒸気無し 80%以上に採用 40%以上80%未満に採用 40%未満に採用又は採用無し 圧縮空気無し	0 - 1 0.5 0 - 1 0.5 0 -	0.1
			圧縮空気量の系統別の細分化	80%以上に採用 40%以上80%未満に採用 40%未満に採用又は採用無し 蒸気無し 80%以上に採用 40%以上80%未満に採用 40%未満に採用又は採用無し 圧縮空気無し	1 0.5 0 - 1 0.5 0 -	0.1
4.	エネルギー消費量・CO2排出量の管理	3.5	管理日報・月報・年報の作成 (評価点が30点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	管理日報、月報及び年報の作成が実施されているか。	実施 実施無し	1 0
		3.6	エネルギー設備の分析に必要な計測・計量設備の導入	エネルギー設備(蒸気供給、熱源、コージェネ及び圧縮空気)のエネルギー使用量や運転効率等の分析に必要な電力量・燃料消費量・熱量・流量・温度・蒸気量・圧縮空気量・給水量等の計測・計量設備が、設備区分の数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	1又は3/4に採用 2/3又は1/2に採用 1/3に採用 1/4に採用 採用無し エネルギー設備無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -
		4.1	生産工程・処理工程のエネルギー管理	生産工程・処理工程の稼働状況に応じたエネルギー使用状況の管理や分析が実施されているか。	実施 実施無し 生産工程・処理工程無し	1 0 -
		4.2	エネルギー消費特性の把握、エネルギー消費原単位の算出及び管理	エネルギーマネジメントシステム等のデータを活用し、電力及び熱のピーク負荷の数値化等によるエネルギー消費の特性、建物全体のエネルギー消費原単位の算出及び類似の建物との比較により、省エネルギー状況の管理が実施されているか。	実施 実施無し	1 0
		4.3	CO2排出量の管理	事業所全体のCO2排出量及び原単位の管理がどの程度の頻度で実施されているか。 (評価点が30点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	月1回以上 年2回以上 年1回程度又は実施無し	1 0.5 0
		4.4	CO2削減目標の設定、CO2削減対策計画の立案及び実績の評価	2024年度までのCO2排出量削減に向けた目標を設定し、CO2削減対策項目ごとの具体的な計画の立案及び実績の集約・評価がどの程度実施されているか。	全て実施 計画の立案のみ 実施無し 実施	1 0.5 0 1
		4.5	CO2削減対策の啓発活動の実施	空調・照明等の使用時間短縮、事務用機器・パソコン等の省電力化、冷凍冷蔵庫・ブラインド等の効率運用などCO2削減対策に関する啓発活動が実施されているか。 (評価点が30点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	実施無し 実施	0 1
		4.6	改善策の立案・実施及び効果検証の実施	エネルギーマネジメントシステム等のデータの活用等により問題点を抽出し、優先的に改善すべき課題の決定、具体的な対策・計画及びコミュニケーションなどの改善策の立案と実施、その効果の検証がどの程度実施されているか。 (評価点が30点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	全て実施 立案・実施のみ 実施無し	1 0.5 0
		4.7	エネルギー設備の運転解析の実施	エネルギー設備(蒸気供給、熱源、コージェネ及び圧縮空気)のエネルギーデータの運転解析により、需要パターンに応じた機器の選択と稼働率の選定等、運用実施に即した運転計画と運転効率の検証が、設備区分の数(対象設備が無い場合を除く。)に対して、どの程度の割合で実施されているか。 (評価点が30点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	1又は3/4で実施 2/3又は1/2で実施 1/3で実施 1/4で実施 実施無し エネルギー設備無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -
		4.8	従業員等への環境・エネルギー情報提供システムの導入	イントラネット等を介して、従業員等がいつでも環境・エネルギー情報を見ることができているか。提供している見える化のシステムが導入され、どの程度の頻度でデータが更新されているか。	月1回以上 月1回程度 採用無し	1 0.5 0
5.	保守・点検の管理	5.1	保守・点検計画の策定及び実施	燃焼設備及び動力設備の保守・点検計画の策定及び計画に基づいた保守・点検の実施がどの程度実施されているか。 (評価点が30点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	全て実施 計画の策定のみ 実施無し	1 0.5 0

I ・ユーティリティ設備等の省エネルギー性能	a. 蒸気供給設備	<p>1a.1 高効率蒸気ボイラーの導入</p> <p>高効率蒸気ボイラーが、全ての蒸気ボイラー(地域冷暖房受入を含む。)に対して、どの程度導入されているか。</p> <p>年間熱製造実績が把握できている場合 $\text{評価点} = \sum (P_1 \times Q_1 + \dots + P_n \times Q_n) / \sum (Q_1 + \dots + Q_n) \dots \text{(式1)}$ 年間熱製造実績が把握できていない場合 $\text{評価点} = \sum (P_1 \times H_1 \times N_1 + \dots + P_n \times H_n \times N_n) / \sum (H_1 \times N_1 + \dots + H_n \times N_n) \dots \text{(式2)}$ $P = 1 - (\eta_H - \eta) / (\eta_H - \eta_L)$ エネルギー源が再生可能エネルギーの場合 $P = 1.0$ 地域冷暖房受入の場合 $P_n = 0.8$ $\eta = (3.6 \times H_n) / (K \times E_n)$ (いづれかの蒸気ボイラーの設置年度が1995年度から2012年度まで以外で、かつ全ての蒸気ボイラーごとのボイラー効率ηが、表1.3の水準の欄に掲げる数値未満の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)</p> <p>これらの式において、$P_{1 \sim n}$、$Q_{1 \sim n}$、$H_{1 \sim n}$、$N_{1 \sim n}$、K、$E_{1 \sim n}$、η、η_H、η_Lは、それぞれ次の数値を表すものとする。</p> <p>$P_{1 \sim n}$ 蒸気ボイラー1～nごとの点数 (小数点以下3位未満の数値を四捨五入して得た数値で、最高1点、最低0点とする。)</p> <p>$Q_{1 \sim n}$ 蒸気ボイラー1～nごとの年間熱製造実績 (単位:ギガジュール/年)</p> <p>$H_{1 \sim n}$ 蒸気ボイラー1～nごとのボイラー容量(単位:キロワット)</p> <p>$N_{1 \sim n}$ 蒸気ボイラー1～nごとの台数</p> <p>K エネルギー消費量の換算係数で表1.5に掲げる数値</p> <p>$E_{1 \sim n}$ 蒸気ボイラー1～nごとの定格エネルギー消費量(単位:カジュール/h) (燃料の定格エネルギー消費量は高位発熱量とし、定格ガス消費量は、納入時の高位発熱量で熱量に換算する。)</p> <p>η 蒸気ボイラーのボイラー効率[*]</p> <p>※ ボイラー効率は、高位発熱量基準の数値とする。</p> <p>η_H 高効率蒸気ボイラーの最高効率で表1.1に定める数値</p> <p>η_L 高効率蒸気ボイラーの最低効率で表1.2に定める数値</p>	ボイラー機種ごとのボイラー効率 [*] と年間熱製造実績	式1又は式2による。																										
		<p>表1.1 高効率蒸気ボイラーごとの最高効率</p> <table border="1"> <tr> <td>下記以外の場合</td> <td>表1.3の最高の欄に掲げる数値</td> </tr> <tr> <td>熱源機器の設置年度が2000年度から2012年度までの場合</td> <td>表1.3の水準の欄に掲げる数値</td> </tr> <tr> <td>熱源機器の設置年度が1991年度から1999年度までの場合</td> <td>次に掲げる式によって計算した数値</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> $\eta_{HI} = \eta_{S1} + (\eta_{H0} - \eta_{S1}) \times (2000 - n) / (2000 - 1990)$ η_{HI}: 熱源機器の設置年度が1991年度から1999年度までの場合の最高効率 η_{S1}: 表1.3の水準の欄に掲げる数値 η_{H0}: 表1.3の最高の欄に掲げる数値 n: 熱源機器の設置年度 </td> </tr> </table> <p>表1.2 高効率蒸気ボイラーごとの最低効率</p> <table border="1"> <tr> <td>下記以外の場合</td> <td>表1.3の最低の欄に掲げる数値</td> </tr> <tr> <td>発電所(熱供給施設併設)の場合</td> <td>表1.3のDHC最低の欄に掲げる数値</td> </tr> </table> <p>表1.3 高効率蒸気ボイラーの水準</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">ボイラー機種</td> <td colspan="2">ボイラー効率</td> </tr> <tr> <td>最高</td> <td>最低</td> </tr> <tr> <td>蒸気ボイラー</td> <td>0.882</td> <td>0.736</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>DHC最低</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>0.794</td> </tr> </table>	下記以外の場合	表1.3の最高の欄に掲げる数値	熱源機器の設置年度が2000年度から2012年度までの場合	表1.3の水準の欄に掲げる数値	熱源機器の設置年度が1991年度から1999年度までの場合	次に掲げる式によって計算した数値	$\eta_{HI} = \eta_{S1} + (\eta_{H0} - \eta_{S1}) \times (2000 - n) / (2000 - 1990)$ η_{HI} : 熱源機器の設置年度が1991年度から1999年度までの場合の最高効率 η_{S1} : 表1.3の水準の欄に掲げる数値 η_{H0} : 表1.3の最高の欄に掲げる数値 n : 熱源機器の設置年度		下記以外の場合	表1.3の最低の欄に掲げる数値	発電所(熱供給施設併設)の場合	表1.3のDHC最低の欄に掲げる数値	ボイラー機種	ボイラー効率		最高	最低	蒸気ボイラー	0.882	0.736			DHC最低			0.794		
下記以外の場合	表1.3の最高の欄に掲げる数値																													
熱源機器の設置年度が2000年度から2012年度までの場合	表1.3の水準の欄に掲げる数値																													
熱源機器の設置年度が1991年度から1999年度までの場合	次に掲げる式によって計算した数値																													
$\eta_{HI} = \eta_{S1} + (\eta_{H0} - \eta_{S1}) \times (2000 - n) / (2000 - 1990)$ η_{HI} : 熱源機器の設置年度が1991年度から1999年度までの場合の最高効率 η_{S1} : 表1.3の水準の欄に掲げる数値 η_{H0} : 表1.3の最高の欄に掲げる数値 n : 熱源機器の設置年度																														
下記以外の場合	表1.3の最低の欄に掲げる数値																													
発電所(熱供給施設併設)の場合	表1.3のDHC最低の欄に掲げる数値																													
ボイラー機種	ボイラー効率																													
	最高	最低																												
蒸気ボイラー	0.882	0.736																												
		DHC最低																												
		0.794																												

表1.4 エネルギー消費量の換算係数

エネルギー種別	換算係数
電気	3.6 (単位 MJ/kWh)
ガス	1 (単位 MJ/MJ)
LPG	50.8 (単位 MJ/kg)
A重油	39.1 (単位 MJ/l)
灯油	36.7 (単位 MJ/l)
蒸気、温水、冷水	1 (単位 MJ/MJ)

備考 燃料のエネルギー消費量は高位発熱量とする。

1a.2	蒸気ボイラーのエコノマイザー又はエアヒーターの導入	導入時にエコノマイザー等が未設置であった蒸気ボイラーの全てに、追加的なエコノマイザー又はエアヒーターが導入されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	採用 採用無し 対象機器無し	1 0 -
1a.3	蒸気弁・フランジ部の断熱	蒸気弁及びフランジ部が、どの程度断熱されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	ボイラー回り及び装置回り ボイラー回り 装置回り 採用無し 蒸気無し 採用	1 0.8 0.5 0 - 1
1a.4	蒸気ドレンタンクの断熱	全ての蒸気ドレンタンクが断熱されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	採用無し 蒸気無し 採用	0 - 1
1a.5	蒸気ボイラーの台数制御の導入	蒸気ボイラーの台数制御(オペレーターによる制御を含む。)が導入されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	採用無し 採用	0 1
1a.6	蒸気ドレン回収設備の導入	蒸気ドレン回収設備が、定格蒸気消費量(直接利用するものを除く。)に対して、どの程度の割合で導入されているか。	蒸気ボイラー無し 80%以上に採用 40%以上80%未満に採用 40%未満に採用又は採用無し 蒸気無し 採用	- 1 0.5 0 - 1
1a.7	蒸気ドレンのクロウズド回収方式の導入	蒸気ドレン回収にクロウズド回収方式が、定格蒸気消費量(直接利用するものを除く。)に対して、どの程度の割合で導入されているか。	80%以上に採用 40%以上80%未満に採用 40%未満に採用又は採用無し 蒸気無し 採用	1 0.5 0 - 1
1a.8	蒸気ボイラーの小型分散システムの導入	蒸気ボイラーの小型分散システムが導入されているか。	採用 蒸気ボイラー無し 採用無し	1 0 -
1a.9	省エネ型スチームトラップの導入	使用用途に適した省エネ型スチームトラップが、スチームトラップの全個数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	蒸気ボイラー無し 95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 採用	1 0.8 0.5 0.2 0 1
1a.10	蒸気ボイラーの押込送風機インバータ制御の導入	導入時に押込送風機インバータ制御が未対応であった蒸気ボイラーの全てに、追加的な押込送風機インバータ制御が導入されているか。	採用無し 採用	0 1
1a.11	不要蒸気配管の撤去・蒸気配管ルート・サイズの変更	放熱ロス防止のために、不要蒸気配管の撤去、蒸気配管のルート又はサイズの変更のいずれかが行われているか。	採用無し 採用	0 1
1a.12	圧力差タービンの導入	高圧蒸気ラインと低圧蒸気ラインがある場合、圧力差タービンが導入されているか。	採用無し 採用	0 1
1a.13	フラッシュ蒸気利用設備の導入	フラッシュ蒸気利用設備が導入されているか。	採用 採用無し	1 0
1a.14	蒸気減圧エネルギー動力回収設備の導入	蒸気減圧エネルギー動力回収設備が導入されているか。	採用 採用無し	1 0

1a.15	アキუმレターターの導入	アキუმレターターが導入されているか。	採用 採用無し 採用 採用無し	1 0 1 0																			
1a.16	負荷に適した容量のパワーナナーへの変更	パワーナナー容量が過大な場合、負荷に適した容量のパワーナナーに変更されているか。	採用 採用無し	1 0																			
b.	熱源・熱搬送設備、冷却設備	高効率熱源機器の導入	採用 採用無し	1 0																			
		<p>高効率熱源機器が、全ての熱源機器（地域冷暖房受入を含む。）に対して、どの程度導入されているか。</p> <p>年間熱製造実績が把握できている場合 $\text{評価点} = \sum (P_1 \times Q_1 + \dots + P_n \times Q_n) / \sum (Q_1 + \dots + Q_n) \quad \dots (\text{式3})$ </p> <p>年間熱製造実績が把握できていない場合 $\text{評価点} = \sum (P_1 \times H_{C1} \times N_{C1} \times 2 + \dots + P_n \times H_{Hn} \times N_{Hn}) / \sum (H_{C1} \times N_{C1} \times 2 + \dots + H_{Hn} \times N_{Hn}) \quad \dots (\text{式4})$ </p> <p>$P = 1 - (\eta_H - \eta) / (\eta_H - \eta_L)$ エネルギー源が再生可能エネルギーの場合 $P_n = 1.0$ 地域冷暖房受入の場合 $P_n = 0.8$ $\eta = (3.6 \times H_n) / (K \times E_n)$ (いずれかの熱源機器の設置年度が1995年度から2012年度まで以外で、かつ全ての熱源機器ごとの定格COP又はボイラー効率、熱源機種に応じて表2.3又は表2.4の水準の欄に掲げる数値未満の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)</p>	<p>これらの式において、$P_1 \sim P_n$、$Q_1 \sim Q_n$、$H_{C1} \sim H_{Cn}$、$H_{H1} \sim H_{Hn}$、$N_{C1} \sim N_{Cn}$、$N_{H1} \sim N_{Hn}$、K、$E_1 \sim E_n$、η、η_H、η_Lは、それぞれ次の数値を表すものとす。</p> <p>$P_1 \sim P_n$ 熱源機器1～nごとの点数 (小数点以下3位未満の数値を四捨五入して得た数値で、最高1点、最低0点とする。ただし、インバーターボイラー冷凍機は、ターボ冷凍機の点数に0.1を加えた値とする。)</p> <p>$Q_1 \sim Q_n$ 熱源機器1～nごとの年間熱製造実績(単位:ギガジュール/年)</p> <p>$H_{C1} \sim H_{Cn}$ 冷熱源機器1～nごとの熱源容量(単位:キロワット)</p> <p>$H_{H1} \sim H_{Hn}$ 温熱源機器1～nごとの熱源容量(単位:キロワット)</p> <p>$N_{C1} \sim N_{Cn}$ 冷熱源機器1～nごとの台数</p> <p>$N_{H1} \sim N_{Hn}$ 温熱源機器1～nごとの台数</p> <p>K エネルギー消費量の換算係数で表1.4に掲げる数値</p> <p>$E_1 \sim E_n$ 熱源機器1～nごとの定格エネルギー消費量(単位:メガジュール/h) (燃料の定格エネルギー消費量は高位発熱量とし、定格ガス消費量は、納入時の高位発熱量で熱量に換算する。)</p> <p>η 熱源機器1～nごとの定格COP又はボイラー効率※</p> <p>※ ボイラー効率は、高位発熱量基準の数値とする。</p> <p>η_H 熱源機器ごとの最高効率で表2.1に定める数値</p> <p>η_L 熱源機器ごとの最低効率で表2.2に定める数値</p>	<p>式3又は式4による。</p>																			
		表2.1 熱源機種ごとの最高効率	<table border="1"> <thead> <tr> <th>緩和措置の対象</th> <th>最高効率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>下記以外の場合</td> <td>表2.3又は表2.4の最高水準の欄に掲げる数値</td> </tr> <tr> <td>熱源機器の設置年度が2000年度から2012年度までの場合</td> <td>表2.3又は表2.4の水準の欄に掲げる数値</td> </tr> <tr> <td>熱源機器の設置年度が1991年度から1999年度までの場合</td> <td>次に掲げる式によって計算した数値</td> </tr> <tr> <td>$\eta_{H1} = r_s + (\eta_{H0} - \eta_s) \times (2000 - n) / (2000 - 1990)$</td> <td></td> </tr> <tr> <td>η_{H1}: 熱源機器の設置年度が1991年度から1999年度までの場合の最高効率</td> <td></td> </tr> <tr> <td>η_s: 表2.3又は表2.4の水準の欄に掲げる数値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>η_{H0}: 表2.3又は表2.4の最高水準の欄に掲げる数値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>n: 熱源機器の設置年度</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	緩和措置の対象	最高効率	下記以外の場合	表2.3又は表2.4の最高水準の欄に掲げる数値	熱源機器の設置年度が2000年度から2012年度までの場合	表2.3又は表2.4の水準の欄に掲げる数値	熱源機器の設置年度が1991年度から1999年度までの場合	次に掲げる式によって計算した数値	$\eta_{H1} = r_s + (\eta_{H0} - \eta_s) \times (2000 - n) / (2000 - 1990)$		η_{H1} : 熱源機器の設置年度が1991年度から1999年度までの場合の最高効率		η_s : 表2.3又は表2.4の水準の欄に掲げる数値		η_{H0} : 表2.3又は表2.4の最高水準の欄に掲げる数値		n : 熱源機器の設置年度			
緩和措置の対象	最高効率																						
下記以外の場合	表2.3又は表2.4の最高水準の欄に掲げる数値																						
熱源機器の設置年度が2000年度から2012年度までの場合	表2.3又は表2.4の水準の欄に掲げる数値																						
熱源機器の設置年度が1991年度から1999年度までの場合	次に掲げる式によって計算した数値																						
$\eta_{H1} = r_s + (\eta_{H0} - \eta_s) \times (2000 - n) / (2000 - 1990)$																							
η_{H1} : 熱源機器の設置年度が1991年度から1999年度までの場合の最高効率																							
η_s : 表2.3又は表2.4の水準の欄に掲げる数値																							
η_{H0} : 表2.3又は表2.4の最高水準の欄に掲げる数値																							
n : 熱源機器の設置年度																							

表2.2 熱源機種ごとの最低効率

緩和措置の対象	最低効率
下記以外の場合	表2.3又は表2.4の最低の欄に掲げる数値
発電所(熱供給施設併設)の場合	表2.3又は表2.4のDHC最低の欄に掲げる数値

表2.3 高効率冷熱源機器の水準

冷熱源機種	定格COP		
	最高	最低	DHC最低
水冷チリングユニット	5.600	5.120	4.000
空冷チリングユニット	4.380	3.918	2.839
空気熱源ヒートポンプユニット	4.669	4.126	2.860
熱回収ヒートポンプユニット	2.895	2.558	1.773
ターボ冷凍機	6.540	6.000	4.740
フラインターボ冷凍機	5.060	4.634	3.642
熱回収ターボ冷凍機	4.803	4.438	3.587
蒸気吸収冷凍機	1.308	1.227	1.037
温水吸収冷凍機	0.713	0.700	0.670
直発吸収冷水機	1.350	1.283	1.125
排熱投入型直発吸収冷水機	1.305	1.250	1.122
小形吸収冷水機ユニット	1.290	1.209	1.020

表2.4 高効率温熱源機器の水準

温熱源機種	定格COP又はボイラー効率 [※]		
	最高	最低	DHC最低
温水ボイラー	0.897	0.855	0.756
直発吸収冷水機	0.880	0.864	0.825
排熱投入型直発吸収冷水機	0.880	0.823	0.691
小形吸収冷水機ユニット	0.880	0.847	0.771
空気熱源ヒートポンプユニット	3.950	3.650	2.949
熱回収ヒートポンプユニット	2.847	2.630	2.125
熱回収ターボ冷凍機	5.802	5.386	4.415

1b.2 水搬送経路の密閉化	蓄熱槽の2次側で実揚程10m以上の水搬送経路が密閉化されているか。	密閉式回路のみ 1
1b.3 熱源の台数制御の導入	熱源の台数制御が導入されているか。	開放式回路あり 0 冷温水無し - 採用 1 採用無し 0 熱源機器無し -
1b.4 冷却ファン等の台数制御又は発停制御の導入	冷却ファン等の台数制御又は発停制御が、冷却塔ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 1 70%以上95%未満に採用 0.8 30%以上70%未満に採用 0.5 5%以上30%未満に採用 0.2 5%未満に採用又は採用無し 0 冷却塔無し -
1b.5 熱源2次ポンプ変流量制御の導入	熱源2次ポンプの台数制御及びインバータによる変流量制御が、熱源2次ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 1 70%以上95%未満に採用 0.8 30%以上70%未満に採用 0.5 5%以上30%未満に採用 0.2 5%未満に採用又は採用無し 0 熱源2次ポンプ無し -

1b.6	熱源2次ポンプの適正容量分割又は小容量ポンプの導入	熱源2次ポンプの適正容量分割又は小容量ポンプが、熱源2次ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 熱源2次ポンプ無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -
1b.7	高効率冷却塔の導入	高効率冷却塔が、冷却塔(エアコンプレッサ用及び生産プロセス用のものを含む。)ファン総電動機出力又は散水ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	省エネ形 冷却塔ファン総電動機出力に対する割合 採用無し 冷却塔無し 冷却塔直結形ファン 冷却塔ファン総電動機出力に対する割合 採用無し 冷却塔無し ファン永久磁石(IPM)モータ 冷却塔ファン総電動機出力に対する割合 採用無し 冷却塔無し ファンプレミアム効率(IE3)モータ 冷却塔ファン総電動機出力に対する割合 採用無し 冷却塔無し ファン高効率(IE2)モータ 冷却塔ファン総電動機出力に対する割合 採用無し 冷却塔無し 散水ポンプ永久磁石(IPM)モータ 散水ポンプ総電動機出力に対する割合 採用無し 散水ポンプ無し 散水ポンププレミアム効率(IE3)モータ 散水ポンプ総電動機出力に対する割合 採用無し 散水ポンプ無し 散水ポンプ高効率(IE2)モータ 散水ポンプ総電動機出力に対する割合 採用無し 散水ポンプ無し	$\Sigma (P_1 \times K_1 + \dots + P_8 \times K_8)$ ただし、最高1点とする。 P ₁ 0.7 P ₂ 0.15 P ₃ 0.2 P ₄ 0.17 P ₅ 0.15 P ₆ 0.09 P ₇ 0.07 P ₈ 0.06
1b.8	高効率熱源ポンプの導入	高効率熱源ポンプが、熱源ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	永久磁石(IPM)モータ 熱源ポンプ総電動機出力に対する割合 採用無し 熱源ポンプ無し プレミアム効率(IE3)モータ 熱源ポンプ総電動機出力に対する割合 採用無し 熱源ポンプ無し 高効率(IE2)モータ 熱源ポンプ総電動機出力に対する割合 採用無し 熱源ポンプ無し $\Delta t = 10^\circ\text{C}$ 以上 $\Delta t = 8^\circ\text{C}$ 以上10 $^\circ\text{C}$ 未満 $\Delta t = 7^\circ\text{C}$ 以上8 $^\circ\text{C}$ 未満 $\Delta t = 6^\circ\text{C}$ 以上7 $^\circ\text{C}$ 未満 $\Delta t = 6^\circ\text{C}$ 未満	$\Sigma (P_1 \times K_1 + \dots + P_3 \times K_3)$ ただし、最高1点とする。 P ₁ 1 P ₂ 0.9 P ₃ 0.8
1b.9	大温度差送水システムの導入	熱媒が水の場合、熱搬送設備の設計送水温度差がどの程度か。		1 0.8 0.5 0.2 0
1b.10	熱源機器出口設定温度の遠方制御の導入	熱源機器出口設定温度の遠方制御が導入されているか。	採用 採用無し	1 0

1b.11	熱源1次ポンプ変流量制御の導入	熱源1次ポンプの台数制御又はインバータによる変流量制御が、熱源1次ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し	1 0.8 0.5 0.2 0
1b.12	冷却水ポンプ変流量制御の導入	冷却水ポンプの台数制御又はインバータによる変流量制御が、冷却水ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し	1 0.8 0.5 0.2 0
1b.13	熱源2次ポンプの末端差圧制御の導入	熱源2次ポンプの末端差圧制御等が、熱源2次ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し	1 0.8 0.5 0
1b.14	熱交換器の断熱	熱交換器の断熱が、熱交換器全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	80%以上に採用 40%以上80%未満に採用 40%未満に採用又は採用無し	1 0.5 0
1b.15	蓄熱システムの導入	蓄熱システムがどの程度導入されているか。 年間蓄熱量実績が把握できている場合 評価点 = $\sum (P_1 \times E_1 + \dots + P_n \times E_n) / \sum (E_1 + \dots + E_n)$ ……(式5) 年間蓄熱量実績が把握できていない場合 評価点 = $\sum (P_1 \times Q_1 + \dots + P_n \times Q_n) / \sum (Q_1 + \dots + Q_n)$ ……(式6) これらの式において、 $P_1 \sim P_n$ 、 $E_1 \sim E_n$ 、 $Q_1 \sim Q_n$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。 蓄熱システムの型式1～nごとの点数で表3.1の点数の欄に掲げる数値 $P_1 \sim P_n$ 蓄熱システムの型式1～nごとの年間蓄熱量実績(単位: キロジュール/年) $E_1 \sim E_n$ 蓄熱システムの型式1～nごとの蓄熱量(単位: メガジュール) $Q_1 \sim Q_n$ 蓄熱システムの型式1～nごとの蓄熱量(単位: メガジュール)	蓄熱システムの型式ごとの蓄熱量実績又は蓄熱量	式5又は式6による。
1b.16	冷却塔ファンインバータ制御の導入	冷却塔ファンのインバータ制御が、冷却塔ファン(エアコンプレッサ用及び生産プロセス用のものを含む。)総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し	1 0.8 0.5 0.2 0
1b.17	フリークーリングシステムの導入	有効に機能するフリークーリングシステムが導入されているか。	採用 採用無し	1 0
1b.18	冷却水ろ過冷却リサイクルシステムの導入	冷却水ろ過冷却リサイクルシステムが導入されているか。	採用 採用無し	1 0

表3.1 蓄熱システムの点数

型式	点数
冷温水蓄熱槽(温度成層型)	1
冷水蓄熱槽(温度成層型)	1
冷温水蓄熱槽(混合槽型)	1
冷水蓄熱槽(混合槽型)	1
氷蓄熱(内融型)	0.3
氷蓄熱(外融型)	0.3
氷蓄熱(カプセル型)	0.3
氷蓄熱(ダイヤモンド型)	0.3
氷蓄熱(氷蓄熱ユニット)	0.05
潜熱蓄熱	0.05
躯体蓄熱	0.05

c. コージェネレーション設備	1b.19 冷却水ON/OFF制御システムの導入	不要時の設備停止に伴う冷却水のON/OFF制御システムが導入されているか。	採用 採用無し	1 0
	1b.20 中温冷水利用システムの導入	中温冷水利用システムが、主たる熱源システムの一部に導入されているか。	採用 採用無し	1 0
	1b.21 統合熱源制御システムの導入	熱源機器、冷却塔及びボンプ等をシステムとして最も高効率に制御する統合熱源制御システムが導入されているか。	採用 採用無し	1 0
	1b.22 熱源2次ポンプの送水圧力設定制御の導入	熱源2次ポンプの送水圧力設定制御が、熱源2次ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し	1 0.8 0.5 0.2 0
	1c.1 高効率コージェネレーションの導入	高効率コージェネレーションが、全てのコージェネレーションに対して、どの程度導入されているか。	年間発電量実績が把握できている場合 評価点 = $\sum (P_1 \times Q_1 + \dots + P_n \times Q_n) / \sum (Q_1 + \dots + Q_n) \dots$ (式7) 年間発電量実績が把握できていない場合 評価点 = $\sum (P_1 \times G_1 \times N_1 + \dots + P_n \times G_n \times N_n) / \sum (G_1 \times N_1 + \dots + G_n \times N_n) \dots$ (式8) $P = 1 - (\eta_H - \eta) / (\eta_H - \eta_L)$ 燃料電池の場合 $P_n = 1.0$ ディーゼルエンジンの場合 $P_n = 0.0$ $\eta = (3.6 \times G_n) / (K \times K_L \times E_n)$ ただし、年間平均総合効率の数値が87を超えるものに限る。 $\eta_T = (2.17 \times \eta_E + \eta_{EP}) > 87$ これらの式において、 $P_{1\sim n}$ 、 $Q_{1\sim n}$ 、 $G_{1\sim n}$ 、 $N_{1\sim n}$ 、 K 、 K_L 、 $E_{1\sim n}$ 、 η 、 η_H 、 η_L は、それぞれ次の数値を表すものとする。 $P_{1\sim n}$ 対象となるコージェネ機器1～nごとの点数 (小数点以下3位未満の数値を四捨五入して得た数値で、最高1点、最低0点とする。) $Q_{1\sim n}$ 対象となるコージェネ機器1～nごとの年間発電量実績 (単位: MWh/年) $G_{1\sim n}$ 対象となるコージェネ機器1～nごとの発電容量 (単位: キロワット) $N_{1\sim n}$ 対象となるコージェネ機器1～nごとの台数 K エネルギー消費量の換算係数で表4に定める数値 K_L 高位発熱量に対する低位発熱量の換算係数で表4.2の 低位発熱量/高位発熱量の欄に掲げる数値 $E_{1\sim n}$ 対象となるコージェネ機器1～nごとの定格エネルギー消費量 (燃料の定格エネルギー消費量は高位発熱量とし、定格ガス消費量は、 納入時の高位発熱量で熱量に換算する) η 対象となるコージェネ機器1～nごとの定格発電効率 η_H コージェネ機器ごとの最高効率で表4.1の最高欄に掲げる数値 η_L コージェネ機器ごとの最低効率で表4.1の最低欄に掲げる数値	式7又は式8による。 コージェネレーション機種ごとの発電効率と年間発電量実績

表4.1 高効率コージェネレーションの水準

機種	発電容量	定格発電効率	
		最高	最低
ガスタービン	—	40%	20%
ガスエンジン	100kW以下	33%	28%
	300kW以下	35%	28%
	500kW以下	42%	29%
	1,000kW以下	42%	29%
	1,000kW超	48%	32%

表4.2 高効率発熱量に対する低位発熱量の換算係数

エネルギー種別	低位発熱量／高位発熱量
ガス	0.90
LPG	0.92
A重油	0.94
灯油	0.94

d. 受変電設備、配電設備	1d.1 高効率変圧器の導入	高効率変圧器が、600Vを超え7,000V以下の総変圧器容量に対して、どの程度の割合で導入されているか。 (必須項目であり、かつ、評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	超高効率変圧器			$\Sigma (P_1 \times K_1 + \dots + P_3 \times K_3)$ ただし、最高1点とする。
			総変圧器容量に対する割合	P ₁	1	
d. 受変電設備、配電設備	1d.2 力率改善制御システムの導入	力率改善制御システムが導入されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	採用無し	0	0.5	
			対象変圧器無し	-		
			採用無し	-		
	1d.3 デマンド制御システムの導入	デマンド制御システムが導入されているか。	採用無し	0	1	
			採用無し	-		
			採用無し	-		
	1d.4 低圧動力回路への力率改善コンデンサの導入	力率改善コンデンサが低圧動力回路に導入されているか。	採用無し	0	1	
			採用無し	-		
			採用無し	-		
	1d.5 400V配電方式の導入	主たる動力設備に400V配電方式が導入されているか。	採用無し	0	1	
			採用無し	-		
			採用無し	-		
	1d.6 低負荷変圧器の統合	低負荷率の変圧器がある場合、低負荷変圧器が統合されているか。	採用無し	0	1	
採用無し			-			
採用無し			-			
1d.7 変圧器の台数制御の導入	変圧器の台数制御が導入されているか。	採用無し	0	1		
		採用無し	-			
		採用無し	-			
1d.8 大型変圧器の冷却設備制御の導入	冷却設備がある変圧器にON-OFF制御又は台数制御が導入されているか。	採用無し	0	1		
		採用無し	-			
		採用無し	-			
1d.9 高効率UPSの導入	変換効率90%以上の高効率UPSが導入されているか。	採用無し	0	1		
		採用無し	-			
		採用無し	-			
e. 圧縮空気供給設備	1e.1 高効率エアコンプレッサの導入	高効率エアコンプレッサが、エアコンプレッサ-総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。 (必須項目であり、かつ、評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	$\Sigma (P_1 \times K_1 + \dots + P_3 \times K_3)$ ただし、最高1点とする。			0.43
			エアコンプレッサ-総電動機出力に対する割合	P ₁	0.43	
			採用無し	0	0.11	
			エアコンプレッサ-無し	-		
			エアコンプレッサ-総電動機出力に対する割合	P ₂		
			採用無し	0	0.08	
			エアコンプレッサ-無し	-		
			エアコンプレッサ-総電動機出力に対する割合	P ₃		
			採用無し	0	0.08	
			エアコンプレッサ-無し	-		
			エアコンプレッサ-無し	-		

		高効率 (IE2) モーター 採用無し エアコンプレッサー総電動機出力に対する割合 0 - P ₅ 0 -	P ₄ 0 - P ₅ 0 -	0.04
		2段圧縮方式 採用無し エアコンプレッサー総電動機出力に対する割合 P ₅ 0 -	P ₅ 0 -	0.18
		インバータ制御冷却ファン 採用無し エアコンプレッサー総電動機出力に対する割合 P ₆ 0 -	P ₆ 0 -	0.06
		増風量制御方式 採用無し エアコンプレッサー総電動機出力に対する割合 P ₇ 0 -	P ₇ 0 -	0.06
		圧縮機・モータ直結構造 採用無し エアコンプレッサー総電動機出力に対する割合 P ₈ 0 -	P ₈ 0 -	0.06
		複数台圧縮機制御 採用無し エアコンプレッサー総電動機出力に対する割合 P ₉ 0 -	P ₉ 0 -	0.29
1e.2	エアコンプレッサーの台数制御の導入	エアコンプレッサーの台数制御が導入されているか。		$\sum (P_1 \times K_1 + P_2 \times K_2)$ ただし、最高1点とする。 1
		末端圧力制御 95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し エアコンプレッサー無し 採用無し 95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し エアコンプレッサー無し 採用無し	1 0.8 0.5 0.2 0 - 1 0.8 0.5 0.2 0 -	1 0.8 0.5 0.2 0 -
1e.3	コンプレッサー室への換気設備の導入	コンプレッサー室へ換気設備が導入されているか。		1
1e.4	圧縮空気配管のループ配管化	圧縮空気配管距離が長くなる場合、圧縮空気配管のループ配管化が導入されているか。		0
1e.5	エアコンプレッサーの分散化	圧縮空気配管距離が長くなる場合、エアコンプレッサーの分散化が導入されているか。		-
1e.6	圧縮空気配管の高圧ライン/低圧ラインの系統分割	圧縮空気供給圧力の高圧と低圧が混在する場合、圧縮空気配管の高圧ライン/低圧ラインの系統分割が導入されているか。		1
1e.7	ブースター方式の導入	圧縮空気供給圧力の高圧と低圧が混在する場合、ブースター方式が導入されているか。		0
1e.8	吸気冷却システムの導入	井水、冷却水などによる吸気冷却システムが導入されているか。		1
1e.9	コンプレッサーの排熱回収システムの導入	コンプレッサーの排熱回収システム(排熱による暖房利用)が導入されているか。		0
1e.10	パージ制御装置の導入	露点温度によりパージエア(再生空気)量を低減するパージ制御装置が導入されているか。		1
1e.11	エアコンプレッサー排熱の局所排気システムの導入	エアコンプレッサー排熱の局所排気システムが導入されているか。		0

f. 給水・給湯設備・排水処理設備	1e.12	フィルタの低圧損化	低圧損フィルタの導入又はファイナルフィルタの削減が行われているか。	採用 採用無し	1 0
	1e.13	高効率ドライヤーの導入	高効率ドライヤーが導入されているか。	採用 採用無し	1 0
	1f.1	高効率給水ポンプの導入	<p>高効率給水ポンプが、加圧給水ポンプユニット総電動機出力又は給水ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。</p> <p>係数 $K = E_p / (E_p + E_G) \dots (式9)$</p> <p>これらの式において、$E_p$、$E_G$は、それぞれ次の数値を表すものとす</p> <p>E_p 加圧給水ポンプユニット総電動機出力</p> <p>E_G 揚水ポンプ総電動機出力</p>	<p>加圧給水ポンプユニット総電動機出力に対する割合</p> <p>採用無し</p> <p>給水ポンプユニット無し</p> <p>給水ポンプ総電動機出力に対する割合</p> <p>採用無し</p> <p>給水ポンプ無し</p> <p>給水ポンプ総電動機出力に対する割合</p> <p>採用無し</p> <p>給水ポンプ無し</p> <p>給水ポンプ総電動機出力に対する割合</p> <p>採用無し</p> <p>給水ポンプ無し</p>	<p>式9による</p> <p>0</p> <p>-</p> <p>P_2</p> <p>0</p> <p>-</p> <p>P_3</p> <p>0</p> <p>-</p> <p>P_4</p> <p>0</p> <p>-</p> <p>$\Sigma (P_1 \times K_1 + \dots + P_9 \times K_9)$ ただし、最高1点とする。</p>
	1f.2	排水処理用の高効率ポンプ・ブロワの導入	排水処理用の高効率ポンプ・ブロワが、排水処理用ポンプ・ブロワ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	<p>排水処理用ポンプ・ブロワ総電動機出力に対する割合</p> <p>採用無し</p> <p>排水処理用ポンプ・ブロワ無し</p> <p>排水処理用ポンプ・ブロワ総電動機出力に対する割合</p> <p>採用無し</p> <p>排水処理用ポンプ・ブロワ無し</p> <p>排水処理用ポンプ・ブロワ総電動機出力に対する割合</p> <p>採用無し</p> <p>排水処理用ポンプ・ブロワ無し</p>	<p>$\Sigma (P_1 \times K_1 + \dots + P_9 \times K_9)$ ただし、最高1点とする。</p> <p>1</p> <p>0.9</p> <p>0.8</p>
	1f.3	排水再利用システム等の導入	雨水利用システム、空調ドレン利用システム、中水利用システム等の排水再利用システム、又は再生水、工業用水、湧水等の雑用水利用システムが導入されているか。	採用無し	1
	1f.4	微細気泡散気管の導入	微細気泡散気管が導入されているか。	採用無し	1
	1f.5	ばっ気用ブロワの変風量制御の導入	ばっ気用ブロワの台数制御又はインバータによる変風量制御が導入されているか。	採用無し	1
	1f.6	ばっ気用ブロワの溶存酸素濃度制御の導入	ばっ気用ブロワの溶存酸素濃度(DO)による送風量制御が導入されているか。	採用無し	1
	1f.7	高効率給湯ヒートポンプユニットの導入	中央給湯方式の熱源機器がある場合、給湯ヒートポンプユニットが導入されているか。	採用無し	1
	2a.1	高効率パッケージ形空調機の導入	高効率パッケージ形空調機が、パッケージ形空調機総冷却能力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	採用無し	1
	2	a. 空調・換気設備	<p>高効率機器は、表5.1に定める水準以上の機器とする。</p> <p>ただし、2012年度以前に設置した設備の高効率機器の評価は、インバータ制御機器と高効率冷媒(R410A)で評価してもよい。</p> <p>冷媒配管の長さは、冷房能力で加重平均した長さから20mを減じた長さとする。</p> <p>(必須項目であり、かつ、評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)</p>	<p>排水処理用ポンプ・ブロワ総電動機出力に対する割合</p> <p>採用無し</p> <p>排水処理用ポンプ・ブロワ無し</p> <p>排水処理用ポンプ・ブロワ総電動機出力に対する割合</p> <p>採用無し</p> <p>排水処理用ポンプ・ブロワ無し</p> <p>排水処理用ポンプ・ブロワ総電動機出力に対する割合</p> <p>採用無し</p> <p>排水処理用ポンプ・ブロワ無し</p>	<p>$\Sigma (P_1 \times K_1 + \dots + P_9 \times K_9)$</p>

表5.1 高効率パッケージ形空調機の水準

種別	通年エネルギー消費効率 APF	冷暖房平均COP
電気式パッケージ形空気調和機	4.4	3.5
ガスエンジン・ヒートポンプ式空気調和機	1.6	1.3
電算室用パッケージ形空気調和機	—	2.3

※ ガスエンジン・ヒートポンプ式空気調和機の定格COPには消費電力を含めない。
電算室用パッケージ形空気調和機は、冷房時の定格COPとする。

高効率機器	通年エネルギー消費効率 APF	採用無し	P ₁	0.5
	冷暖房平均COP	パッケージ形空調機無し	0	
		パッケージ形空調機総冷却能力に対する割合	—	
	インバータ制御機器	採用無し	P ₂	0.5
		パッケージ形空調機無し	0	
	高効率冷媒 (R410A)	採用無し	—	
		パッケージ形空調機総冷却能力に対する割合	P ₃	0.15
	GHP+EHP一体型空調システム	採用無し	0	
		パッケージ形空調機無し	—	
	冷媒蒸発温度自動変更機能	採用無し	P ₅	0.5
パッケージ形空調機総冷却能力に対する割合		—		
設置方法	冷媒配管の長さ(片道)	採用無し	P ₆	0.1
		パッケージ形空調機無し	0	
	0m以上30m未満	採用無し	—	
		パッケージ形空調機無し	—	
		0m以上60m未満	1	0.3
		30m以上90m未満	0.8	
		60m以上90m未満	0.5	
		90m以上120m未満	0.2	
	120m以上	採用無し	0	
		パッケージ形空調機無し	—	
屋外機のショートサーキット無し	採用無し	P ₈	0.1	
	パッケージ形空調機総冷却能力に対する割合	—		
屋外機の散水システム	採用無し	0		
	パッケージ形空調機総冷却能力に対する割合	—		
電気室・エレベーター機械室の温度制御の導入	採用無し	P ₉	0.1	
	パッケージ形空調機総冷却能力に対する割合	—		
2a.2 電気室・エレベーター機械室の温度制御の導入	採用無し	0		
	パッケージ形空調機無し	—		
2a.3 高効率空調機の導入	80%以上に採用	1		
	40%以上80%未満に採用	0.5		
高効率空調機が、空調機ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	40%未満に採用又は採用無し	0		
	電気室・EV機械室換気無し	—		
高効率空調機が、空調機ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	Σ (P ₁ × K ₁ + … + P ₇ × K ₇)			
	空調機ファン総電動機出力に対する割合	P ₁	0.6	
ダブルブラダファン	採用無し	0		
	空調機無し	—		
ブラダファン	空調機ファン総電動機出力に対する割合	P ₂	0.54	
	採用無し	0		
	空調機無し	—		

d. 昇降機設備	2c.3	洗面器の自動水栓の導入	洗面器の自動水栓が、主たる便所の洗面器数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	80%以上に採用 40%以上80%未満に採用 40%未満に採用又は採用無し 80%以上に採用 40%以上80%未満に採用 40%未満に採用又は採用無し 採用無し 採用 採用無し 採用無し	1 0.5 0 1 0.5 0 0 1 0	
	2c.4	便所への振音装置の導入	便所に振音装置が、主たる便所の大便器数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	採用無し 採用 採用無し 採用無し	0 1 0 0	
	2c.5	自然冷媒ヒートポンプ給湯器の導入	自然冷媒ヒートポンプ給湯器が導入されているか。	採用 採用	1 0	
	2c.6	潜熱回収給湯器の導入	潜熱回収給湯器が導入されているか。	採用 採用	1 0	
	2d.1	エレベーターの可変電圧可変周波数制御方式の導入	エレベーターの可変電圧可変周波数制御方式(VVVF制御方式)が、エレベーター総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し エレベーター無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -	
	2d.2	エレベーターの群管理制御の導入	エレベーターの群管理制御が、複数台設置してある箇所のエレベーター総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 対象エレベーター無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -	
	2d.3	エレベーターかご内の照明、ファン等の不使用時停止制御の導入	エレベーターかご内の照明、ファン等の不使用時停止制御が、全エレベーター台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し エレベーター無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -	
	2d.4	エレベーターの電力回生制御の導入	エレベーターの電力回生制御が、エレベーター総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し エレベーター無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -	
	e. その他	2e.1	グリーン購入法適合商品のオフィス機器の導入	グリーン購入法適合商品のオフィス機器が、オフィス機器全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	80%以上に採用 40%以上80%未満に採用 40%未満に採用又は採用無し 把握できていない 80%以上に採用 40%以上80%未満に採用 40%未満に採用又は採用無し 自動販売機無し	1 0.5 0 0 1 0.5 0 -
		2e.2	省エネ型自動販売機又は自動販売機のスケジューリング制御の導入	省エネ型自動販売機又は自動販売機のスケジューリング制御が、自動販売機全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	採用 採用	1 0
2e.3		高効率厨房機器の導入	厨房換気量を低減するために、電化厨房又は集中排気型ガス厨房が導入されているか。	採用 採用無し	1 0	
3	a. 建物外皮	高性能な建物外皮の導入	主たる事務所の建物外皮性能(PAL又はPAL*)が基準値に対してどの程度削減されているか。 評価点は、年間熱負荷係数 PAL*又は年間熱負荷係数 PAL*のいずれか大きい方とする。 年間熱負荷係数 PAL*	削減率24%以上 削減率16%以上24%未満 削減率8%以上16%未満 削減率4%以上8%未満 削減率4%未満又は計算無し	1 0.8 0.5 0.2 0	

性能	b. 自然エネルギーの利用	年間熱負荷係数 PAL	削減率30%以上			
			削減率20%以上30%未満	削減率10%以上20%未満		
4. 再生可能エネルギー・未利用エネルギー	再生可能エネルギー・未利用エネルギーシステムの導入	再生可能エネルギー又は未利用エネルギーを利用するシステムがどの程度導入されているか。	3a.2 隙間風対策の導入	空調空間と非空調空間の境にある主たる動線の全ての出入口に、風除室又はエアカーテン等の隙間風対策が導入されているか。	1	
			3a.3 プラインドの日射制御及びスケジュール制御の導入	主たる事務室のプラインドに日射制御又はスケジュール制御がどの程度導入されているか。	0.8	
			3a.4 屋上緑化の導入	屋上緑化が導入されているか。	0.5	
			3a.5 壁面緑化の導入	壁面緑化又は緑化によるひさしが導入されているか。	0.2	
			3a.6 遮熱塗料塗布・遮熱フィルムの導入	開口部に対して遮熱塗料塗布又は遮熱フィルムが導入されているか。	0	
			3a.7 屋根への遮熱塗装の導入	主たる屋根に対して遮熱塗装が導入されているか。	1	
			3b.1 自然採光を利用したシステムの導入	自然採光を利用したシステムが導入されているか。	0	
			3b.2 自然通風を利用したシステムの導入	自然通風を利用したシステムが導入されているか。	1	
			3b.4 年間を通して安定した地中温度を利用したシステムの導入	クールトレンチ、ヒートトレンチその他の年間を通して安定した地中温度の利用のための措置が導入されているか。	0	
			4.1 太陽光発電システムの導入	太陽光発電システムがどの程度導入されているか。	1	
			4.2 再生可能エネルギー・未利用エネルギーシステムの導入	再生可能エネルギー又は未利用エネルギーを利用するシステムがどの程度導入されているか。	0.8	
					電力換算で100kW以上採用	0.5
					電力換算で50kW以上採用	0
					電力換算で30kW以上採用	1
		電力換算で10kW以上採用	0.8			
		電力換算で10kW未満又は採用無し	0.5			
		電力換算で10 kW未満又は採用無し	0.2			
		電力換算で10 kW未満又は採用無し	0			

表7.1 再生可能エネルギー・未利用エネルギーシステム

システム名称
太陽光発電システム
太陽熱利用システム
風力発電システム
バイオマス発電システム
バイオマス熱利用システム
バイオマス燃料製造システム
水力発電システム
地熱発電システム
地熱利用システム
地中熱・地下水利用システム
ごみ焼却排熱発電システム
ごみ焼却排熱利用システム

			熱源機器及び熱源ポンプで、熱源不要期間の電源供給停止、又は夜間の運転停止が実施されているか。	実施 実施無し 対象機器無し	1 0 -
			熱源機器が空調停止時間の前に停止されているか。	実施 実施無し 24時間空調対応 熱源機器無し	1 0 -
			熱源機器の効率向上のために、冷温水出口温度設定値が調整されているか。	実施 実施無し 熱源機器無し	1 0 -
			部分負荷時の負荷熱量に応じた熱源機器運転の適正化が、熱源群系統数に対して、どの程度の割合で実施されているか。	80%以上で実施 40%未満で実施又は実施無し 40%未満で実施又は実施無し	1 0.5 0
			部分負荷時の負荷熱量に応じた熱源ポンプ運転の適正化が、熱源2次ポンプ群及び冷却水ポンプ群系統数に対して、どの程度の割合で実施されているか。	40%未満で実施又は実施無し 40%以上で実施 40%未満で実施又は実施無し	1 0.5 0
			蓄熱槽の温度分布、蓄放熱時の温度プロフィール等が適正に管理されているか。	実施 実施無し 実施	1 0 1
			ミキシングロス防止のために、冷温水切替用のバルブ閉止が確認されているか。	実施 実施無し 実施	1 0 1
			熱源機器及び熱源2次ポンプの起動時間が、空調開始時間に合わせて季節ごとに適正に管理されているか。	実施 実施無し 実施	1 0 1
c.	コージェネレーション設備	1c.1	コージェネレーションの運転の適正化	コージェネレーション無し 実施 実施無し コージェネレーション無し	1 0 -
d.	受変電設備、配電設備	1d.1	不要期間・不要時間帯の変圧器の遮断	負荷がない時期、夜間等に、変圧器の遮断が実施されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	1 0
		1d.2	変圧器タップ切替による電圧の最適化	定格電圧から外れている変圧器の出力端子電圧のタップ切替による調整が実施されているか。	1 0
		1d.3	昼間運転設備の夜間移行	昼間運転している電気使用設備の夜間運転への移行を実施しているか。	1 0
e.	圧縮空気供給設備	1e.1	非使用エリアの圧縮空気供給バルブの閉止	非使用エリアの圧縮空気供給バルブが閉止されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	1 0
		1e.2	非使用時間帯のエアコンプレッサの停止	非使用時間帯のエアコンプレッサの停止が実施されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	1 0
		1e.3	部分負荷時のエアコンプレッサ運転の適正化	部分負荷時の負荷に応じたエアコンプレッサ運転の適正化が実施されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	1 0
		1e.4	エアコンプレッサの設定圧力の適正化	エアコンプレッサの設定圧力がエア使用端の必要圧力+0.1MPa以下に調整されているか。	1 0
		1e.5	エアコンプレッサ吸入空気温度の管理	十分な換気の確保等、エアコンプレッサの吸入空気温度が高くないように管理されているか。	1 0

2 ・ ユ ー テ ィ リ テ ィ 設 備 等 の 保 守 管 理	f. 給水・給湯設備、排水処理 設備	1e.6	ドライエアの設定露点温度の緩和	ドライエアの設定露点温度の緩和が実施されているか。	実施	1
		1f.1	給水・給湯バルブの調整	節水のために給水・給湯の分岐バルブが使用上支障のない範囲で絞られているか。	実施無し	0
		1f.2	給水圧力の管理	バルブ全開時の末端圧力が過剰にならないように、給水ポンプユニットの設定圧力が調整されているか。	実施無し	0
		1f.3	揚水ポンプのバルブの開度調整	揚水ポンプ系統のバルブが極力抵抗がなげないように調整されているか。	実施無し	1
		1f.4	貯湯温度設定の緩和	衛生上可能な範囲で、貯湯温度設定の緩和が実施されているか。	実施無し	0
		1f.5	給湯不要時間帯の給湯循環ポンプの停止	給湯不要時間帯の給湯循環ポンプの停止が実施されているか。	実施無し	1
	a. 蒸気供給設備	1f.6	ばつ気設備の必要ばつ気圧力に応じた空気供給圧力の管理	排水処理設備のばつ気設備がある場合、必要ばつ気圧力に対して過剰にならないように、空気供給圧力が調整されているか。	実施無し	0
		2a.1	蒸気ボイラーの点検・清掃	蒸気ボイラーの伝熱面及びバーナーノズルの点検及び清掃及びスケール除去が適切な頻度で実施されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	実施	1
		2a.2	蒸気配管・バルブ・スチームトラップからの漏れ点検	蒸気配管、バルブ等からの漏れ点検及びスチームトラップの点検が適切な頻度で実施されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	実施無し	0
		2a.3	蒸気制御バルブ等の作動チェック	蒸気制御バルブ等の作動チェックが適切な頻度で実施されているか。	実施無し	0
		2a.4	蒸気ボイラーのメーターによる遠隔監視	予知予防保全のために蒸気ボイラーのメーターによる遠隔監視が実施されているか。	実施無し	1
		2b.1	熱源機器の点検・清掃	冷凍機のコンデンサ及びエバポレータの清掃、燃焼機器の伝熱面の清掃及びスケール除去、バーナーノズルの点検等の熱源機器の点検・清掃が適切な頻度で実施されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	点検のみ実施 実施無し 熱源機器無し	1 0.5 0
	b. 熱源・熱搬送設備、冷却設備	2b.2	熱交換器の清掃	熱交換器の清掃が適切な頻度で実施されているか。	実施	1
		2b.3	熱源用制御機器の点検及び制御バルブ等の作動チェック	熱源用制御機器の点検及び制御バルブ等の作動チェックが適切な頻度で実施されているか。	実施無し 熱交換器無し	0 -
		2b.4	冷却水の適正な水質管理及び冷却塔の充填材の清掃	冷却水の適正な水質管理及び冷却塔の充填材の清掃が適切な頻度で実施されているか。	実施	1
		2b.5	熱源機器のメーターによる遠隔監視	予知予防保全のために熱源機器のメーターによる遠隔監視が実施されているか。	点検のみ実施 実施無し 冷却塔無し	0.5 0 -
		2c.1	コージェネレーション設備の定期的な点検	コージェネレーション設備がある場合、効率を高い状態で維持するため、定期的な点検が実施されているか。	実施	0
	c. コージェネレーション設備	2e.1	圧縮空気配管・バルブからの漏れ点検	圧縮空気配管及びバルブからの漏れ点検が実施されており、適切に処置されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	実施無し	0
		2e.2	エアコンプレッサー吸込みフィルターの清掃	エアコンプレッサーの吸込みフィルターの清掃が定期的に実施されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	実施無し エアコンプレッサー無し	1 0
		e. 圧縮空気供給設備			コージェネレーション設備無し	-
					実施	1

3 建築設備の運用管理	a. 空調・換気設備	2e.3 インタークーラーの清掃	冷却効率維持のために、インタークーラーの清掃が定期的に実施されているか。	実施 実施無し	1 0
		3a.1 居室の室内温度の適正化	居室の室内温度の適正化(夏季26℃以上)と定期的な記録が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で実施されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	80%以上で実施 40%以上80%未満で実施 40%未満で実施又は実施無し 事務室無し	1 0.5 0 -
		3a.2 室使用開始時の空調起動時間の適正化	室の使用開始時間に合わせた季節ごとの空調起動時間の適正化が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で実施されているか。	80%以上で実施 40%以上80%未満で実施 40%未満で実施又は実施無し 24時間空調 3時間以下 3時間超6時間以下 6時間超9時間以下 9時間超12時間以下 12時間超	1 0.8 0.5 0.2 0 -
		3a.3 換気ファンの間欠運転の実施	スケジュール又は自動制御による換気ファンの間欠運転が、機械室(燃焼系統、臭気系統を除く。)及び倉庫のファンに対して、どの程度実施されているか。	対象機器無し	-
		3a.4 クールピズ(ウォームピズ)による空調設定温度の緩和	クールピズ(夏季27℃以上)又はウォームピズ(冬季20℃以下)による空調設定温度の緩和が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で実施されているか。	80%以上で実施 40%以上80%未満で実施 40%未満で実施又は実施無し 事務室無し	1 0.5 0 -
		3a.5 エレベーター機械室・電気室の室内設定温度の適正化	エレベーター機械室及び電気室の室内設定温度の適正化が、全エレベーター機械室数及び全電気室数に対して、どの程度の割合で実施されているか。	80%以上で実施 40%以上80%未満で実施 40%未満で実施又は実施無し 電気室・EV機械室換気無し	1 0.5 0 -
		3a.6 CO2濃度・外気温度による外気取入量の調整	外気負荷低減・外気冷房等のために、室内CO2濃度及び外気温度による外気取入量の調整が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で実施されているか。	80%以上で実施 40%以上80%未満で実施 40%未満で実施又は実施無し	1 0.5 0
		3a.7 居室以外の室内温度の緩和	主たるエントランスホール、廊下等の居室以外の室内温度が、居室に対して、夏季は高め、冬季は低め、又は夏季27℃以上、冬季20℃以下に設定されているか。	40%未満で実施又は実施無し エントランスホール及び廊下で実施 エントランスホール又は廊下で実施 実施無し	0 1 0.5 0
		3a.8 エレベーター機械室・電気室の換気ファンの夏季停止	エレベーター機械室及び電気室の換気ファンの夏季停止が、空調機併用方式の全エレベーター機械室数及び全電気室数に対して、どの程度の割合で実施されているか。	80%以上で実施 40%以上80%未満で実施 40%未満で実施又は実施無し	1 0.5 0
		3a.9 エレベーター機械室・電気室の空調機の給気・選気設定温度の適正化	エレベーター機械室及び電気室の空調機の給気設定温度又は選気設定温度の適正化が、室内温度とは別に給気温度又は選気温度の設定が可能なエレベーター機械室数及び全電気室数に対して、どの程度の割合で実施されているか。	80%以上で実施 40%以上80%未満で実施 40%未満で実施又は実施無し	1 0.5 0
3a.10 ファンのプリーダウンの実施	ファンが絞られている系統のファンのプリーダウンが実施されているか。	実施 実施無し 実施 実施無し	1 0 1 0		
b. 照明・電気設備	3a.11 パッケージ形空調機の省エネチューニングの実施	パッケージ形空調機の冷媒蒸発温度設定値の調整が実施されているか。	全て実施 工場・プラントで実施 廊下のみ実施 実施無し	1 0.8 0.5 0	
	3b.1 事務室以外の照度条件の緩和	間引き点灯又は調光等による照度条件の緩和が、工場・プラント及び廊下に対して、どの程度の割合で実施されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	全て実施 工場・プラント又は事務室で実施 廊下のみ実施 実施無し	1 0.8 0.5 0	
	3b.2 照明のタイムスケジュールによる消灯	星休み・消灯など照明のタイムスケジュールによる消灯が、工場・プラント、事務室及び廊下に対して、どの程度実施されているか。	全て実施 工場・プラント又は事務室で実施 廊下のみ実施 実施無し	1 0.8 0.5 0	
3b.3 事務室の室内照度の適正化	事務室の室内照度の適正化(概ね500lx以下)が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で実施されているか。	80%以上で実施 40%以上80%未満で実施 40%未満で実施又は実施無し 事務室無し	1 0.5 0 -		

4	建築設備の保守管理	c.	衛生設備	3b.4 事務室の照度条件の緩和	事務室の照明の間引き点灯又は調光等による照度条件の緩和(概ね300lx以下)が、事務室の床面積に対して、どの程度の割合で実施されているか。	50%以上で実施	1
				3b.5 時間外等の照明点灯エリアの集約化	時間外等の照明点灯エリアを集約する工夫が行われているか。	20%以上50%未満で実施 20%未満で実施又は実施無し 実施 実施無し	0.5 0 1 0
5	生産及び建物	a.	燃料の燃焼	3c.1 洗浄便座暖房の夏季停止	洗浄便座暖房の夏季停止が実施されているか。	実施無し 実施	0 1
				3c.2 給湯温度設定の緩和	季節や用途等に応じた給湯温度設定の緩和が実施されているか。	実施無し 実施	0 1
				3c.3 貯湯式電気温水器の夜間・休日の電源停止	貯湯式電気温水器の夜間及び休日の電源停止が実施されているか。	実施無し 実施	0 1
				3c.4 便所洗面給湯の給湯中止又は給湯期間の短縮	便所洗面給湯の給湯中止又は給湯期間の短縮が実施されているか。	通年給湯中止 夏季の給湯中止 実施無し 実施	1 0.8 0 1
				3d.1 夜間・休日等のエレベーターの運転台数の削減	夜間・休日等のエレベーターの運転台数の削減が実施されているか。	実施無し 実施	0 1
				3e.1 空調空間と非空調空間の境にある出入口の開閉の適正な管理	冷房時・暖房時の閉鎖など空調空間と非空調空間の境にある出入口の開閉の適正な管理が、主たる動線の出入口で実施されているか。	実施無し 実施	0 1
				3e.2 自動販売機の照明の消灯	自動販売機の照明消灯が実施されているか。	実施無し 実施	0 1
				4a.1 空調機・ファンコイルユニット等のフィルターの清掃	空調機・ファンコイルユニット等のフィルターの清掃が適切な頻度で実施されているか。 (評価点が30点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	実施無し 実施	0 1
				4a.2 センサー類の精度チェック及び制御ダンパ等の作動チェック	センサー類の精度チェック及び制御ダンパ等の作動チェックが適切な頻度で実施されているか。	実施無し 対象設備無し 実施	0 - 1
				4a.3 空調機・ファンコイルユニット等のコイルフィン等の清掃	空調機・ファンコイルユニット等のコイルフィン等の清掃が適切な頻度で実施されているか。	実施無し 実施	0 1
				4a.4 パッケージ屋外機ファンコイル洗浄	パッケージ屋外機ファンコイル洗浄が適切な頻度で実施されているか。	実施無し パッケージ形空調機無し 実施	0 - 1
				b.	照明・電気設備	4a.5 ファンベルトの張力調整	ファンベルトの張力調整が実施されているか。
4a.6 省エネファンベルトへの交換	省エネファンベルトへの交換が、ベルト駆動ファンの全台数に対して、どの程度の割合で実施されているか。	20%以上50%未満で実施 20%未満で実施又は実施無し 実施	0.5 0 1				
4b.1 照明器具の清掃	照明器具の清掃が、汚れの状態や照明器具の用途に応じて定期的に実施されているか。	実施無し 実施	0 1				
5a.1	燃料の燃焼	4b.2 照明用制御設備の作動チェック	照明用制御設備の作動チェックが適切な頻度で実施されているか。	実施無し 実施	0 1		
		4b.3 ファン交換時の初期照度補正リセットの実施	タイマー式の初期照度補正制御付きの照明器具のランプ交換時に、リセット操作が実施されているか。	実施無し 95%以上に採用	0 1		
		5a.1 燃料の供給量・空気比を調整できるバーナー等の導入	燃焼設備及び燃料の種類に適合し、かつ、負荷及び燃焼状態の変動に応じて燃料の供給量及び空気比(空気比は密閉型燃焼設備に限る。)を調整できるバーナー等が、燃焼設備総定格燃料消費量に対して、どの程度の割合で導入されているか。 (評価点が30点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 燃焼設備無し	0.8 0.5 0.2 0 -		

ト・特殊設備の省エネルギー性能に関する事項	5a.2	通風量・燃焼室内の圧力を調整できる通風装置の導入	通風量又は燃焼室内の圧力(圧力は密閉型燃焼設備に限る。)を調整できる通風装置が、通風装置のある燃焼設備総定格燃料消費量に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 通風装置無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -	
		5a.3	通風装置のインバータ制御の導入	通風装置のインバータ制御が、通風装置総定格出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 通風装置無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -
		5a.4	工業炉のリジエネレタイバナーの導入	工業炉のリジエネレタイバナーが、燃焼設備総定格燃料消費量に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 通風装置無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -
		5a.5	工業炉のリジエネレーター導入	工業炉に高温予熱空気燃焼と高温排熱回収の両方が可能なリジエネレーターが、燃焼設備総定格燃料消費量に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し	1 0.8 0.5 0.2 0
		5b.1	加熱・冷却制御システムの導入	センサー、コントローラ等を利用した加熱制御システム又は冷却制御システムが、燃焼設備及び熱利用設備総定格エネルギー消費量に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し	1 0.8 0.5 0.2 0
b.	加熱及び冷却並びに伝熱	5b.2	塗装ブースの3WET塗装システムの導入	塗装ブースの中塗乾燥炉削減のために、3WET塗装システムが導入されているか。	採用無し 採用無し	0 0
		5c.1	排ガスの排熱回収設備の導入	排ガスの排熱回収設備が、燃焼設備総定格燃料消費量に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 燃焼・熱利用設備無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -
c.	排熱回収	5d.1	燃焼設備・熱利用設備への二重扉の導入	燃焼設備及び熱利用設備に二重扉が導入されているか。	採用 採用無し 対象設備無し	1 0 -
		5d.2	燃焼設備・熱利用設備への遮断設備の導入	燃焼設備及び熱利用設備に内部からの空気流等による遮断設備が導入されているか。	採用 採用無し 対象設備無し	1 0 -
		5d.3	工業炉の炉壁外面温度による断熱強化	工業炉の炉壁外面温度による断熱強化がどの程度実施されているか。	目標準壁外面温度 基準炉壁外面温度 断熱強化無し 対象設備無し	1 0.5 0 -
		5d.4	燃焼設備・熱利用設備炉体開口部の縮小・密閉	燃焼設備又は熱利用設備に対して、炉体開口部の縮小又は密閉が行われているか。	縮小又は密閉 縮小又は密閉無し 断熱強化 断熱強化無し	1 0 1 0
		5d.5	既存の燃焼設備・熱利用設備の断熱強化	既存の燃焼設備又は熱利用設備に対して、断熱が強化されているか。	断熱強化 断熱強化無し	1 0
d.	断熱・保温	5d.1	燃焼設備・熱利用設備への二重扉の導入	燃焼設備及び熱利用設備に二重扉が導入されているか。	採用 採用無し 対象設備無し	1 0 -
		5d.2	燃焼設備・熱利用設備への遮断設備の導入	燃焼設備及び熱利用設備に内部からの空気流等による遮断設備が導入されているか。	採用 採用無し 対象設備無し	1 0 -
		5d.3	工業炉の炉壁外面温度による断熱強化	工業炉の炉壁外面温度による断熱強化がどの程度実施されているか。	目標準壁外面温度 基準炉壁外面温度 断熱強化無し 対象設備無し	1 0.5 0 -
		5d.4	燃焼設備・熱利用設備炉体開口部の縮小・密閉	燃焼設備又は熱利用設備に対して、炉体開口部の縮小又は密閉が行われているか。	縮小又は密閉 縮小又は密閉無し 断熱強化 断熱強化無し	1 0 1 0
		5d.5	既存の燃焼設備・熱利用設備の断熱強化	既存の燃焼設備又は熱利用設備に対して、断熱が強化されているか。	断熱強化 断熱強化無し	1 0

e.	電動力応用設備・電気加熱設備	5e.1	生産プロセスにおける電動機の高数制御の導入	生産プロセスにおいて複数の電動機を使用する場合、電動機の高数制御が、複数の電動機を使用する設備総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 対象設備無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -
		5e.2	中・大容量モータ冷却ファンの高数制御の導入	中・大容量モータ冷却ファンのモータ制御が導入されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	採用無し 冷却ファン無し	1 0 -
		5e.3	エアブロー機器への省エネ型エアノズルの導入	エアブロー機器への省エネ型エアノズルが、エアノズル全個数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	80%以上に採用 40%以上80%未満に採用 40%未満に採用又は採用無し エアノズル無し	1 0.5 0 -
		5e.4	生産プロセスにおける電動機の高数制御の導入	生産プロセス(特殊排気設備を含む。)において電動機(ポンプ、ブロー、ファンを含む。)のインバータによる回転数制御が、電動力応用設備総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 対象設備無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -
		5e.5	電気溶接機の高数制御の導入	電気溶接機の高数制御が、電気溶接機総定格消費電力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 電気溶接機無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -
		5e.6	油圧・空圧駆動成型機の電動化	油圧・空圧駆動成型機の電動化が、成型機全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 対象設備無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -
		5e.7	高効率クレーンの導入	高効率クレーンが、クレーン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	速度制御 吊上げ荷重制御 巻下げ電源回生制御	$\sum (P_1 \times K_1 + \dots + P_3 \times K_3)$ ただし、最高1点とする。 0.44 1 0.8 0.5 0.2 0 - 1 0.44 1 0.8 0.5 0.2 0 - 1 0.12

5e.8	生産プロセスにおける高効率ポンプの導入	生産プロセス(純水供給設備を含む。)において、高効率ポンプが、生産プロセス用ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	永久磁石(IPM)モータ	95%以上に採用	1	$\Sigma (P_1 \times K_1 + \dots + P_3 \times K_3)$ ただし、最高1点とする。		
				70%以上95%未満に採用	0.8			
				30%以上70%未満に採用	0.5			
				5%以上30%未満に採用	0.2			
				5%未満に採用又は採用無し	0			
				プレミアム効率(IE3)モータ	95%以上に採用		1	0.9
					70%以上95%未満に採用		0.8	
					30%以上70%未満に採用		0.5	
					5%以上30%未満に採用		0.2	
					5%未満に採用又は採用無し		0	
					高効率(IE2)モータ		95%以上に採用	
				70%以上95%未満に採用	0.8			
30%以上70%未満に採用	0.5							
5%以上30%未満に採用	0.2							
5%未満に採用又は採用無し	0							
5%未満に採用又は採用無し	0							
5e.9	生産プロセスにおける高効率ブロワ・ファンの導入	生産プロセス(特殊排気設備を含む。)において、高効率ブロワ・ファンが、生産プロセス用ブロワ・ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	モータ直結形ブロワ・ファン	95%以上に採用	1	$\Sigma (P_1 \times K_1 + \dots + P_4 \times K_4)$ ただし、最高1点とする。		
				70%以上95%未満に採用	0.8			
				30%以上70%未満に採用	0.5			
				5%以上30%未満に採用	0.2			
				5%未満に採用又は採用無し	0			
				永久磁石(IPM)モータ	95%以上に採用		1	1
					70%以上95%未満に採用		0.8	
					30%以上70%未満に採用		0.5	
					5%以上30%未満に採用		0.2	
					5%未満に採用又は採用無し		0	
					高効率(IE3)モータ		95%以上に採用	
				70%以上95%未満に採用	0.8			
30%以上70%未満に採用	0.5							
5%以上30%未満に採用	0.2							
5%未満に採用又は採用無し	0							
高効率(IE2)モータ	95%以上に採用	1	0.5					
70%以上95%未満に採用	0.8							
30%以上70%未満に採用	0.5							
5%以上30%未満に採用	0.2							
5%未満に採用又は採用無し	0							
5e.10	油圧・空圧駆動アクチュエータの電動化	油圧・空圧駆動アクチュエータの電動化が導入されているか。		採用	1			
			採用無し	0				
			採用	1				
			採用無し	0				
			採用	1				
			採用無し	0				
			採用	1				
			採用無し	0				
			採用	1				
			採用無し	0				
			採用	1				
			採用無し	0				
			採用	1				
			採用無し	0				
			採用	1				
5e.11	空圧駆動アクチュエータの低圧化	高圧仕様の空圧駆動アクチュエータが低圧仕様に変更されているか。	採用	1				
			採用無し	0				
5e.12	ブロー工程におけるエアコンプレッサのブロー化	ブロー工程において、エアコンプレッサがブロー化されているか。	採用	1				
			採用無し	0				
5e.13	高効率コンベアの導入	高効率コンベアが導入されているか。	採用	1				
			採用無し	0				
5e.14	ブロー工程の縮小	既存設備に対して、ブロー工程が縮小されているか。	採用	1				
			採用無し	0				
5e.15	ブローのインレットベーン制御の導入	ブローのインレットベーン制御が、生産プロセス用ブロワ・ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	採用	1				
			採用無し	0				
			採用	1				
					0.8			
					0.5			

5f.8	冷媒ホットガスレヒート除温システムの導入	パッケージ型空調機による除温再熱システムがある場合、冷媒ホットガスレヒート除温システムが、除温再熱用パッケージ型空調機総冷却能力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 対象設備無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -
5f.9	高効率冷凍・冷蔵設備の導入	高効率冷凍・冷蔵設備が、冷凍・冷蔵設備の圧縮機総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。 ただし、除外項目がある場合は、除外項目を除いた係数の合計が1となるように、それぞれの係数を補正するものとし、評価点は小数点以下3位未満の数値を四捨五入して得た数値で、最高1点、最低0点とする。	冷凍庫壁面の高断熱化 前室の導入 搬入口近接センサーによる扉の自動開閉化 着霜制御(デフロスト) 圧縮機入口ガス管の断熱化 冷却器用ファン台数制御 圧縮機インバータ制御	Σ(P ₁ ×K ₁ +・・・+P ₇ ×K ₇) 1 0.08 0.8 0.5 0.2 0 - 1 0.08 0.8 0.5 0.2 0 - 1 0.08 0.8 0.5 0.2 0 - 1 0.03 0.8 0.5 0.2 0 - 1 0.03 0.8 0.5 0.2 0 - 1 0.17 0.8 0.5 0.2 0 - 1 0.51 0.8 0.5 0.2 0 - 1 0.51

g. 特殊排気設備	5f.10	クリーンルームの顕熱処理用ドライコイルの導入	クリーンルームの顕熱処理用ドライコイルが導入されているか。	採用 採用無し	1 0
	5f.11	クリーンルームの局所冷却システムの導入	クリーンルームの局所冷却システムが導入されているか。	採用 採用無し	1 0
	5f.12	クリーンルームの陽圧排気の一般室利用	クリーンルームの陽圧排気が、一般室の空調負荷低減に利用されているか。	採用 採用無し	1 0
	5f.13	省エネ型クリーンルーム空調コントロールの導入	教理計画型モデル予制御を温度制御に応用した省エネ型クリーンルーム空調コントロールが導入されているか。	採用 採用無し	1 0
	5f.14	クリーンルームの外調機省エネ制御システムの導入	クリーンルームの各エリアの熱負荷を監視して、外調機の給気温度を必要以上に高くするのではなく、最適に調整する外調機省エネ制御システムが導入されているか。	採用 採用無し	1 0
	5f.15	恒温恒湿室の露点飽和散水システムの導入	恒温恒湿室の露点飽和散水システム(DPC(Dew Point Control)方式)が導入されているか。	採用 採用無し	1 0
	5f.16	動物実験施設への空気熱交換器の導入	動物実験施設の全外気空調方式の外気負荷低減のために、空気熱交換器が導入されているか。	採用 採用無し	1 0
	5f.17	換気式飼育ラックによる部分換気方式の導入	動物実験施設の換気式飼育ラックによる部分換気方式が導入されているか。	採用 採用無し	1 0
	5f.18	少排気量ドラフトチャンバーの導入	少排気量ドラフトチャンバーが、ドラフトチャンバー全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	採用 採用無し	1 0
	5f.19	ドラフトチャンバーの換気量可変制御システムの導入	ドラフトチャンバーのフード開口面積又は人検知センサー制御による換気量可変制御システムが、ドラフトチャンバー全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。	採用 採用無し	1 0
	5f.20	空調予熱コイルへの冷凍機冷却水利用システムの導入	空調予熱コイルへの冷凍機冷却水利用システムが導入されているか。	採用 採用無し	1 0
	5f.21	塗装ブース空調のウインドウ制御の導入	塗装ブース空調のウインドウ制御が導入されているか。	採用 採用無し	1 0
	5f.22	塗装ブース排気リサイクルシステムの導入	塗装ブースの有人ゾーン以外のエリアへの排気リサイクルシステムが導入されているか。	採用 採用無し	1 0
	5f.23	冷凍車プラットホームへの冷房設備の導入	冷凍車の負荷を低減するために、外部と仕切られた冷凍車のプラットホームに冷房設備が導入されているか。	採用 採用無し	1 0
	5g.1	高効率脱臭装置の導入	蓄熱焼酎式(リジェネ式)、吸着濃縮式、触媒燃焼式、又はマイクロガスタービン燃焼式の高効率脱臭装置が導入されているか。	採用 採用無し	1 0
			塗工機等の生産設備が24時間連続運転でない場合、生産設備と脱臭装置の連動制御が導入されているか。	採用 採用無し	1 0
			直燃式脱臭装置に排熱回収ボイラー又はエコノマイザーが導入されているか。	採用 採用無し	1 0
			直燃式脱臭装置に精留副生液の混合燃焼システムの導入	採用 採用無し	1 0
			直燃式脱臭装置の待機時温度低下制御の導入	採用 採用無し	1 0
			排気処理用スクラバーに熱交換器を設置した排熱回収システムが導入されているか。	採用 採用無し	1 0
5h.1	純水ポンプのインバータ制御の導入	純水ポンプのインバータ制御が、純水ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	採用 採用無し	1 0	
		95%以上に採用	採用 採用無し	1 0	
5g.2	生産設備と脱臭装置の連動制御の導入	70%以上95%未満に採用	採用 採用無し	0.8 0	
		30%以上70%未満に採用	採用 採用無し	0.5 0	
		5%以上30%未満に採用	採用 採用無し	0.2 0	
		5%未満に採用又は採用無し	採用 採用無し	0 -	
		純水供給設備無し	採用 採用無し	- -	

III 設備及び事業所の運用に関する事項	i. 場内輸送設備	5h.2 超低圧RO膜の導入	ポンプの小型化又は押込圧力の低減のために、超低圧RO膜が導入されているか。	採用 採用無し 純水供給設備無し 採用 採用無し 純水供給設備無し 採用 採用無し 純水供給設備無し	1 0 - 1 0 -			
		5h.3 高効率UV酸化装置の導入	低圧UV酸化装置に電子式安定器が導入されているか。					
		5h.4 純水ROブライン回収装置の導入	純水ROブライン回収装置が導入されているか。					
		5h.5 純水冷却循環システムの導入	冷却水排熱を回収し、1次純水の熱源に利用する純水冷却循環システムが導入されているか。					
		5h.6 排熱利用による蒸留式純水製造装置の導入	排熱利用による蒸留式純水製造装置が導入されているか。					
		5i.1 高効率フォークリフトの導入	電動、ハイブリッド又はプロパンなどの高効率フォークリフトが、フォークリフト全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。					
		5i.2 低燃費車の導入	重機及び場内車両に低燃費車が、重機及び場内車両(ナンバプレートのあるものを除く。)全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。					
		5i.3 高効率トランスファークレーンの導入	高効率トランスファークレーンが、トランスファークレーン(電動のものを除く。)全台数に対して、どの程度の割合で導入されているか。					
		j. 追加評価事項	a. 燃料の燃焼	5j.1	生産・プラント・特殊設備において、評価項目に無いもので、次の条件を満たす場合は、評価点を1.0とする。 ・一次エネルギー削減実績値が有効であると認められるとき。ただし、一次エネルギー削減量実績値は、原則として計量設備により把握した実績値とし、不明な場合は設備仕様及び稼働条件に基づく推計値を用いることができるものとする。 ・2005年度以降に導入した設備であること。 ・省エネ法の第一種特定工場(製造業)の中長期計画作成指針にある設備等の中で、設備性能の向上に資するものを対象とする。 燃焼設備の空気比管理がどの程度実施されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	採用 採用無し	1 0	
				5a.1	燃焼設備の空気比の管理	目標空気比 基準空気比 基準空気比以上 対象設備無し 実施 実施無し 対象設備無し 実施 実施無し 対象燃料無し 実施 実施無し 対象設備無し	1 0.5 0 - 1 - 1 0 - 1 0 -	
				5a.2	燃焼設備の運転台数の調整	複数の燃焼設備を使用する場合、負荷の集約化のために運転台数の調整が実施されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)		
				5a.3	燃料の管理	燃料の性状に応じて、燃焼効率を改善するために、燃料の粒度、水分、粘度等が適切に調整されているか。 燃焼設備の空運転時間の短縮が実施されているか。		
				5a.4	燃焼設備の空運転時間の短縮	熱量の過剰な供給を無くすために、熱媒体の温度、圧力及び量が適切に管理されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)		
				5b.1	加熱及び冷却並びに伝熱	5b.1	熱媒体の温度・圧力・量の管理	実施 実施無し 対象設備無し
5b.2	非使用時の蒸気供給バルブの閉止					実施 実施無し 対象設備無し	1 0 -	
5b.2	加熱及び冷却並びに伝熱			5b.2	蒸気を使用する熱利用設備が24時間連続運転でない場合で、かつ全ての蒸気が非熱利用でない場合、非使用時に蒸気供給バルブが閉止されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	実施 実施無し 対象設備無し	1 0 -	
				5b.3	蒸気を使用する熱利用設備が24時間連続運転でない場合で、かつ全ての蒸気が非熱利用でない場合、非使用時に蒸気供給バルブが閉止されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	実施 実施無し 対象設備無し	1 0 -	

	5b.3	被加熱物・被冷却物の装てん方法の調整	過大負荷及び過小負荷を避けるために、搬送状況の変化に応じて被加熱物又は被冷却物の量及び炉内配置の見直しなど装てん方法の調整が実施されているか。	実施 実施無し 対象設備無し	1 0 -
	5b.4	炉内被加熱物の温度管理	過熱防止のために、炉内被加熱物の温度管理が、燃焼設備及び熱利用設備総定格エネルギー消費量に対して、どの程度の割合で実施されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 燃焼・熱利用設備無し	1 0.8 0.5 0 0 -
	5b.5	ヒートバターの改善	設備の構造、被加熱物の特性、加熱、熱処理等の前後の工程に応じて、熱効率を向上させるために、ヒートバターの改善が実施されているか。	実施 実施無し 実施 実施無し	1 0 1 0
	5b.6	工程間の待ち時間の短縮	加熱を反復して行う工程の場合、工程の待ち時間の短縮が実施されているか。	実施 実施無し	1 0
	5b.7	複数の加熱等を行う設備の負荷の集約化	複数の加熱等を行う設備がある場合、負荷の集約化が実施されているか。	実施 実施無し	1 0
	5b.8	断続的な運転を行う設備の運転の集約化	断続的な運転を行う設備がある場合、運転の集約が実施されているか。	実施 実施無し	1 0
	5b.9	炉内ガス循環の改善	燃焼設備及び熱利用設備において、対流伝熱性能を改善するために、炉内ガスの循環を高めるような方策が実施されているか。	実施 実施無し 実施 実施無し	1 0 1 0
c.	5c.1	排ガスの排熱回収率の管理	排ガスの排熱回収率が管理されているか。	実施 実施無し 対象設備無し	1 0 -
d.	5d.1	燃焼設備・熱利用設備の閉閉回数・閉閉時間・開口面積の管理	燃焼設備及び熱利用設備の閉閉回数、閉閉時間又は開口面積の管理が、燃焼設備及び熱利用設備総定格エネルギー消費量に対して、どの程度の割合で実施されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 燃焼・熱利用設備無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -
e.	5e.1	電動力応用設備・電気加熱設備	非使用時に電気使用設備の停止又は1次側電源遮断が、待機状態のある電動力応用設備及び電気加熱設備総電動機出力に対して、どの程度の割合で実施されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 対象設備無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -
	5e.2	電気炉における被加熱物の装てん方法の調整	電気炉において、被加熱物の量及び炉内配置の見直しなど装てん方法の調整が実施されているか。	実施 実施無し 対象設備無し	1 0 -
	5e.3	電気炉における炉内被加熱物の温度管理	電気炉において、過熱防止のために炉内被加熱物の温度管理が実施されているか。	実施 実施無し 対象設備無し	1 0 -
	5e.4	エアブローの適正化	圧縮空気の削減のために、エアブローの吹き付け範囲、エア噴射時間等の適正化が実施されているか。	実施 実施無し 対象設備無し	1 0 -
	5e.5	生産プロセスにおけるポンプ・ブロー・ファンの間欠運転の実施	生産プロセスにおいて、ポンプ、ブロー又はファンの間欠運転が、生産プロセス用ポンプ・ブロー・ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で実施されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し	1 0.8 0.5 0.2 0
	5e.6	電気炉におけるヒートバターの改善	電気炉において、設備の構造、被加熱物の特性、加熱、熱処理等の前後の工程等に応じて、熱効率を向上させるために、ヒートバターの改善が実施されているか。	実施 実施無し	1 0

	電気炉において、加熱を反復して行う工程の待ち時間の短縮が実施されているか。		実施	1	
	電気炉における工程間の待ち時間の短縮		実施無し	0	
5e.7	電気炉における工程間の待ち時間の短縮		実施	1	
5e.8	電解設備の電解効率の改善	電極の形状及び特性の電極を採用し、電極間の距離、電解液の濃度を適正な値とし、導体の接触抵抗等を低減するような電解効率の改善対策が実施されているか。	実施無し	0	
5e.9	電気加熱設備のタップ切替・ON/OFFの実施	温度による電気加熱設備のタップ切替又はON/OFFが実施されているか。	実施	1	
	5f.1	クリーンルームの清浄度の適正化	管理値を上回リ過剰品質にならないように、クリーンルームの清浄度の適正化が実施されているか。	0	
	5f.2	非使用時の特殊空調室の低風量運転の実施	(評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。) 夜間及び休日、無人時など非使用時に、特殊空調室の低風量運転又は間引き運転(自動制御が有効に機能している場合を含む。)が実施されているか。	1	
	5f.3	冷凍・冷蔵設備冷却器の除霜(デフロスト)の実施	冷凍・冷蔵設備冷却器の除霜(デフロスト)が実施されているか。(着霜制御がある場合も除霜実施とみなす。)	0	
	5f.4	特殊空調室の温度・湿度設定の緩和	季節に応じて、特殊空調室の温度・湿度設定の変更が実施されているか。	1	
	5f.5	特殊空調室の運転時間の短縮	夜間、休日など特殊空調室の運転時間の短縮が実施されているか。	0	
	5f.6	特殊空調室の温度・湿度PID制御の調整	特殊空調室の加熱・冷却制御のインターバル等を実測及び分析し、温度・湿度・速度PID制御パラメーターの調整が実施されているか。	1	
	5f.7	気流シミュレーションによるクリーンルームの気流改善	気流シミュレーションを活用し、クリーンルームの気流改善が実施されているか。	0	
g.	特殊排気設備	5g.1	特殊排気設備の排気量の適正化	生産設備での必要風量を合わせて、特殊排気設備の排気量の適正化が実施されているか。	1
	5g.2	非使用時の特殊排気設備の低風量運転の実施	塗工機等の生産設備の非使用時に特殊排気設備の低風量運転が実施されているか。	0	
	5h.1	純水原水加温設定温度の適正化	生産設備に問題ない範囲で、純水原水加温設定温度の適正化が実施されているか。	1	
	5h.2	RO装置等の運転台数の適正化	RO装置等が複数ある場合、RO装置等の交互運転、減量運転又は停止など運転台数の適正化が実施されているか。	0	
	5h.3	UVランプ・UV酸化器の間引き・停止	UVランプ又はUV酸化器の間引き又は停止が実施されているか。	1	
	5h.4	製品洗浄待ち時間中のスタンバイブロー低減の実施	製品洗浄待ち時間中に機能上問題ない範囲で、スタンバイブローの低減が実施されているか。	0	
	5h.5	RO装置回収率の適正化	原水水质を考慮して、RO装置回収率の適正化が実施されているか。	1	
i.	場内輸送設備	5i.1	燃費の管理	場内輸送設備の燃費の管理が実施されているか。	0
	6a.	燃料の燃焼	燃焼設備の定期的な保守・点検	燃料燃焼の良好な状態を維持するために、燃焼設備の定期的な保守及び点検が実施されているか。	1
	6b.	加熱及び冷却並びに伝熱	6b.1	熱交換器等の定期的な付着物の除去	伝熱性能低下を防止するために、熱交換器等の煤じん、スケールその他の付着物の定期的な除去が実施されているか。(評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)
	6c.	排熱回収	6c.1	排熱回収設備の定期的な保守・点検	排熱回収及び排熱利用の効率を維持するために、排熱回収設備の定期的な保守及び点検が実施されているか。(評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)

b. 取水・導水工程	5a.5	上水道ポンプの翼角制御の導入	上水道ポンプの翼角制御が、上水道ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	モータ直結形ブロワ・ファン	95%以上に採用	1	0.6
				永久磁石(IPM)モータ	70%以上95%未満に採用	0.8	
c. 沈殿・ろ過工程	5a.6	上水道ポンプのインベラの改良	上水道ポンプのインベラが、上水道ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で改良されているか。	ブロワ・ファン	70%以上70%未満に採用	0.5	
				プレミアム効率(IE3)モータ	30%以上30%未満に採用	0.2	
b. 取水・導水工程	5b.1	除じん機の上下流の水位差によるON-OFF制御の導入	除じん機の上下流の水位差によるON-OFF制御が導入されているか。	高効率(IE2)モータ	5%未満に採用又は採用無し	0	
				ブロワ・ファン	95%以上に採用	1	0.5
c. 沈殿・ろ過工程	5b.2	場内雨水利用の導入	場内雨水の原水利用が導入されているか。	ブロワ・ファン	70%以上95%未満に採用	0.8	
				高効率(IE2)モータ	30%以上70%未満に採用	0.5	
c. 沈殿・ろ過工程	5c.1	かくはん装置の回転数制御の導入	かくはん装置の回転数制御が、かくはん装置総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	高効率(IE2)モータ	5%以上30%未満に採用	0.2	
				ブロワ・ファン	95%以上に採用	1	0.8
c. 沈殿・ろ過工程	5c.2	かくはん装置の低速モータの導入	かくはん装置の低速モータが、かくはん装置総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	高効率(IE2)モータ	70%以上70%未満に採用	0.5	
				ブロワ・ファン	30%以上30%未満に採用	0.2	

III 設備及び事業所の運用に関する事項	5 ・上水道施設の運用管理	5c.3	自然平衡形ろ過池(グリーンリフ方式)が導入されているか。		採用	1	
		d.	高度浄水工程	オンプロポのインバータ制御の導入 自然平衡形ろ過池(グリーンリフ方式)が導入されているか。 オンプロポのインバータ制御が、オンプロポ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	採用無し 採用無し 95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し オンプロポ無し	0 1 0.8 0.5 0.2 0 -	
の6 保・上 守水 理施 施設	e. 排水処理工程	5e.1	天日乾燥と脱水機併用の汚泥脱水システムの導入	天日乾燥と脱水機の併用による汚泥脱水システムが導入されているか。	採用	1	
		5e.2	排熱利用による濃縮汚泥加温システムの導入	排熱利用により濃縮汚泥を加温するシステムが導入されているか。	採用無し 採用無し 採用無し 採用無し	0 1 0 0	
II 設備及び建物	5 ・下水道施設の運用管理	a.	共通	水量及び水圧の適正化が実施されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	実施	1	
		5a.1	水量・水圧の適正化	水量及び水圧の適正化が実施されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	実施無し	0	
		5a.2	上水道ポンプ台数制御の適正化	上水道ポンプ台数制御の適正化が実施されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	実施	1	
		b.	取水・導水工程	除じん機の運転時間・運転間隔の適正化	除じん機の運転時間・運転間隔の適正化が実施されているか。	実施無し 実施無し 除じん機無し 実施	0 0 - 1
		5b.1	除じん機の運転時間・運転間隔の適正化	除じん機の運転時間・運転間隔の適正化が実施されているか。	実施無し 実施無し 除じん機無し 実施	0 0 - 1	
		c.	沈殿・ろ過工程	汚泥かき寄せ機の運転時間・運転間隔の適正化	汚泥かき寄せ機の運転時間及び運転間隔の適正化が実施されているか。	実施	1
		5c.1	汚泥かき寄せ機の運転時間・運転間隔の適正化	汚泥かき寄せ機の運転時間及び運転間隔の適正化が実施されているか。	実施無し 汚泥かき寄せ機無し 汚泥排出装置無し	0 - -	
		5c.2	汚泥排出装置の運転時間・運転間隔の適正化	界面計又は濃度計の利用による汚泥排出装置の運転時間及び運転間隔の適正化が実施されているか。	実施	1	
		5c.3	ろ過逆流・空洗の頻度の適正化	ろ過逆流及び空洗の頻度の適正化が実施されているか。	実施無し ろ過設備無し	0 -	
		d.	高度浄水工程	膜ろ過の膜洗浄の頻度・時間の適正化	膜ろ過の膜洗浄の頻度及び時間の適正化が実施されているか。	実施	1
		5d.1	膜ろ過の膜洗浄の頻度・時間の適正化	膜ろ過の膜洗浄の頻度及び時間の適正化が実施されているか。	実施無し 膜ろ過設備無し	0 -	
		5d.2	オン注注入量の調整	オン注注入量の調整が実施されているか。	実施	1	
e.	排水処理工程	汚泥濃縮設備の運転時間・運転間隔の適正化	汚泥濃縮設備の運転時間及び運転間隔の適正化が実施されているか。	実施	1		
5e.1	汚泥濃縮設備の運転時間・運転間隔の適正化	汚泥濃縮設備の運転時間及び運転間隔の適正化が実施されているか。	実施無し 汚泥濃縮設備無し	0 -			
5e.2	汚泥脱水設備の運転時間・運転間隔の適正化	汚泥脱水設備の運転時間及び運転間隔の適正化が実施されているか。	実施	1			
a.	共通	上水道施設の定期的な保守・点検	上水道施設の良好な状態を維持するために、定期的に保守及び点検が実施されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	実施	1		
6a.1	上水道施設の定期的な保守・点検	上水道施設の定期的な保守・点検が実施されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	実施	1			
6a.2	ブロワ・ファン等の吸気フィルターの清掃	ブロワ・ファン等の吸気フィルターの清掃が定期的な実施されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	実施無し 実施無し ブロワ・ファン無し	0 0 -			
5a.1	主ポンプの台数制御の導入	主ポンプの台数制御が、主ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 前処理工程無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -			

省エネルギー性能 の性能に関する事項	b. 水処理工程	5a.2	高効率主ポンプの導入	高効率モータを使用した高効率主ポンプが、主ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 前処理工程無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -
		5a.3	主ポンプの回転数制御の導入	主ポンプのインバータ、静止セパレータ等による回転数制御が、主ポンプ（雨水ポンプを除く。）総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 前処理工程無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -
		5a.4	スクリーン・揚砂設備の間欠制御の導入	タイマー、水位差、主ポンプ連動によるスクリーン設備及び揚砂設備の間欠制御が導入されているか。	採用 採用無し 前処理工程無し	1 0 -
		5a.5	流入水量による池数制御の導入	流入水量による池数制御が導入されているか。	採用 採用無し	1 0
		5b.1	ばっ気用ブロワの台数制御の導入	ばっ気用ブロワの台数制御が、ばっ気用ブロワ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。 (評価点が30点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 水処理工程無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -
		5b.2	ばっ気用ブロワの回転数制御・インレットベーン制御の導入	ばっ気用ブロワの回転数制御又はインレットベーン制御が、ばっ気用ブロワ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。 (評価点が30点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 水処理工程無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -
		5b.3	微細気泡散気装置の導入	微細気泡散気装置が、系列数に対して、どの程度の割合で導入されているか。 (評価点が30点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 水処理工程無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -
		5b.4	返送汚泥ポンプの台数制御の導入	返送汚泥ポンプの台数制御が、返送汚泥ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。 (評価点が30点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 水処理工程無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -
		5b.5	高効率返送汚泥ポンプの導入	高効率モータを使用した高効率返送汚泥ポンプが、返送汚泥ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 水処理工程無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -
		5b.6	汚泥かき寄せ機の間欠制御の導入	タイマー、汚泥界面による汚泥かき寄せ機の間欠制御が導入されているか。	採用 採用無し 水処理工程無し	1 0 -

5b.7	汚泥引き抜きポンプの間欠制御の導入	タイマー、濃度、プリセット量による汚泥引き抜きポンプの間欠制御が導入されているか。	採用 採用無し 水処理工程無し 95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 水処理工程無し	1 0 - 1 0.8 0.5 0.2 0 -
5b.8	返送汚泥ポンプの回転数制御の導入	返送汚泥ポンプの回転数制御が、返送汚泥ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 水処理工程無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -
5b.9	ばっ気用ブロワの送風量制御の導入	流入水量比例制御、MLSS(活性汚泥濃度)制御、DO(溶存酸素濃度)制御、ORP制御又は硝化(アンモニア濃度)制御によるばっ気用ブロワの送風量制御が、ばっ気用ブロワ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 水処理工程無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -
5b.10	水中かくはん機の回転数制御の導入	水中かくはん機の回転数制御が、水中かくはん機総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 水処理工程無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -
5b.11	水中かくはん機の間欠制御の導入	水中かくはん機の間欠制御が、水中かくはん機総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 水処理工程無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -
5b.12	ブロワ管への超音波流量計の導入	ブロワ管の圧力損失低減のために、超音波流量計が導入されているか。	採用 採用無し 水処理工程無し	1 0 -
5b.13	余剰汚泥ポンプの間欠制御の導入	タイマー、濃度又はプリセット量による余剰汚泥ポンプの間欠制御が導入されているか。	採用 採用無し 水処理工程無し	1 0 -
5b.14	監量チェーン汚泥かき寄せ機の導入	樹脂製の監量チェーンかき寄せ機が導入されているか。	採用 採用無し 水処理工程無し	1 0 -
5b.15	高効率ばっ気用ブロワの導入	高効率モータを使用した高効率ばっ気用ブロワが、ばっ気用ブロワ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 水処理工程無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -
5b.16	スチームタービン駆動ブロワの導入	スチームタービン駆動ブロワが導入されているか。	採用 採用無し 水処理工程無し	1 0 -
5b.17	硝化液循環ポンプの台数制御の導入	硝化液循環ポンプの台数制御が、硝化液循環ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 水処理工程無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -
5b.18	硝化液循環ポンプの回転数制御の導入	硝化液循環ポンプの回転数制御が、硝化液循環ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 水処理工程無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -

c. 沈殿・ろ過工程	5c.1	汚泥輸送ポンプの台数制御の導入	汚泥輸送ポンプの台数制御が、汚泥輸送ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	30%以上70%未満に採用	0.5	
			5%未満に採用又は採用無し	0		
			95%以上に採用	1		
	5c.2	高効率汚泥輸送ポンプの導入	高効率モータを使用した高効率汚泥輸送ポンプが、汚泥輸送ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	70%以上95%未満に採用	0.8	
				30%以上70%未満に採用	0.5	
				5%未満に採用又は採用無し	0	
				汚泥処理工程無し	-	
				95%以上に採用	1	
				70%以上95%未満に採用	0.8	
	5c.3	汚泥輸送ポンプの回転数制御の導入	汚泥輸送ポンプの回転数制御が、汚泥輸送ポンプ総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	70%以上95%未満に採用	0.8	
				30%以上70%未満に採用	0.5	
				5%未満に採用又は採用無し	0	
	5c.4	高効率汚泥脱水装置の導入	高効率な汚泥脱水装置が導入されているか。	採用無し	0	
				採用	1	
	5c.5	高性能フィルターの導入	汚泥含水率低減のために、高性能フィルターが導入されているか。	採用無し	0	
				採用	1	
	d. 汚泥焼却工程	5d.1	汚泥焼却炉等の流動プロロフ・誘引ファン等の回転数制御の導入	汚泥焼却炉、焼却炉及び溶融炉の流動プロロフ及び誘引ファンの回転数制御が、流動プロロフ・誘引ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。	95%以上に採用	1
				70%以上95%未満に採用	0.8	
30%以上70%未満に採用				0.5		
5%以上30%未満に採用				0.2		
5%未満に採用又は採用無し				0		
汚泥焼却工程無し				-		
5d.2		汚泥焼却炉等の炉壁外面温度による断熱強化	汚泥焼却炉、焼却炉及び溶融炉の炉壁外面温度による断熱強化がどの程度実施されているか。	目標炉壁外面温度	1	
				基準炉壁外面温度	0.5	
				断熱強化無し	0	
5d.3		汚泥焼却炉等の非熱回収システムの導入	汚泥焼却炉、焼却炉及び溶融炉の非熱回収システムが導入されているか。	採用	1	
				採用無し	0	
				採用	1	
5d.4	汚泥焼却炉等の排熱蒸気による暖房利用システムの導入	汚泥焼却炉、焼却炉及び溶融炉の排熱蒸気による暖房利用システムが導入されているか。	採用	1		
			採用無し	0		
			実施	1		
5a.1	主ポンプの高水位運転の実施	主ポンプ(雨水ポンプを除く。)の揚程を低減するために、高水位運転が実施されているか。	実施無し	0		
			前処理工程無し	-		
			実施	1		
5b.1	必要ばつ気圧力に応じた空気供給圧力の管理	必要ばつ気圧力に対して過剰にならないように、空気供給圧力が調整されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	実施無し	0		
			水処理工程無し	-		
			実施	1		
5b.2	ろ過装置洗浄工程の適正化	ろ過装置洗浄工程の適正化が実施されているか。	実施	1		
			実施無し	0		
			水処理工程無し	-		
5b.3	脱臭空気量の低減の実施	臭気発生源の拡散防止、発生臭気の漏えい防止又は一般換気との分離により、脱臭空気量の低減が実施されているか。	実施	1		
			実施無し	0		
			水処理工程無し	-		

			モータ直結形ファン	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 脱臭ファン無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -	0.6
			永久磁石(IPM)モータ	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 脱臭ファン無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -	1
			プレミアム効率(IE3)モータ	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 脱臭ファン無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -	0.7
			高効率(IE2)モータ	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し 脱臭ファン無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -	0.5
			乾燥機に排ガス再循環、排ガス熱回収、低圧抽気蒸気等の熱利用システムが導入されているか。	採用無し	1	
			乾燥機に高効率バーナーが導入されているか。	採用無し	0	
			乾燥機に高効率自動乾燥制御装置の導入	採用無し	1	
			乾燥機に高効率自動乾燥制御装置の導入	採用無し	0	
			焼却炉及びびガス化溶融炉に自動燃焼装置が導入されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	採用無し	1	
			焼却炉、ガス化溶融炉及び燃料式溶融炉の排熱回収システムの導入	採用無し	0	
			焼却炉等の排熱回収システムの導入	採用無し	1	
			通風設備の高効率ブロワ・ファンが、ブロワ・ファン総電動機出力に対して、どの程度の割合で導入されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	採用無し	0	
			モータ直結形ブロワ	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し ブロワ無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -	0.6
			永久磁石(IPM)モータ	95%以上に採用 70%以上95%未満に採用 30%以上70%未満に採用 5%以上30%未満に採用 5%未満に採用又は採用無し ブロワ無し	1 0.8 0.5 0.2 0 -	1
						$\Sigma (P_1 \times K_1 + \dots + P_3 \times K_3)$ ただし、最高1点とする。
b.	熱処理工程					

		プレミアム効率 (IE3) モーター	0.7		
			1	0.8	
			95%以上に採用	1	0.7
			70%以上95%未満に採用	0.8	
			30%以上70%未満に採用	0.5	
			5%以上30%未満に採用	0.2	
			5%未満に採用又は採用無し	0	
			採用無し	-	
		高効率 (IE2) モーター	95%以上に採用	1	0.5
			70%以上95%未満に採用	0.8	
			30%以上70%未満に採用	0.5	
			5%以上30%未満に採用	0.2	
			5%未満に採用又は採用無し	0	
			採用無し	-	
5b.4	燃料式溶融炉の高効率バーナー等の導入	燃料式溶融炉がある場合、高効率バーナー又は廃棄物利用バーナーが導入されているか。	採用無し	0	
5b.5	電気式溶融炉の最適電力制御の導入	電気式溶融炉がある場合、最適電力制御が導入されているか。	燃料式溶融炉無し	-	
5b.6	高効率排熱ボイラーの導入	高温高圧ボイラー、給水加熱、機械式ハンマリング装置等の高効率排熱ボイラーが導入されているか。	採用	1	
5b.7	排熱ボイラーの低温エコノマイザーの導入	排熱ボイラーに低温エコノマイザーが導入されているか。	採用無し	0	
5b.8	通風設備のプロポの回転数制御の導入	通風設備のプロポ・ファンの回転数制御が導入されているか。	採用無し	0	
5b.9	焼却炉等の高効率排熱炉体の導入	焼却炉及びびガス化溶融炉に高効率排熱炉体が導入されているか。	排熱ボイラー無し	-	
5b.10	焼却炉等における炉体のボイラー化	焼却炉及びびガス化溶融炉に、水冷壁等の炉体のボイラー化が導入されているか。	採用	1	
5b.11	減温塔の最適水噴霧制御の導入	減温塔に最適水噴霧制御が導入されているか。	採用無し	0	
5b.12	通風設備の蒸気タービン駆動プロポの導入	通風設備に蒸気タービン駆動プロポが導入されているか。	採用	1	
5b.13	通風設備の高効率蒸気式空予熱器の導入	通風設備に、低圧蒸気利用の温度制御による高効率蒸気式空予熱器が導入されているか。	採用無し	0	
5b.14	炉室内の最適換気制御システムの導入	炉室内の換気システムの最適換気制御システムが導入されているか。	採用	1	
5c.1	コンベアのインバータ制御の導入	コンベアの搬送速度のインバータ制御が導入されているか。	採用無し	0	
5c.2	飛灰固化装置のインバータ制御の導入	飛灰固化装置の回転機駆動のインバータ制御が導入されているか。	採用	1	
			採用無し	0	
			飛灰固化装置無し	-	

III 設備及び事業所の運用に関する事項	5 ・ 廃 物 処 理 施 設 の 運 用 管 理	a. 前 処 理 工 程	5c.3	排ガス処理用触媒反応塔への低温触媒の導入	再加熱用熱量の低減のために、排ガス処理用の触媒反応塔に低温触媒が導入されているか。	採用無し	1	
			5c.4	白煙防止用空気加熱器の空気量制御の導入	白煙防止用空気加熱器に、外気条件による空気量制御が導入されているか。	採用無し	0	
			5c.5	加熱脱塩素化装置の最適温度制御の導入	加熱脱塩素化装置の反応装置内の最適温度制御が導入されているか。	採用無し	1	
			5a.1	脱臭ファンの運転時間短縮の実施	脱臭ファンの運転時間短縮が実施されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	実施	1	
					焼却炉、ガス化溶融炉及び燃料式溶融炉の燃料と空気量の適正化が実施されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	実施無し 脱臭ファン無し	0 -	
			5b.1	焼却炉等の燃料と空気量の適正化	通風設備の送風量の適正化が実施されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	実施	1	
					発電用蒸気量の調整	実施無し 焼却炉等無し	0 -	
			5b.2	通風設備の送風量の適正化	ろ過式集じん装置のヒーター温度制御の適正化が実施されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	実施	1	
					発電用蒸気量の調整	実施無し	0	
			5c.1	後処理工程	ろ過式集じん装置のヒーター温度制御の適正化	発電設備無し	0	
					廃棄物処理施設の定期的な保守・点検	ろ過式集じん装置無し	1	
			5d.1	共通	廃棄物処理施設の定期的な保守・点検	ろ過式集じん装置のヒーター温度制御の適正化が実施されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	実施	1
						廃棄物処理施設の定期的な保守・点検	ろ過式集じん装置無し	0
						廃棄物処理施設の定期的な保守・点検が実施されているか。 (評価点が0点の場合は、トップレベル事業所の必須要件を満足しない。)	実施	1
				実施無し	0			

別表第3

区分	No.	評価項目	評価対象	単位
適用範囲 補正係数に 関する評価 対象	1	— 熱源2次ポンプ、熱源1次ポンプ、冷却水ポンプ	熱源ポンプ総電動機出力	kW
		II 1b.8 高効率熱源ポンプの導入		
	2	— 熱源2次ポンプ	熱源2次ポンプ総電動機出力	kW
		II 1b.5 熱源2次ポンプ変流量制御の導入		
		II 1b.6 熱源2次ポンプの適正容量分割又は小容量ポンプの導入		
		II 1b.13 熱源2次ポンプの末端差圧制御の導入		
		II 2a.22 熱源2次ポンプの送水圧力設定制御の導入		
	3	— 熱源1次ポンプ	熱源1次ポンプ総電動機出力	kW
		II 1b.11 熱源1次ポンプ変流量制御の導入		
	4	— 冷却水ポンプ	冷却水ポンプ総電動機出力	kW
		II 1b.12 冷却水ポンプ変流量制御の導入		
	5	— 事務所外皮	事業所全体の建物外皮からの熱負荷	GJ/年
	6	— 事務所外皮	事務所の建物外皮からの熱負荷	GJ/年
	7	— 事務室	事務室の床面積	m ²
		II 2a.5 ウォーミングアップ時の外気遮断制御の導入		
		II 2a.7 空調機の気化式加湿器の導入		
		II 2a.8 外気冷房システムの導入		
		II 2a.10 CO2濃度による外気量制御の導入		
		II 2a.13 全熱交換器の導入		
		II 2a.21 デシカント空調システムの導入		
		II 2b.6 照明の初期照度補正制御の導入		
		II 2b.7 照明の昼光利用照明制御の導入		
		II 2b.9 タスク&アンビエント照明システムの導入		
		II 2b.11 照明のセキュリティ連動制御の導入		
	8	— 通風装置燃料	燃焼設備総定格燃料消費量	MJ/h
		II 5a.1 燃料の供給量・空気比を調整できるバーナー等の導入		
		II 5a.4 工業炉のリジェネレイティブバーナーの導入		
		II 5a.5 工業炉のリジェネレーターの導入		
		II 5c.1 排ガスの排熱回収設備の導入		
	9	— 通風装置燃料	通風装置のある燃焼設備総定格燃料消費量	MJ/h
		II 5a.2 通風量・燃焼室内の圧力を調整できる通風装置の導入		
	10	— 通風装置電気、複数電動機、成型機、クレーン、生産ポンプ、生産ブロウ等、待機設備	電動力応用設備総電動機出力	kW
		II 5e.4 生産プロセスにおける電動機の回転数制御の導入		
11	— 通風装置電気	通風装置総電動機出力	kW	
	II 5a.3 通風装置のインバータ制御の導入			
12	— 複数電動機	複数の電動機を使用する設備総電動機出力	kW	
	II 5e.1 生産プロセスにおける電動機の台数制御の導入			
13	— 電気溶接機、待機設備	電気加熱設備総定格消費電力	kW	
14	— 電気溶接機	電気溶接機総定格消費電力	kW	
	II 5e.5 電気溶接機のインバータ制御の導入			
15	— 成型機	成型機総定格消費電力	kW	
16	— クレーン	クレーン総電動機出力	kW	
	II 5e.7 高効率クレーンの導入			
17	— 生産ポンプ	生産プロセス用ポンプ総電動機出力	kW	
	II 5e.8 生産プロセスにおける高効率ポンプの導入			
18	— 生産ブロウ等	生産プロセス用ブロウ・ファン総電動機出力	kW	
	II 5e.9 生産プロセスにおける高効率ブロウ・ファンの導入			
	II 5e.15 ブロウのインレットベーン制御の導入			
	II 5e.16 ブロウの動力伝達装置による減速の導入			
19	— 待機設備	待機状態のある電気使用設備総定格消費電力	kW	

別表第4

評価項目の区分		No.	評価項目	要求事項 配分比率	要求事項 内の配分比 率
I 一般 管理 事項	1. CO2削減推進体制の整備	1.1	CO2削減推進会議等の設置及び開催	0.1	0.4
		1.2	PDCA管理サイクルの実施体制の整備		0.3
		1.3	ISO14001の取得		0.15
		1.4	CO2削減に関するQCサークル活動、改善提案制度の導入		0.15
		1.5	エネルギー管理優良工場、省エネ大賞等の表彰		0.2
	2. 図面、管理標準等の整備	2.1	図面・改修履歴等の整備	0.1	0.3
		2.2	設備台帳等の整備		0.3
		2.3	管理標準等の整備		0.4
	3. 主要設備等に関する計測・計量 及び記録	3.1	エネルギー管理システムの導入	0.3	0.25
		3.2	電力負荷状況・発電状況等の把握に必要な計測・計量設備の導入		0.1
		3.3	エネルギー消費先別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入		0.2
		3.4	系統別の使用量把握に必要な計測・計量設備の導入		0.2
		3.5	管理日報・月報・年報の作成		0.05
		3.6	ユーティリティ設備の分析に必要な計測・計量設備の導入		0.2
	4. エネルギー消費量・CO2排出量 の管理	4.1	生産工程・処理工程のエネルギー管理	0.45	0.05
		4.2	エネルギー消費特性の把握、エネルギー消費原単位の算出及び管理		0.1
		4.3	CO2排出量の管理		0.05
		4.4	CO2削減目標の設定、CO2削減対策計画の立案及び実績の集約・評価の実施		0.25
		4.5	CO2削減対策の啓発活動の実施		0.1
		4.6	改善策の立案・実施及び効果検証の実施		0.35
		4.7	ユーティリティ設備の運転解析の実施		0.1
		4.8	従業員等への環境・エネルギー情報提供システムの導入		0.1
	5. 保守・点検の管理	5.1	保守・点検計画の策定及び実施	0.05	1

別表第5

エネルギー消費先区分		主なエネルギー消費機器等
区分	細目	
ユーティリティ設備等	蒸気供給	蒸気ボイラー等
	熱源	冷凍機、冷温水機、温水ボイラー等
	冷却塔	冷却塔
	熱搬送	空調1次ポンプ、空調2次ポンプ、冷却水ポンプ等
	コージェネ	コージェネレーション等
	受変電	変圧器、蓄電池等
	圧縮空気	エアコンプレッサー等
	給排水	給水ポンプ等
	給湯	給湯ボイラー、循環ポンプ、電気温水器、ガス湯沸器等
	排水処理	排水処理設備、ブロワ等
建築設備	一般パッケージ空調	パッケージ形空調機等
	一般空調機	一般空調用空調機、ファンコイルユニット等
	換気	給排気ファン等
	照明	照明器具等
	昇降機	エレベーター、ダムウェーター、リフト等
	コンセント	オフィス機器、家電等
	厨房	厨房器具、厨房用パッケージ形空調機、厨房用空調機、厨房用ファン等
	パッケージ空調※	一般パッケージ空調+特殊パッケージ空調
	空調機※	一般空調機+特殊空調機
	一般空調※	一般パッケージ空調+一般空調機
生産・プラント・特殊設備	燃料燃焼	工業炉、乾燥炉、焼き機等
	熱利用	蒸気加熱装置、蒸し器、冷却装置等
	電動力応用	成形機、ミキサー、コンベア、ポンプ、ファン、ブロワ等
	電気加熱	誘導炉、アーク炉、抵抗炉、電気溶接機等
	特殊パッケージ空調	クリーンルーム、恒温恒湿室、変温室、動物実験室用パッケージ形空調機等
	特殊空調機	クリーンルーム、恒温恒湿室、変温室、動物実験室用空調機等
	冷凍・冷蔵	冷凍庫、冷蔵庫等
	特殊排気	脱臭装置、VOC処理装置、スクラバー等
	純水供給	純水供給設備、RO装置等
	輸送	フォークリフト、重機、場内専用車両等
	燃焼・熱利用※	燃料燃焼+熱利用
	電気使用※	電動力応用+電気加熱
	特殊空調※	特殊パッケージ空調+特殊空調機
上水道施設	取水・導水	ポンプ設備、除塵機等
	沈殿	凝集池設備、沈殿設備、攪拌装置、掻き寄せ機等
	ろ過	ろ過池設備、膜ろ過設備等
	高度浄水	オゾン処理設備、粒状活性炭ろ過池設備等
	汚泥濃縮	汚泥濃縮設備等
	汚泥脱水	汚泥脱水設備等
	送水・配水	送水・配水施設等
	上水道ポンプ※	取水・導水+ろ過+高度浄水+汚泥濃縮+送水・配水
下水道施設	主ポンプ	沈砂池設備、主ポンプ設備、スクリーン等
	沈殿池	最初沈殿池設備、最終沈殿池設備、掻き寄せ機、汚泥ポンプ等
	反応タンク	反応タンク設備、送風機、散気装置、攪拌機等
	高度処理	高度処理設備、消毒設備、砂ろ過装置、生物膜ろ過装置等
	汚泥濃縮	汚泥濃縮設備等
	汚泥消化	汚泥消化タンク設備等
	汚泥脱水	汚泥脱水設備、脱水機等
	汚泥焼却	汚泥焼却設備、汚泥溶融設備、焼却炉、熱回収設備等
廃棄物処理施設	乾燥	乾燥設備、乾燥機等
	受入供給	受入供給設備、ごみ投入扉、ごみクレーン等
	燃焼	焼却設備、ガス化溶融設備等
	灰溶融	灰溶融設備、燃料式溶融炉、電気式溶融炉等
	ガス冷却	ガス冷却設備、排熱ボイラー等
	通風	通風設備、送風機、空気予熱器等
	排ガス処理	排ガス処理設備、集塵装置、触媒反応塔、空気加熱器等
	灰出し	灰出し設備、コンベア、飛灰固化装置、脱塩素化装置、灰クレーン等
建物	外皮※	建物外皮からの熱負荷を処理するためのエネルギー消費量

備考 ※は事業所全体のエネルギー消費量の算定の際は対象外となる。

別表第6

評価項目の区分		No.	評価項目	エネルギー消費先区分	省エネ率	適用範囲補正係数
II 建物及び設備性能に関する事項	1 ・ユーティリティ設備等の省エネルギー性能	a. 蒸気供給設備	1a.1 高効率蒸気ボイラーの導入	蒸気供給	0.171	
		1a.2 蒸気ボイラーのエコノマイザー又はエアヒーターの導入	蒸気供給	0.062		
		1a.3 蒸気弁・フランジ部の断熱	蒸気供給	0.02		
		1a.4 蒸気ドレンタンクの断熱	蒸気供給	0.001		
		1a.5 蒸気ボイラーの台数制御の導入	蒸気供給	0.059		
		1a.6 蒸気ドレン回収設備の導入	蒸気供給	0.032		
		1a.7 蒸気ドレンのクローズド回収方式の導入	蒸気供給	0.037		
		1a.8 蒸気ボイラーの小型分散システムの導入	蒸気供給	0.007		
		1a.9 省エネ型スチームトラップの導入	蒸気供給	0.02		
		1a.10 蒸気ボイラーの押込送風機インバータ制御の導入	蒸気供給	0.001		
		1a.11 不要蒸気配管の撤去・蒸気配管ルート・サイズの変更	蒸気供給	0.04		
		1a.12 圧力差タービンの導入	蒸気供給	0.008		
		1a.13 フラッシュ蒸気利用設備の導入	蒸気供給	0.059		
		1a.14 蒸気減圧エネルギー動力回収設備の導入	蒸気供給	0.009		
		1a.15 アキュムレーターの導入	蒸気供給	0.059		
		1a.16 負荷に適した容量のバーナーへの変更	蒸気供給	0.059		
	b. 熱源・熱搬送設備、冷却設備	1b.1 高効率熱源機器の導入	熱源	0.282		
	1b.2 水搬送経路の密閉化	熱搬送	0.06			
	1b.3 熱源の台数制御の導入	熱源	0.015			
	1b.4 冷却塔ファン等の台数制御又は発停制御の導入	冷却塔	0.15			
	1b.5 熱源2次ポンプ変流量制御の導入	熱搬送	0.18	熱源2次ポンプ		
	1b.6 熱源2次ポンプの適正容量分割又は小容量ポンプの導入	熱搬送	0.11	熱源2次ポンプ		
	1b.7 高効率冷却塔の導入	冷却塔	0.486			
	1b.8 高効率熱源ポンプの導入	熱搬送	0.096			
	1b.9 大温度差送水システムの導入	熱搬送	0.24			
	1b.10 熱源機器出口設定温度の遠方制御の導入	熱源	0.006			
	1b.11 熱源1次ポンプ変流量制御の導入	熱搬送	0.22	熱源1次ポンプ		
	1b.12 冷却水ポンプ変流量制御の導入	熱搬送	0.25	冷却水ポンプ		
	1b.13 熱源2次ポンプの末端差圧制御の導入	熱搬送	0.065	熱源2次ポンプ		
	1b.14 熱交換器の断熱	熱源	0.007			
	1b.15 蓄熱システムの導入	熱源	0.05			
	1b.16 冷却塔ファンインバータ制御の導入	冷却塔	0.015			
	1b.17 フリークーリングシステムの導入	熱源	0.03			
	1b.18 冷却水ろ過冷却リサイクルシステムの導入	給排水	0.05			
	1b.19 冷却水ON/OFF制御システムの導入	熱搬送	0.015	冷却水ポンプ		
	1b.20 中温冷水利用システムの導入	熱源	0.02			
	1b.21 統合熱源制御システムの導入	熱源	0.04			
	1b.22 熱源2次ポンプの送水圧力設定制御の導入	熱搬送	0.05	熱源2次ポンプ		
	c. コージェネレーション設備	1c.1 高効率コージェネレーションの導入	コージェネ	0.1		
	d. 受変電設備、配電設備	1d.1 高効率変圧器の導入	受変電	0.2		
	1d.2 力率改善制御システムの導入	受変電	0.2			
	1d.3 デマンド制御システムの導入	受変電	0.075			
	1d.4 低圧動力回路への力率改善コンデンサの導入	受変電	0.15			
	1d.5 400V配電方式の導入	受変電	0.1			
	1d.6 低負荷変圧器の統合	受変電	0.1			
	1d.7 変圧器の台数制御の導入	受変電	0.1			
	1d.8 大型変圧器の冷却設備制御の導入	受変電	0.075			
	1d.9 高効率UPSの導入	受変電	0.008			
	e. 圧縮空気供給設備	1e.1 高効率エアコンプレッサーの導入	圧縮空気	0.25		
	1e.2 エアコンプレッサーの台数制御の導入	圧縮空気	0.1			
	1e.3 コンプレッサー室への換気設備の導入	圧縮空気	0.01			
	1e.4 圧縮空気配管のループ配管化	圧縮空気	0.01			
	1e.5 エアコンプレッサーの分散化	圧縮空気	0.04			
	1e.6 圧縮空気配管の高圧ライン/低圧ラインの系統分割	圧縮空気	0.085			
	1e.7 ブースター方式の導入	圧縮空気	0.085			
	1e.8 吸気冷却システムの導入	圧縮空気	0.04			
	1e.9 コンプレッサーの排熱回収システムの導入	圧縮空気	0.02			
	1e.10 バージ制御装置の導入	圧縮空気	0.07			
	1e.11 エアコンプレッサー排熱の局所排気システムの導入	圧縮空気	0.02			
	1e.12 フィルタの低圧損化	圧縮空気	0.01			
	1e.13 高効率ドライヤーの導入	圧縮空気	0.01			
	f. 給排水・給湯設備、排水処理設備	1f.1 高効率給水ポンプの導入	給排水	0.1		
	1f.2 排水処理用の高効率ポンプ・ブロウの導入	排水処理	0.1			

		1f.3	排水再利用システム等の導入	給排水	0.057	
		1f.4	微細気泡散気管の導入	排水処理	0.1	
		1f.5	ばっ気用ブロワの変風量制御の導入	排水処理	0.05	
		1f.6	ばっ気用ブロワの溶存酸素濃度制御の導入	排水処理	0.05	
		1f.7	高効率給湯ヒートポンプユニットの導入	給湯	0.292	
2	a. 空調・換気設備	2a.1	高効率パッケージ形空調機の導入	パッケージ空調	0.3	
		2a.2	電気室・エレベーター機械室の温度制御の導入	換気	0.01	
		2a.3	高効率空調機の導入	空調機	0.052	
		2a.4	高効率空調・換気用ファンの導入	換気	0.12	
		2a.5	ウォーミングアップ時の外気遮断制御の導入	一般空調機	0.02	事務室
		2a.6	空調機の変風量システムの導入	一般空調機	0.082	
		2a.7	空調機の気化式加湿器の導入	一般空調機	0.01	事務室
		2a.8	外気冷房システムの導入	一般空調機	0.031	事務室
		2a.9	局所冷暖房設備の導入	一般空調機	0.01	
		2a.10	CO2濃度による外気量制御の導入	一般空調機	0.057	事務室
		2a.11	ファンコイルユニットの比例制御の導入	熱搬送	0.01	熱源2次ポンプ
		2a.12	空調の最適起動制御の導入	一般空調機	0.01	事務室
		2a.13	全熱交換器の導入	一般空調機	0.06	事務室
		2a.14	大温度差送風空調システムの導入	一般空調機	0.016	
		2a.15	放射冷暖房空調システムの導入	一般空調機	0.051	
		2a.16	置換換気システムの導入	換気	0.08	
		2a.17	空調機の間欠運転制御の導入	一般空調機	0.032	
		2a.18	高効率厨房換気システムの導入	厨房	0.16	
		2a.19	厨房外調機・ファンの風量モード切替制御の導入	厨房	0.038	
		2a.20	人感センサーによる換気制御の導入	換気	0.016	
		2a.21	デシカント空調システムの導入	空調機	0.02	事務室
		2a.22	ファンの手動調整用インバータの導入	換気	0.01	
		2a.23	気流感創出ファン・サーキュレーションファンの導入	一般空調	0.01	
b. 照明設備	2b.1	高効率照明器具の導入	照明	0.188		
	2b.2	高輝度型誘導灯・蓄光型誘導灯の導入	照明	0.018		
	2b.3	照明のゾーニング制御の導入	照明	0.05		
	2b.4	照明の人感センサーによる在室検知制御の導入	照明	0.03		
	2b.5	照明の局所制御の導入	照明	0.04		
	2b.6	照明の初期照度補正制御の導入	照明	0.105	事務室	
	2b.7	照明の昼光利用照明制御の導入	照明	0.07	事務室	
	2b.8	照明のタイムスケジュール制御の導入	照明	0.025		
	2b.9	タスク&アンビエント照明システムの導入	照明	0.25	事務室	
	2b.10	照明の明るさ感知による自動点滅制御の導入	照明	0.004		
	2b.11	照明のセキュリティー連動制御の導入	照明	0.005	事務室	
	2b.12	誘導灯の消灯制御の導入	照明	0.005		
c. 衛生設備	2c.1	大便器の節水器具の導入	給排水	0.22		
	2c.2	省エネ型便座又は洗浄便座のスケジュール制御の導入	給排水	0.3		
	2c.3	洗面器の自動水栓の導入	給排水	0.03		
	2c.4	便所への擬音装置の導入	給排水	0.1		
	2c.5	自然冷媒ヒートポンプ給湯器の導入	給湯	0.167		
	2c.6	潜熱回収給湯器の導入	給湯	0.1		
d. 昇降機設備	2d.1	エレベーターの可変電圧可変周波数制御方式の導入	昇降機	0.5		
	2d.2	エレベーターの群管理制御の導入	昇降機	0.1		
	2d.3	エレベーターかご内の照明、ファン等の不使用時停止制御の導入	昇降機	0.02		
	2d.4	エレベーターの電力回生制御の導入	昇降機	0.111		
e. その他	2e.1	グリーン購入法適合商品のオフィス機器の導入	全般	0.004		
	2e.2	省エネ型自動販売機又は自動販売機のスケジュール制御の導入	全般	0.002		
	2e.3	高効率厨房機器の導入	厨房	0.15		
3	a. 建物外皮	3a.1	高性能な建物外皮の導入	外皮	0.68	事務所外皮
		3a.2	隙間風対策の導入	外皮	0.04	
		3a.3	ブラインドの日射制御及びスケジュール制御の導入	外皮	0.02	
		3a.4	屋上緑化の導入	外皮	0.008	
		3a.5	壁面緑化の導入	外皮	0.015	
		3a.6	遮熱塗料塗布・遮熱フィルムの導入	外皮	0.015	
		3a.7	屋根への遮熱塗装の導入	外皮	0.008	
b. 自然エネルギーの利用	3b.1	自然採光を利用したシステムの導入	照明	0.04		
	3b.2	自然通風を利用したシステムの導入	一般空調	0.033		
	3b.4	年間を通して安定した地中温度を利用したシステムの導入	一般空調	0.002		
	4.1	太陽光発電システムの導入	全般	0.007		
	4.2	再生可能エネルギー・未利用エネルギーシステムの導入	全般	0.014		

III 事業所及び設備の運用に関する事項	1・ユーティリティ設備等の運用管理	a. 蒸気供給設備	1a.1 蒸気ボイラーの空気比の管理	蒸気供給	0.02	
		1a.2 蒸気ボイラーの設定圧力の適正化	蒸気供給	0.007		
		1a.3 部分負荷時の蒸気ボイラー運転の適正化	蒸気供給	0.03		
		1a.4 非使用エリアの蒸気供給バルブの閉止	蒸気供給	0.01		
		1a.5 非使用時間帯の蒸気ボイラーの停止	蒸気供給	0.01		
		1a.6 蒸気ボイラーの給水水質・ブロー量の管理	蒸気供給	0.007		
		1a.7 蒸気配管の保温の確認	蒸気供給	0.005		
		1a.8 蒸気ボイラーの起動時間の適正化	蒸気供給	0.03		
		1a.9 スチームトラップの効果検証の実施	蒸気供給	0.01		
		b. 熱源・熱搬送設備、冷却設備	1b.1 燃焼機器の空気比の管理	熱源	0.02	
		1b.2 冷凍機の冷却水温度設定値の調整	熱源	0.016		
		1b.3 冷温水管等の保温の確認	熱源	0.005		
		1b.4 インバータ制御系統のバルブの開度調整	熱搬送	0.023		
		1b.5 熱源不要期間の熱源機器等停止	熱源	0.01		
		1b.6 空調停止時の熱源運転時間の短縮	熱源	0.04		
		1b.7 熱源機器の冷温水出口温度設定値の調整	熱源	0.015		
		1b.8 部分負荷時の熱源運転の適正化	熱源	0.03		
		1b.9 部分負荷時の熱源ポンプ運転の適正化	熱搬送	0.12	熱源2次ポンプ	
	1b.10 蓄熱槽の管理	熱源	0.021			
	1b.11 ミキシングロス防止のためのバルブ開度の確認	熱源	0.005			
	1b.12 空調開始時の熱源起動時間の適正化	熱源	0.01			
	c. コージェネレーション設備	1c.1 コージェネレーションの運転の適正化	コージェネ	0.015		
	d. 受変電設備、配電設備	1d.1 不要期間・不要時間帯の変圧器の遮断	受変電	0.05		
	1d.2 変圧器タップ切換による電圧の最適化	受変電	0.05			
	1d.3 昼間運転設備の夜間移行	受変電	0.04			
	e. 圧縮空気供給設備	1e.1 非使用エリアの圧縮空気供給バルブの閉止	圧縮空気	0.03		
	1e.2 非使用時間帯のエアコンプレッサーの停止	圧縮空気	0.025			
	1e.3 部分負荷時のエアコンプレッサー運転の適正化	圧縮空気	0.03			
	1e.4 エアコンプレッサーの設定圧力の適正化	圧縮空気	0.016			
	1e.5 エアコンプレッサー吸入空気温度の管理	圧縮空気	0.02			
	1e.6 ドライエアの設定露点温度の緩和	圧縮空気	0.005			
	f. 給排水・給湯設備、排水処理設備	1f.1 給水・給湯バルブの調整	給排水	0.05		
	1f.2 給水圧力の管理	給排水	0.08			
	1f.3 揚水ポンプのバルブの開度調整	給排水	0.05			
	1f.4 貯湯温度設定の緩和	給湯	0.05			
	1f.5 給湯不要時間帯の給湯循環ポンプの停止	給湯	0.05			
	1f.6 ばっ気設備の必要ばっ気圧力に応じた空気供給圧力の管理	排水処理	0.017			
	2・ユーティリティ設備等の保守管理	a. 蒸気供給設備	2a.1 蒸気ボイラーの点検・清掃	蒸気供給	0.003	
		2a.2 蒸気配管・バルブ・スチームトラップからの漏れ点検	蒸気供給	0.006		
		2a.3 蒸気制御バルブ等の作動チェック	蒸気供給	0.001		
		2a.4 蒸気ボイラーのメーカーによる遠隔監視	蒸気供給	0.001		
		b. 熱源・熱搬送設備、冷却設備	2b.1 熱源機器の点検・清掃	熱源	0.005	
		2b.2 熱交換器の清掃	熱源	0.001		
		2b.3 熱源用制御機器の点検及び制御バルブ等の作動チェック	熱源	0.002		
		2b.4 冷却水の適正な水質管理及び冷却塔の充填材の清掃	冷却塔	0.002		
		2b.5 熱源機器のメーカーによる遠隔監視	熱源	0.001		
		c. コージェネレーション設備	2c.1 コージェネレーション設備の定期的な点検	コージェネ	0.001	
		e. 圧縮空気供給設備	2e.1 圧縮空気配管・バルブからの漏れ点検	圧縮空気	0.001	
		2e.2 エアコンプレッサー吸込みフィルターの清掃	圧縮空気	0.001		
		2e.3 インタークーラーの清掃	圧縮空気	0.001		
		3・建築設備の運用管理	a. 空調・換気設備	3a.1 居室の室内温度の適正化	一般空調	0.015
3a.2 室使用開始時の空調起動時間の適正化			一般空調	0.013	事務室	
3a.3 換気ファンの間欠運転の実施	換気		0.05			
3a.4 クールビズ・ウォームビズによる空調設定温度の緩和	一般空調		0.023			
3a.5 エレベーター機械室・電気室の室内設定温度の適正化	換気		0.025			
3a.6 CO2濃度・外気湿度による外気取入量の調整	一般空調		0.015	事務室		
3a.7 居室以外の室内温度の緩和	一般空調		0.005	事務室		
3a.8 エレベーター機械室・電気室の換気ファンの夏季停止	換気		0.031			
3a.9 エレベーター機械室・電気室の空調機の給気・還気設定温度の適正化	換気		0.009			
3a.10 ファンのブーリーダウンの実施	換気		0.015			
3a.11 パッケージ形空調機の省エネチューニングの実施	パッケージ空調		0.05			
b. 照明設備	3b.1 事務室以外の照度条件の緩和		照明	0.06		
3b.2 照明のタイムスケジュールによる消灯	照明		0.025			
3b.3 事務室の室内照度の適正化	照明		0.03	事務室		
3b.4 事務室の照度条件の緩和	照明		0.05	事務室		
3b.5 時間外等の照明点灯エリアの集約化	照明		0.01			

4 ・ 建 築 設 備 の 保 守 管 理	c. 衛生設備	3c.1	洗浄便座暖房の夏季停止	給排水	0.2	
		3c.2	給湯温度設定の緩和	給湯	0.05	
		3c.3	貯湯式電気温水器の夜間・休日の電源停止	給湯	0.05	
		3c.4	便所洗面給湯の給湯中止又は給湯期間の短縮	給湯	0.1	
	d. 昇降機設備	3d.1	夜間・休日等のエレベーターの運転台数の削減	昇降機	0.01	
	e その他	3e.1	空調空間と非空調空間の境にある出入口の開閉の管理	一般空調	0.005	
		3e.2	自動販売機の照明の消灯	コンセント	0.01	
	a. 空調・換気設備	4a.1	空調機・ファンコイルユニット等のフィルターの清浄	空調機	0.001	
		4a.2	センサー類の精度チェック及び制御ダンパ等の作動チェック	空調機	0.002	
		4a.3	空調機・ファンコイルユニット等のコイルフィン等の清浄	空調機	0.001	
4a.4		パッケージ屋外機のコイル洗浄	パッケージ空調	0.001		
4a.5		ファンベルトの張力調整	換気	0.001		
4a.6		省エネファンベルトへの交換	換気	0.027		
b. 照明設備	4b.1	照明器具の清掃	照明	0.001		
	4b.2	照明用制御設備の作動チェック	照明	0.001		
	4b.3	ランプ交換時の初期照度補正リセットの実施	照明	0.001		

II 設備及び建物の性能に関する事項	5 ・生産・プラント・特殊設備の省エネルギー性能	a.燃料の燃焼	5a.1	燃料の供給量・空気比を調整できるバーナー等の導入	燃料燃焼	0.024	
			5a.2	通風量・燃焼室内の圧力を調整できる通風装置の導入	燃料燃焼	0.13	通風装置燃料
			5a.3	通風装置のインバータ制御の導入	電動力応用	0.25	通風装置電気
			5a.4	工業炉のリジェネレイティブバーナーの導入	燃料燃焼	0.126	
			5a.5	工業炉のリジェネレーター等の導入	燃料燃焼	0.05	
		b.加熱及び冷却並びに伝熱	5b.1	加熱・冷却制御システムの導入	燃焼・熱利用	0.015	
			5b.2	塗装ブースの3WET塗装システムの導入	燃焼・熱利用	0.03	
		c.排熱回収	5c.1	排ガスの排熱回収設備の導入	燃料燃焼	0.05	
		d.断熱・保温	5d.1	燃焼設備・熱利用設備への二重扉の導入	燃焼・熱利用	0.014	
			5d.2	燃焼設備・熱利用設備への空気流等による遮断設備の導入	燃焼・熱利用	0.014	
			5d.3	工業炉の炉壁外面温度による断熱強化	燃料燃焼	0.018	
			5d.4	燃焼設備・熱利用設備炉体開口部の縮小・密閉	燃焼・熱利用	0.014	
			5d.5	既存の燃焼設備・熱利用設備の断熱強化	燃焼・熱利用	0.004	
		e.電動力応用設備・電気加熱設備	5e.1	生産プロセスにおける電動機の数制御の導入	電動力応用	0.1	複数電動機
			5e.2	中・大容量モータ冷却ファンのモータ連動制御の導入	電動力応用	0.011	
			5e.3	エアブロー機器への省エネ型エアノズルの導入	圧縮空気	0.02	
			5e.4	生産プロセスにおける電動機の回転数制御の導入	電動力応用	0.2	
			5e.5	電気溶接機のインバータ制御の導入	電気加熱	0.34	電気溶接機
			5e.6	油圧・空圧駆動成型機の電動化	電動力応用	0.1	成型機
			5e.7	高効率クレーンの導入	電動力応用	0.15	クレーン
			5e.8	生産プロセスにおける高効率ポンプの導入	電動力応用	0.1	生産ポンプ
			5e.9	生産プロセスにおける高効率ブロウ・ファンの導入	電動力応用	0.15	生産ブロウ等
			5e.10	油圧・空圧駆動アクチュエータの電動化	電動力応用	0.004	
			5e.11	空圧駆動アクチュエータの低圧化	圧縮空気	0.04	
			5e.12	ブロー工程におけるエアコンプレッサのブロワ化	圧縮空気	0.042	
			5e.13	高効率コンベアの導入	電動力応用	0.005	
			5e.14	ブロー工程の縮小	圧縮空気	0.005	
			5e.15	ブロウのインレットベーン制御の導入	電動力応用	0.18	生産ブロウ等
			5e.16	ブロウの動力伝達装置による減速の導入	電動力応用	0.05	生産ブロウ等
			5e.17	塗料循環システムにおける油圧・空圧ポンプの電動ポンプ化	電動力応用	0.014	
			5e.18	塗料循環システムのフローコントロールシステムの導入	電動力応用	0.014	
		f.特殊空調設備	5f.1	クリーンルームのローカルリターン方式の導入	特殊空調	0.05	
			5f.2	省エネ型ファンフィルタユニットの導入	特殊空調	0.02	
			5f.3	ファンフィルタユニットの台数制御の導入	特殊空調	0.015	
			5f.4	半導体プロセス等における局所クリーン化の導入	特殊空調	0.013	
			5f.5	クリーンルーム空調機のインバータ制御の導入	特殊空調	0.025	
			5f.6	恒温恒湿室の部分層流方式の導入	特殊空調	0.02	
			5f.7	恒温恒湿室の再熱負荷の軽減手法の導入	特殊空調	0.06	
			5f.8	冷媒ホットガスレヒート除湿システムの導入	特殊パッケージ空調	0.06	
			5f.9	高効率冷凍・冷蔵設備の導入	冷凍・冷蔵	0.3	
			5f.10	クリーンルームの顕熱処理用ドライコイルの導入	特殊空調	0.05	
			5f.11	クリーンルームの局所冷却システムの導入	特殊空調	0.01	
			5f.12	クリーンルームの陽圧排気の一般室利用	特殊空調	0.01	
			5f.13	省エネ型クリーンルーム空調コントローラの導入	特殊空調	0.03	
			5f.14	クリーンルームの外調機省エネ制御システムの導入	特殊空調	0.03	
			5f.15	恒温恒湿室の露点飽和散水システムの導入	特殊空調	0.08	
			5f.16	動物実験施設への空気熱交換器の導入	特殊空調	0.08	
			5f.17	換気式飼育ラックによる部分換気方式の導入	特殊空調	0.12	
			5f.18	少排気量ドラフトチャンバーの導入	特殊空調	0.08	
			5f.19	ドラフトチャンバーの換気量可変制御システムの導入	特殊空調	0.005	
			5f.20	空調予熱コイルへの冷凍機冷却水利用システムの導入	特殊空調	0.03	
		5f.21	塗装ブース空調のウィンドウ制御の導入	特殊空調	0.085		
		5f.22	塗装ブース排気リサイクルシステムの導入	特殊空調	0.16		
		5f.23	冷凍車プラットホームへの冷房設備の導入	冷凍・冷蔵	0.05		
	g.特殊排気設備	5g.1	高効率脱臭装置の導入	特殊排気	0.176		
		5g.2	生産設備と脱臭装置の連動制御の導入	特殊排気	0.03		
		5g.3	直燃式脱臭装置の排熱回収ボイラー・エコノマイザーの導入	特殊排気	0.12		
		5g.4	直燃式脱臭装置の精留副生液の混合燃焼システムの導入	特殊排気	0.137		
		5g.5	直燃式脱臭装置の待機時温度低下制御の導入	特殊排気	0.001		
		5g.6	スクラバーの排熱回収システムの導入	特殊排気	0.05		
	h.純水供給設備	5h.1	純水ポンプのインバータ制御の導入	純水供給	0.159		
		5h.2	超低圧RO膜の導入	純水供給	0.086		
		5h.3	高効率UV酸化装置の導入	純水供給	0.007		
		5h.4	純水ROブライン回収装置の導入	純水供給	0.12		
		5h.5	純水冷却循環システムの導入	純水供給	0.001		
		5h.6	排熱利用による蒸留式純水製造装置の導入	純水供給	0.039		

III	設備及び事業所の運用に関する事項	i. 場内輸送設備	5i.1	高効率フォークリフトの導入	輸送	0.1		
			5i.2	低燃費車の導入	輸送	0.1		
			5i.3	高効率トランスファークレーンの導入	輸送	0.2		
		j. 追加評価事項	5j.1		全般			
		5・生産・プラント・特殊設備の運用管理	a. 燃料の燃焼	5a.1	燃焼設備の空気比の管理	燃料燃焼	0.016	
				5a.2	燃焼設備の運転台数の調整	燃料燃焼	0.005	
		5a.3		燃料の管理	燃料燃焼	0.001		
		5a.4		燃焼設備の空運転時間の短縮	燃料燃焼	0.005		
		b. 加熱及び冷却並びに伝熱	5b.1	熱媒体の温度・圧力・量の管理	燃焼・熱利用	0.005		
			5b.2	非使用時の蒸気供給バルブの閉止	熱利用	0.005		
			5b.3	被加熱物・被冷却物の装てん方法の調整	燃焼・熱利用	0.01		
			5b.4	炉内被加熱物の温度管理	燃焼・熱利用	0.005		
			5b.5	ヒートパターンの改善	燃焼・熱利用	0.002		
			5b.6	工程間の待ち時間の短縮	燃焼・熱利用	0.001		
			5b.7	複数の加熱等を行う設備の負荷の集約化	燃焼・熱利用	0.005		
			5b.8	断続的な運転を行う設備の運転の集約化	燃焼・熱利用	0.005		
			5b.9	炉内ガス循環の改善	燃焼・熱利用	0.005		
		c. 排熱回収	5c.1	排ガスの排熱回収率の管理	燃料燃焼	0.005		
		d. 断熱・保温	5d.1	燃焼設備・熱利用設備の開閉回数・開閉時間・開口面積の管理	燃焼・熱利用	0.005		
		e. 電動応用設備・電気加熱設備	5e.1	非使用時の電気使用設備の停止	電気使用	0.01	待機設備	
			5e.2	電気炉における被加熱物の装てん方法の調整	電気加熱	0.01		
5e.3	電気炉における炉内被加熱物の温度管理		電気加熱	0.005				
5e.4	エアブローの適正化		圧縮空気	0.03				
5e.5	生産プロセスにおけるポンプ・ブロウ・ファンの間欠運転の実施		電気使用	0.05	生産ブロウ等			
5e.6	電気炉におけるヒートパターンの改善		電気加熱	0.002				
5e.7	電気炉における工程間の待ち時間の短縮		電気加熱	0.001				
5e.8	電解設備の電解効率の改善		電気加熱	0.01				
5e.9	電気加熱設備のタップ切替・ON/OFFの実施		電気加熱	0.015				
f. 特殊空調設備	5f.1	クリーンルームの清浄度の適正化	特殊空調	0.005				
	5f.2	非使用時の特殊空調室の低風量運転の実施	特殊空調	0.013				
	5f.3	冷凍・冷蔵設備冷却器の除霜(デフロスト)の実施	冷凍・冷蔵	0.01				
	5f.4	特殊空調室の温度・湿度設定の緩和	特殊空調	0.02				
	5f.5	特殊空調室の運転時間の短縮	特殊空調	0.01				
	5f.6	特殊空調室の温度・湿度PID制御の調整	特殊空調	0.01				
	5f.7	気流シミュレーションによるクリーンルームの気流改善	特殊空調	0.01				
g. 特殊排気設備	5g.1	特殊排気設備の排気量の適正化	特殊排気	0.047				
	5g.2	非使用時の特殊排気設備の低風量運転の実施	特殊排気	0.077				
h. 純水供給設備	5h.1	純水原水加熱設定温度の適正化	純水供給	0.04				
	5h.2	RO装置等の運転台数の適正化	純水供給	0.01				
	5h.3	UVランプ・UV酸化器の間引き・停止	純水供給	0.023				
	5h.4	製品洗浄待ち時間中のスタンバイブロー低減の実施	純水供給	0.062				
	5h.5	RO装置回収率の適正化	純水供給	0.029				
i. 場内輸送設備	5i.1	燃費の管理	輸送	0.01				
6 守管・生理生産・プラント・特殊設備の保守	a. 燃料の燃焼	6a.1	燃焼設備の定期的な保守・点検	燃料燃焼	0.001			
		6b.1	熱交換器等の定期的な付着物の除去	燃焼・熱利用	0.001			
	c. 排熱回収	6c.1	排熱回収設備の定期的な保守・点検	燃料燃焼	0.001			
		d. 断熱・保温	6d.1	燃焼設備・熱利用設備の定期的な保守・点検	燃焼・熱利用	0.001		
			6d.2	配管の定期的な保守・点検	燃焼・熱利用	0.001		
	6d.3		燃料・製品貯蔵設備の定期的な保守・点検	燃焼・熱利用	0.001			
	e. 電動応用設備・電気加熱設備	6e.1	電動応用設備・電気加熱設備の定期的な保守・点検	電気使用	0.001			
		6e.2	生産プロセスにおけるブロウ・ファンのフィルターの清掃	電動応用	0.001			
	f. 特殊空調設備	6f.1	特殊空調設備の定期的な保守・点検	特殊空調	0.001			
		6f.2	冷凍・冷蔵庫の保温管理	冷凍・冷蔵	0.001			

II 設備及び建物の性能に関する事項	5 ・ 上水道施設の省エネルギー性能	a.共通	5a.1	高効率上水道ポンプの導入	上水道ポンプ	0.096	
			5a.2	上水道ポンプの台数制御の導入	上水道ポンプ	0.112	
			5a.3	上水道ポンプの回転数制御の導入	上水道ポンプ	0.248	
			5a.4	高効率ブロウ・ファンの導入	高度浄水	0.03	
			5a.5	上水道ポンプの翼角制御の導入	上水道ポンプ	0.181	
			5a.6	上水道ポンプのインペラの改良	上水道ポンプ	0.1	
		b.取水・導水工程	5b.1	除じん機の上下流の水位差によるON-OFF制御の導入	取水・導水	0.15	
			5b.2	場内雨水利用の導入	取水・導水	0.001	
		c.沈殿・ろ過工程	5c.1	かくはん装置の回転数制御の導入	沈 殿	0.06	
			5c.2	かくはん装置の低速モータの導入	沈 殿	0.099	
			5c.3	自然平衡形ろ過池の導入	ろ 過	0.4	
		d.高度浄水工程	5d.1	オゾンブロウのインバータ制御の導入	高度浄水	0.049	
		e.排水処理工程	5e.1	天日乾燥と脱水機併用の污泥脱水システムの導入	污泥脱水	0.3	
			5e.2	排熱利用による濃縮污泥加温システムの導入	污泥脱水	0.2	
		III 設備及び事業所の運用に関する事項	5 ・ 上水道施設の運用管理	a.共通	5a.1	水量・水圧の適正化	上水道ポンプ
	5a.2			上水道ポンプ台数制御の適正化	上水道ポンプ	0.01	
b.取水・導水工程	5b.1			除じん機の運転時間・運転間隔の適正化	取水・導水	0.01	
c.沈殿・ろ過工程	5c.1			污泥かき寄せ機の運転時間・運転間隔の適正化	沈 殿	0.01	
	5c.2			污泥排出装置の運転時間・運転間隔の適正化	沈 殿	0.01	
	5c.3			ろ過逆洗・空洗の頻度の適正化	ろ 過	0.013	
d.高度浄水工程	5d.1			膜ろ過の膜洗浄の頻度・時間の適正化	高度浄水	0.01	
	5d.2			オゾン注入量の調整	高度浄水	0.01	
e.排水処理工程	5e.1			污泥濃縮設備の運転時間・運転間隔の適正化	污泥濃縮	0.01	
	5e.2			污泥脱水設備の運転時間・運転間隔の適正化	污泥脱水	0.01	
6 ・ 守 管 理 保	a.共通	6a.1	上水道施設の定期的な保守・点検	全 般	0.009		
		6a.2	ブロウ・ファン等の吸気フィルターの清掃	高度浄水	0.001		
II 設備及び建物の性能に関する事項	5 ・ 下水道施設の省エネルギー性能	a.前処理工程	5a.1	主ポンプの台数制御の導入	主ポンプ	0.112	
			5a.2	高効率主ポンプの導入	主ポンプ	0.096	
			5a.3	主ポンプの回転数制御の導入	主ポンプ	0.12	
			5a.4	スクリーン・揚砂設備の間欠制御の導入	主ポンプ	0.01	
			5a.5	流入水量による池数制御の導入	主ポンプ	0.02	
		b.水処理工程	5b.1	ばっ気用ブロウの台数制御の導入	反応タンク	0.112	
			5b.2	ばっ気用ブロウの回転数制御・インレットベーン制御の導入	反応タンク	0.12	
			5b.3	微細気泡散気装置の導入	反応タンク	0.2	
			5b.4	返送污泥ポンプの台数制御の導入	沈殿池	0.028	
			5b.5	高効率返送污泥ポンプの導入	沈殿池	0.024	
			5b.6	污泥かき寄せ機の間欠制御の導入	沈殿池	0.006	
			5b.7	污泥引き抜きポンプの間欠制御の導入	沈殿池	0.013	
			5b.8	返送污泥ポンプの回転数制御の導入	沈殿池	0.062	
			5b.9	ばっ気用ブロウの送風量制御の導入	反応タンク	0.062	
			5b.10	水中かくはん機の回転数制御の導入	反応タンク	0.002	
			5b.11	水中かくはん機の間欠制御の導入	反応タンク	0.001	
			5b.12	ブロウ管への超音波流量計の導入	反応タンク	0.005	
			5b.13	余剰污泥ポンプの間欠制御の導入	沈殿池	0.013	
			5b.14	軽量チェーン污泥かき寄せ機の導入	沈殿池	0.01	
			5b.15	高効率ばっ気用ブロウの導入	反応タンク	0.15	
			5b.16	スチームタービン駆動ブロウの導入	反応タンク	0.02	
			5b.17	硝化液循環ポンプの台数制御の導入	高度処理	0.022	
			5b.18	硝化液循環ポンプの回転数制御の導入	高度処理	0.05	
		c.污泥処理工程	5c.1	污泥輸送ポンプの台数制御の導入	污泥脱水	0.034	
			5c.2	高効率污泥輸送ポンプの導入	污泥脱水	0.029	
			5c.3	污泥輸送ポンプの回転数制御の導入	污泥脱水	0.074	
			5c.4	高効率污泥脱水装置の導入	污泥脱水	0.07	
			5c.5	高性能フィルターの導入	污泥脱水	0.07	
		d.污泥焼却工程	5d.1	污泥焼却炉等の流動ブロウ・誘引ファンの回転数制御の導入	污泥焼却	0.124	
			5d.2	污泥焼却炉等の炉壁外面温度による断熱強化	污泥焼却	0.019	
			5d.3	污泥焼却炉等の排熱回収システムの導入	污泥焼却	0.15	
			5d.4	污泥焼却炉等の排熱蒸気による暖房利用システムの導入	污泥焼却	0.001	

III 設備及び事業所の運用に関する事項	5 ・下水道施設の運用管理	a.前処理工程	5a.1	主ポンプの高水位運転の実施	主ポンプ	0.03			
		b.水処理工程	5b.1	必要ばっ気圧力に応じた空気供給圧力の管理	反応タンク	0.01			
			5b.2	ろ過装置洗浄工程の適正化	高度処理	0.005			
			5b.3	脱臭空気量の低減の実施	反応タンク	0.002			
			5b.4	スカム除去設備のスカム捕捉効率の管理	沈殿池	0.003			
		c.汚泥処理工程	5c.1	消化タンクの投入汚泥濃度管理・温度管理	汚泥消化	0.003			
			5c.2	脱水汚泥の低含水率化の実施	汚泥焼却	0.025			
		d.汚泥焼却工程	5d.1	汚泥焼却炉等の燃料と空気量の適正化	汚泥焼却	0.016			
			5d.2	汚泥焼却炉等の負荷率の適正化	汚泥焼却	0.005			
			5d.3	汚泥焼却炉等の熱媒体(砂)の温度・量の管理	汚泥焼却	0.003			
5d.4	汚泥焼却炉等の連続運転の実施		汚泥焼却	0.002					
5d.5	汚泥焼却炉等の自然時間拡大の実施		汚泥焼却	0.003					
e.共通	6e.1	下水道施設の定期的な保守・点検	全 般	0.009					
	6e.2	ばっ気用ブロワ・ファン等の吸気フィルターの清掃	反応タンク	0.001					
II 設備及び建物の性能に関する事項	5 ・廃棄物処理施設の省エネルギー性能	a.前処理工程	5a.1	高効率ごみクレーン等の導入	受入供給	0.027			
			5a.2	高効率ごみ投入扉システムの導入	受入供給	0.003			
			5a.3	高効率脱臭ファンの導入	受入供給	0.12			
			5a.4	乾燥機の排熱利用システムの導入	乾 燥	0.1			
			5a.5	乾燥機の高効率バーナーの導入	乾 燥	0.03			
			5a.6	乾燥機の高効率自動乾燥制御装置の導入	乾 燥	0.01			
		b.熱処理工程	5b.1	焼却炉等の自動燃焼装置の導入	燃 焼	0.2			
			5b.2	焼却炉等の排熱回収システムの導入	ガス冷却	0.1			
			5b.3	通風設備の高効率ブロワの導入	通 風	0.15			
			5b.4	燃料式熔融炉の高効率バーナー等の導入	灰熔融	0.03			
			5b.5	電気式熔融炉の最適電力制御の導入	灰熔融	0.03			
			5b.6	高効率排熱ボイラーの導入	ガス冷却	0.01			
			5b.7	排熱ボイラーの低温エコマイザーの導入	ガス冷却	0.005			
			5b.8	通風設備のブロワの回転数制御の導入	通 風	0.12			
			5b.9	焼却炉等の高効率断熱炉体の導入	燃 焼	0.02			
			5b.10	焼却炉等における炉体のボイラー化	燃 焼	0.02			
			5b.11	減温塔の最適水噴霧制御の導入	ガス冷却	0.01			
			5b.12	通風設備の蒸気タービン駆動ブロワの導入	通 風	0.1			
			5b.13	通風設備の高効率蒸気式空気予熱器の導入	通 風	0.15			
			5b.14	炉室内の最適換気制御システムの導入	通 風	0.005			
		c.後処理工程	5c.1	コンベアのインバータ制御の導入	灰出し	0.1			
			5c.2	飛灰固化装置のインバータ制御の導入	灰出し	0.1			
			5c.3	排ガス処理用触媒反応塔への低温触媒の導入	排ガス処理	0.002			
			5c.4	白煙防止用空気加熱器の空気量制御の導入	排ガス処理	0.002			
			5c.5	加熱脱塩素化装置の最適温度制御の導入	灰出し	0.05			
		III に 関 する 事 項	5 の 運 用 管 理 施 	a.前処理工程	5a.1	脱臭ファンの運転時間短縮の実施	受入供給	0.03	
				b.熱処理工程	5b.1	焼却炉等の燃料と空気量の適正化	燃 焼	0.016	
					5b.2	通風設備の送風量の適正化	通 風	0.005	
					5b.3	発電用蒸気量の調整	ガス冷却	0.05	
		c.後処理工程	5c.1	ろ過式集じん装置のヒーター温度制御の適正化	排ガス処理	0.01			
d.共通	6d.1	廃棄物処理施設の定期的な保守・点検	全 般	0.005					

備考 II 5j.1 生産・プラント・特殊設備の省エネルギー性能の追加評価事項の省エネルギー率は、小数点以下5位未満の数値を四捨五入して得た数値とする。

$$\text{省エネルギー率} = E_R / E_T$$

これらの式において、 E_R 、 E_T は、それぞれ次の数値を表すものとする。

E_R 前年度の生産・プラント・特殊設備の省エネルギー性能の追加評価事項による年間一次エネルギー削減量実績値(単位 ギガジュール/年)

E_T 前年度の事業所全体のエネルギー消費先別の一次エネルギー消費量実績値の合計値(単位 ギガジュール/年)

別表第7

用途名	含まれる用途	外皮熱負荷 原単位 [MJ/m ² ・年]
事務所	事務室、会議室、図書室、研究室 等	100
食堂・厨房	食堂、レストラン、喫茶店、厨房 等	100
電算室	電算室、サーバー室、コンピューター室、CPU室、マシン室 等	100
工場・プラント(空調)	工場、プラント、実験室、試験室 等のうち、大半に空調設備のある建屋	100
工場・プラント(換気)	工場、プラント、実験室、試験室 等のうち、大半が換気設備で空調設備がない建屋、倉庫、エネルギーセンター 等	—
冷凍・冷蔵庫	冷凍庫、冷蔵庫、冷凍冷蔵倉庫 等	100
特殊空調室	クリーンルーム、恒温恒湿室、変温室、動物実験室、バイオハザード 等	100

別表第8

適用範囲補正係数略称	適用範囲補正係数
熱源2次ポンプ	熱源ポンプ総電動機出力に占める熱源2次ポンプ総電動機出力の割合 $= E_2 / E_T$ この式において、 E_T 、 E_2 は、それぞれ次の数値を表すものとする。 E_T 熱源ポンプ総電動機出力 E_2 熱源2次ポンプ総電動機出力
熱源1次ポンプ	熱源ポンプ総電動機出力に占める熱源1次ポンプ総電動機出力の割合 $= E_1 / E_T$ この式において、 E_T 、 E_1 は、それぞれ次の数値を表すものとする。 E_T 熱源ポンプ総電動機出力 E_1 熱源1次ポンプ総電動機出力
冷却水ポンプ	熱源ポンプ総電動機出力に占める冷却水ポンプ総電動機出力の割合 $= E_C / E_T$ この式において、 E_T 、 E_C は、それぞれ次の数値を表すものとする。 E_T 熱源ポンプ総電動機出力 E_C 冷却水ポンプ総電動機出力
事務所外皮	事業所全体に占める事務所の建物外皮熱負荷の割合 $= Q_O / Q_T$ この式において、 Q_T 、 Q_O は、それぞれ次の数値を表すものとする。 Q_T 事業所全体の建物外皮からの熱負荷を処理するためのエネルギー消費量 Q_O 事務所の建物外皮からの熱負荷を処理するためのエネルギー消費量
事務室	延床面積に占める事務室の床面積の割合 $= A_O / A_T$ この式において、 A_T 、 A_O は、それぞれ次の数値を表すものとする。 A_T 延床面積 A_O 事務室の床面積
通風装置燃料	燃焼設備総定格燃料消費量に占める通風装置のあるものの割合 $= E_F / E_T$ この式において、 E_T 、 E_F は、それぞれ次の数値を表すものとする。 E_T 燃焼設備総定格燃料消費量 E_F 通風装置のある燃焼設備総定格燃料消費量
通風装置電気	電動力応用設備総電動機出力に占める通風装置総電動機出力の割合 $= E_F / E_T$ この式において、 E_T 、 E_F は、それぞれ次の数値を表すものとする。 E_T 電動力応用設備総電動機出力 E_F 通風装置総電動機出力
複数電動機	電動力応用設備総電動機出力に占める複数の電動機を使用するものの割合 $= E_P / E_T$ この式において、 E_T 、 E_P は、それぞれ次の数値を表すものとする。 E_T 電動力応用設備総電動機出力 E_P 複数の電動機を使用する電動力応用設備総電動機出力
電気溶接機	電気加熱設備総定格消費電力に占める電気溶接機総定格消費電力の割合 $= E_W / E_T$ この式において、 E_T 、 E_W は、それぞれ次の数値を表すものとする。 E_T 電気加熱設備総定格消費電力 E_W 電気溶接機総定格消費電力
成型機	電動力応用設備総電動機出力に占める成型機総定格消費電力の割合 $= E_C / E_T$ この式において、 E_T 、 E_C は、それぞれ次の数値を表すものとする。 E_T 電動力応用設備総電動機出力 E_C 成型機総定格消費電力
クレーン	電動力応用設備総電動機出力に占めるクレーン総電動機出力の割合 $= E_C / E_T$ この式において、 E_T 、 E_C は、それぞれ次の数値を表すものとする。 E_T 電動力応用設備総電動機出力 E_C クレーン総電動機出力
生産ポンプ	電動力応用設備総電動機出力に占める生産プロセス用ポンプ総電動機出力の割合 $= E_P / E_T$ この式において、 E_T 、 E_P は、それぞれ次の数値を表すものとする。 E_T 電動力応用設備総電動機出力 E_P 生産プロセス用ポンプ総電動機出力
生産ブロワ等	電動力応用設備総電動機出力に占める生産プロセス用ブロワ・ファン総電動機出力の割合 $= E_F / E_T$ この式において、 E_T 、 E_F は、それぞれ次の数値を表すものとする。 E_T 電動力応用設備総電動機出力 E_F 生産プロセス用ブロワ・ファン総電動機出力
待機設備	電気使用設備総定格消費電力に占める待機状態があるものの割合 $= E_S / (E_{T1} + E_{T2})$ この式において、 E_{T1} 、 E_{T2} 、 E_S は、それぞれ次の数値を表すものとする。 E_{T1} 電動力応用設備総電動機出力 E_{T2} 電気加熱設備総定格消費電力 E_S 待機状態のある電気使用設備総定格消費電力